

名古屋市がん対策アンケート調査

調査報告書

<要約版>

2016年9月

名古屋市健康福祉局健康増進課

【目次】

I : 調査概要	2
※がん対策の状況（まとめ）	5
II : 調査結果	7
①市民アンケート	7
1 : 回答者のプロフィール	7
2 : がんの知識	8
3 : がんの予防	8
4 : がん検診について	10
5 : がんの情報について	16
6 : 名古屋市のがん対策について	19
7 : がんの経験	21
②企業	22
1 : 回答者のプロフィール	22
2 : がん予防の取り組み	23
3 : がん検診について	24
4 : がん患者への支援体制	27
5 : 社内におけるがん罹患状況の実態	30
6 : がん対策の課題	33
③協会けんぽ被扶養者	36
1 : 回答者のプロフィール	36
2 : がんの知識	36
3 : がん検診について	37
4 : 特定健康診査について	40
5 : 特定保健指導について	42
④がん患者	43
1 : 回答者のプロフィール	43
2 : 回答者（がん患者）のプロフィール	43
3 : がん医療・がん患者の支援について	46
4 : 仕事と治療の両立について	57
5 : 子育て・介護・家事と治療の両立について	65
6 : 名古屋市のがん対策について	69
⑤病院	71
1 : 患者からの悩み相談	71
2 : 患者会やサロンの開催	72
3 : ピアサポートについて	73
4 : 名古屋市のがん対策について	74

I：調査概要

1 調査の概要

(1)調査の背景

平成 18 年にがん対策基本法が成立した後、名古屋市では、平成 24 年 3 月に「がん対策推進条例」を制定し、がんの予防や早期発見をはじめ、医療水準の向上、がん患者の支援など、市をあげてがん対策に取り組んできたところである。

500 円で受診できるワンコインがん検診や無料クーポン券の交付などにより、がん検診受診率向上に取り組んでいるほか、常設型のがん相談・情報サロンの運営、小学 6 年生と中学 3 年生を対象とした学習補助教材の配布、さらに平成 28 年度からは、仕事と治療の両立支援など、社会的な要請に対応するための取り組みを進めている。

一方で、条例制定から 4 年余りが経過する中、がんに関して、新たに様々な課題が生じ、あるいは課題が表出しているところである。医療の進歩によりがん患者の生存率が向上し、がん患者やがん経験者が増加する中、仕事と治療の両立支援のほか、高齢がん患者の在宅療養、高齢者やAYA世代、小児までの幅広い世代のがん患者支援など、新たな課題を踏まえながら、施策を検討する必要がある。

(2)調査の目的

名古屋市のがん対策をさらに推進するため、がんに関する現在の状況を把握し、課題を整理することを目的として調査を実施する。

(3)調査の種類

本調査では、がん対策推進条例の各条文について検証するため、調査対象を以下の 5 種類に分けて実施した。

①	市民一般	名古屋市在住の 20 歳以上の男女
②	企業	名古屋市に拠点を置く企業
③	協会けんぽ被扶養者	全国健康保険協会(協会けんぽ)の被扶養者
④	がん患者	外来診療がん患者
⑤	医療機関	名古屋市内のがん診療連携拠点病院およびがん診療拠点病院 上記以外の病床数 200 床以上の病院

(4)各調査の内容

①市民アンケート(市民一般)

質問内容 : がん予防の推進等(5条)、がんの早期発見の推進(6条)、がん情報
収集および提供(11条)、その他全般

質問数 : 32問

調査方法 : 郵送配布(回収率向上の為、リマインドハガキを送付)→郵送回収

対象者抽出 : 20歳以上の男女を住民基本台帳から無作為抽出

配布数 : 8,000人

調査期間 : 郵送6月10日～6月30日返送分まで

②企業

質問内容 : がんの早期発見の推進(6条)、がん患者の支援(10条)等

質問数 : 21問

調査方法 : 郵送配布(回収率向上の為、リマインドハガキを送付)→郵送回収

対象者抽出 : 名古屋商工会名簿から無作為抽出

配布数 : 1,000社

調査期間 : 郵送6月10日～6月30日返送分まで

③協会けんぽ被扶養者

質問内容 : がんの早期発見の推進(6条)と特定健診、クーポン券の効果検証等

質問数 : 11問

調査方法 : 郵送配布(回収率向上の為、リマインドハガキを送付)→郵送回収

対象者抽出 : 協会けんぽ愛知支部から名古屋市在住の被扶養者を無作為抽出

配布数 : 3,000人

調査期間 : 郵送6月10日～6月30日返送分まで

④がん患者

質問内容 : がん医療水準の向上(7条)、緩和ケアの充実(8条)、
在宅医療の充実(9条)、がん患者の支援(10条)等

質問数 : 33問

調査方法 : 病院にて調査票配布→回収、その場で記入できない場合は後日郵送回収

対象者抽出 : 名古屋市立大学病院、愛知県がんセンター中央病院、名古屋市立西部医療センター
に通院する外来のがん患者等

配布数 : 1,728人

調査期間 : 病院での調査7月11日～7月28日

⑤病院

質問内容：がん医療水準の向上（7条）、緩和ケアの充実（8条）、在宅療養の充実（9条）、がん患者等の支援（10条）

質問数：5問

対象病院：名古屋市内のがん診療連携拠点病院及びがん診療拠点病院（11施設）
病床数200床以上の病院（11施設）計22施設

(5)回収率

	配布数	回収数	回収率
① 市民一般	8,000	3,921	49.0%
② 企業	1,000	568	56.8%
③ 協会けんぽ被扶養者	3,000	1,581	52.7%
④ がん患者	1,728	1,600	92.6%
⑤ 医療機関	22	22	100.0%

(6)報告書の表記について

- ・ 本報告書中の図表の数字は、回答者数を母数にした比率を表す。
- ・ 表示した比率は小数点以下第2位で四捨五入しているため、表示した比率の合計が100.0%にならない場合がある。また、図表中の小計の比率は、個々の選択肢の比率の合計した数値と異なる場合がある。
- ・ 複数回答の図または表は[MA]または【複数回答】と表示し、複数回答の比率の合計は100.0%を超える。また複数回答のうち「回答3つまで」などの回答数が3つに限定されているものは[3MA]または【3MA】と表示する。
- ・ 図表の表側の性別、年齢別などの基本属性で、1人など少数の回答者の場合は表示していない場合があり、そのため人数の合計は全体と異なる場合がある。
- ・ 表中の「N」は全体を表す母数を、nはサンプル数を表している。

※がん対策の状況(まとめ)

(1)市民・協会けんぽ被扶養者

がんに対する理解

- ・市民全体の5割以上が、日頃からがん予防を心がけている
- ・がんの知識として8割以上の市民が、たばこががんの関わりや、以前より生存率が高くなっていることについて理解している。一方で日本では2人に1人が生涯でがんにかかる事の認知率が、市民全体の3割、協会けんぽ被保険者全体の4割弱と低く、特に市民の20代、30代といった若年層の認知が低かった。
- ・また、子宮頸がん、肝がんといったがんの原因となるウィルス等についての認知が低い。

がん検診について

- ・8割以上が、「がんを早期発見するためには、がん検診を定期的に受けることが有効である」ことを認知している。
- ・がん検診を受診しない理由は、「忙しくて時間がないから」、「面倒だから」が多い。
- ・名古屋市の実施しているがん検診施策の認知率は、
 - 「ワンコイン検診の実施」は市民全体の6割、協会けんぽ被扶養者全体の8割。
 - 「がん検診ガイドの配布」は市民全体の3割以上、協会けんぽ被扶養者全体の5割。
 - 「無料クーポン券の配布」は市民全体の4割以上、協会けんぽ被扶養者全体の7割。
- ・昨年度のがん検診受診者は市民全体の3割以上、協会けんぽ被扶養者全体の5割であった。また無料クーポン配布対象者は全体よりも高い6割が受診しており、クーポン配布による受診率向上の効果があつた。
- ・がん検診受診のきっかけは「自身の健康管理のため」が市民全体の5割、協会けんぽ被保険者全体の4割と最も高かった。無料クーポン配布対象者の8割弱が無料クーポンを受診のきっかけとしているなど、ワンコインがん検診と無料クーポン券をきっかけとした受診も一定以上ある。

(2)企業

がんの予防について

- ・社員に対してがん予防の働きかけを行っているのは全体で3割程度、がん検診受診の働きかけを行っているのは全体で5割程度であった。
- ・小規模の企業において、がん予防やがん検診の取り組みを行っている割合が少ない。

仕事と治療の両立について

- ・がんを含めた私傷病に罹患した社員に対して、6割以上の企業が仕事上の配慮をしている。
- ・小規模の企業においては、罹患した社員に対して仕事上の配慮をしている割合が全体よりも低い。

(3)がん患者

悩みについて

- ・「がんについて現在、悩みがある」と回答したのは、全体の約半数、40歳未満では7割以上と高く、悩みの内容は、「精神的な悩み」や「治療中や治療後の症状」が多い。また、「経済的な悩み」や「仕事についての悩み」は、40歳未満の若い世代が多い。

必要な情報について

・7割以上が、がんやがんの治療について必要な情報が得られていると回答した。

仕事と治療の両立について

- ・診断時に働いていた者のうち、診断後に離職又は転職し、仕事を継続しなかった者は約3割であった。
- ・仕事と治療の両立について相談できる制度や窓口は、5割以上が「なかった」と回答した。

子育てや介護、家事と治療の両立について

- ・がんと診断されたときの世帯の状況は、「単身高齢者」と「高齢者の夫婦のみ」が2割、「中学生以下の子どもがいた」が1割、「介護や介助が必要な家族がいた」が2割であった。
- ・女性のがん患者の約3割が、子育てや介護、家事と治療の両立について悩んだことや困難であったことが「あった」と回答している。また、子育てや介護、家事と治療の両立について相談できる制度や窓口は、5割以上が「なかった」と回答した。

(4) 病院

- ・患者会やサロンをがん種別に実施している病院は少ない。
- ・患者からの悩みとしては、療養先の選択や介護保険サービス等の使い方などのほか、通院治療や在宅療養についての悩み、仕事と治療の両立や経済的なことが多い。
- ・対応における課題としては、関係機関との連携や、相談窓口の情報の不足があげられる。
- ・患者会やサロンは、14病院が実施しているが、がん種別に実施しているのは5病院のみで、内訳は乳房のほか、大腸、胃、甲状腺がある。

(5) 各調査の名古屋市へ充実すべきがん対策の要望まとめ

各調査ごとの名古屋市への要望上位

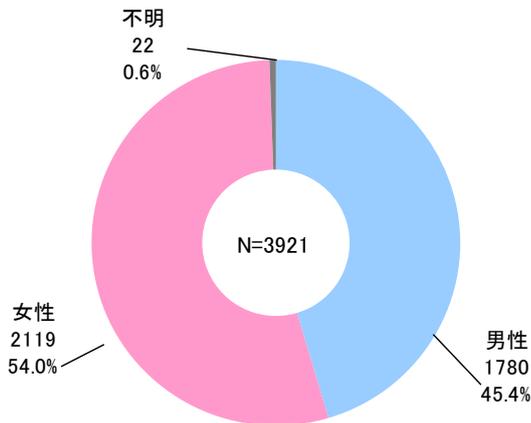
	1位		2位		3位	
市民 N=3921	がん検診に関する受診勧奨や情報提供の充実	33.9%	がんの治療や医療機関に関する相談体制や情報提供の充実	30.8%	子どもの頃からのがん学習(がんを予防するための生活習慣など、がんについての正しい知識を身につけるための学習)の充実	28.9%
企業 N=568	仕事と治療の両立を支援する取り組みの充実	45.4%	がん検診に関する受診勧奨や情報提供の充実	35.9%	喫煙対策の充実	25.9%
患者 N=1374	がんの治療や医療機関に関する相談体制や情報提供の充実	25.6%	がん検診に関する受診勧奨や情報提供の充実	24.7%	仕事と治療の両立を支援する取り組みの充実	19.9%
					食生活、運動習慣などのがん予防に関する啓発	19.9%
病院 N=22	仕事と治療の両立を支援する取り組みの充実	77.3%	通院や在宅療養を支援する取り組みの充実	68.2%	緩和ケアへの取り組みの充実	63.6%
					介護と治療の両立を支援する取り組みの充実	63.6%

II：調査結果 ①一般市民

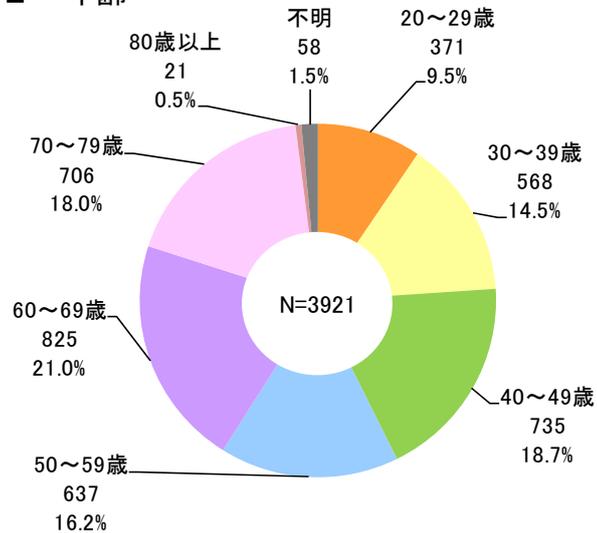
1：回答者のプロフィール

(1) 性別と年齢

問1 性別



問2 年齢



(2) 居住地

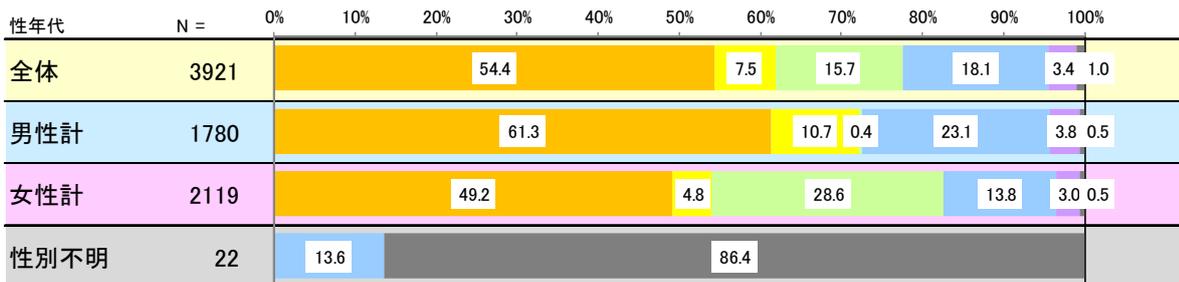
問3 居住地

		調査数	千種区	東区	北区	西区	中村区	中区	昭和区	瑞穂区	熱田区	中川区	港区	南区	守山区	緑区	名東区	天白区	不明	
全体		3921	277	121	267	271	225	111	178	199	120	358	233	250	298	439	265	286	23	
性別	男性	1780	110	52	134	117	112	47	78	83	46	175	116	116	136	205	114	137	2	
	女性	2119	167	69	133	154	113	64	100	116	74	183	116	132	162	234	151	149	2	
	性別不明	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	19	
			上段:実数 下段:%																	

(3) 就労状況

問4 就労状況

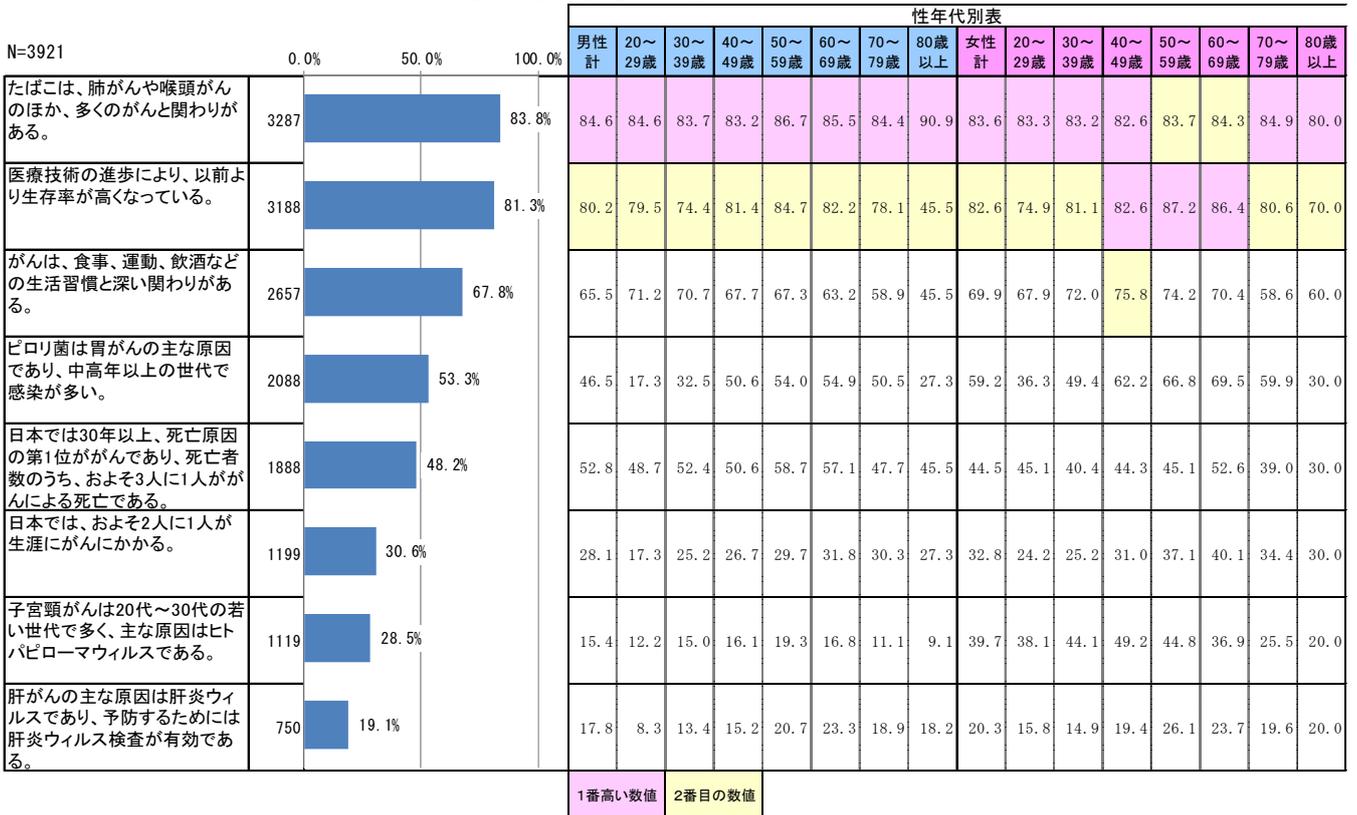
- 企業等で雇用されている(パートやアルバイトを含む)
- 個人事業主(自営業)として働いている
- 専業主婦(夫)
- 働いていない
- その他
- 不明



2:がんの知識

問5 がんについて知っていることを教えてください。【複数回答】

- ・8割以上の市民が、たばこががんの関わりや、以前より生存率が高くなっていることについて理解している。一方で、2人に1人が生涯にがんにかかることや、子宮頸がん、肝がんといったがんの原因となるウイルス等については認知度が低い。
- ・子宮頸がんの知識については、女性でも39.7%と低い上、注意が必要な20代女性も38.1%と低い。
- ・肝がんの知識については19.1%と認知度が最も低い。

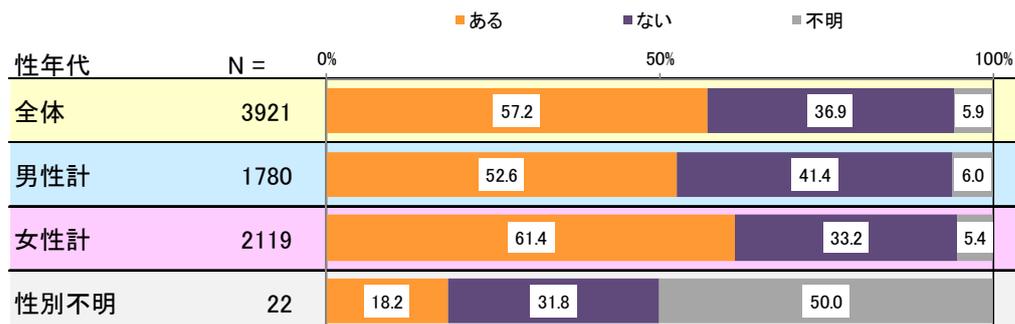


3:がんの予防

(1) がん予防の心がけ

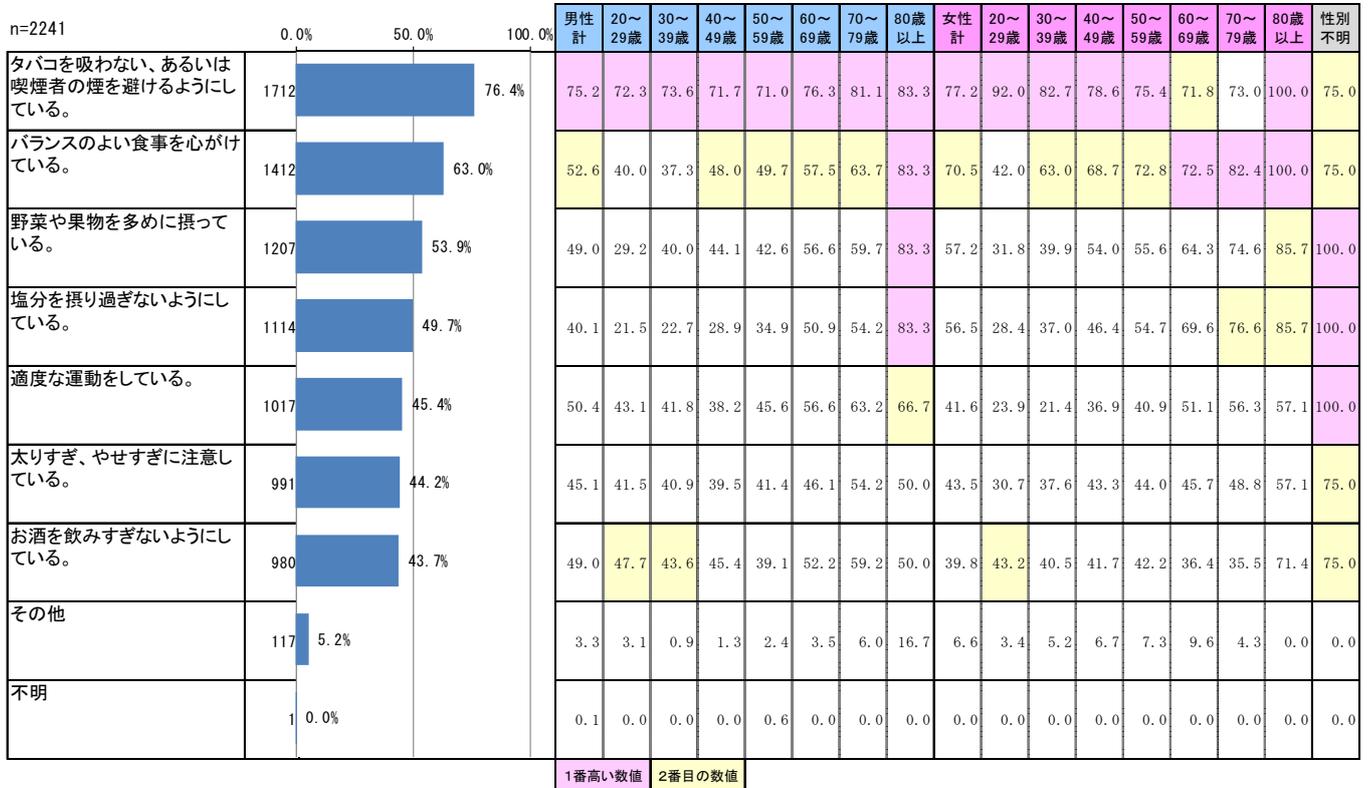
問6 がんの予防のために日頃心がけていることはありますか？

- ・がん予防のために日頃心掛けていることについて、全体の約6割が「ある」と回答している。
- ・男女別では女性が61.4%と男性の52.6%に比べ「ある」割合が高い。



(問6で「ある」と答えた方) ある場合、それはどのようなことですか【複数回答】

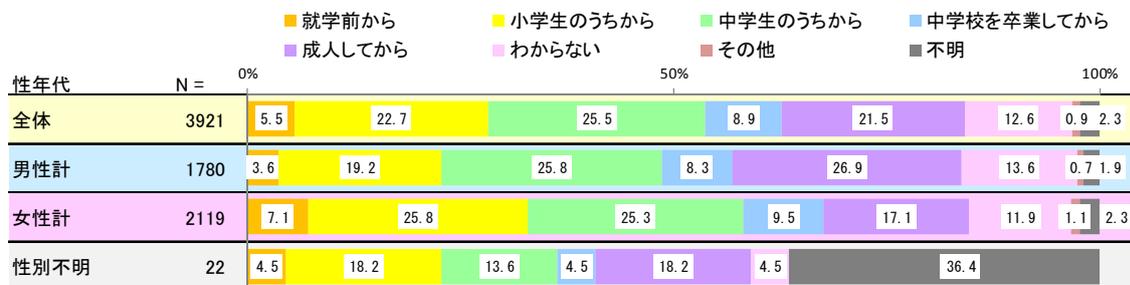
- ・喫煙に関する心がけは76.4%の人が行っており、20代女性では92.0%が喫煙を避けている。
- ・「バランスのよい食事」「塩分」「野菜や果物の摂取」と言った食生活に関する心がけは、男女ともに年齢層が高くなるほど心がける人の割合が高くなっている。



(2) がん予防の啓発時期

問7 がんを予防するための生活習慣など、がんについての正しい知識を身につけるために、何歳ごろから啓発すべきだと思いますか？

- ・啓発時期について、全体の約半数(48.2%)が「小学校」、「中学校」を合わせた義務教育期間となっており、「成人してから」の回答が21.5%で続いている。

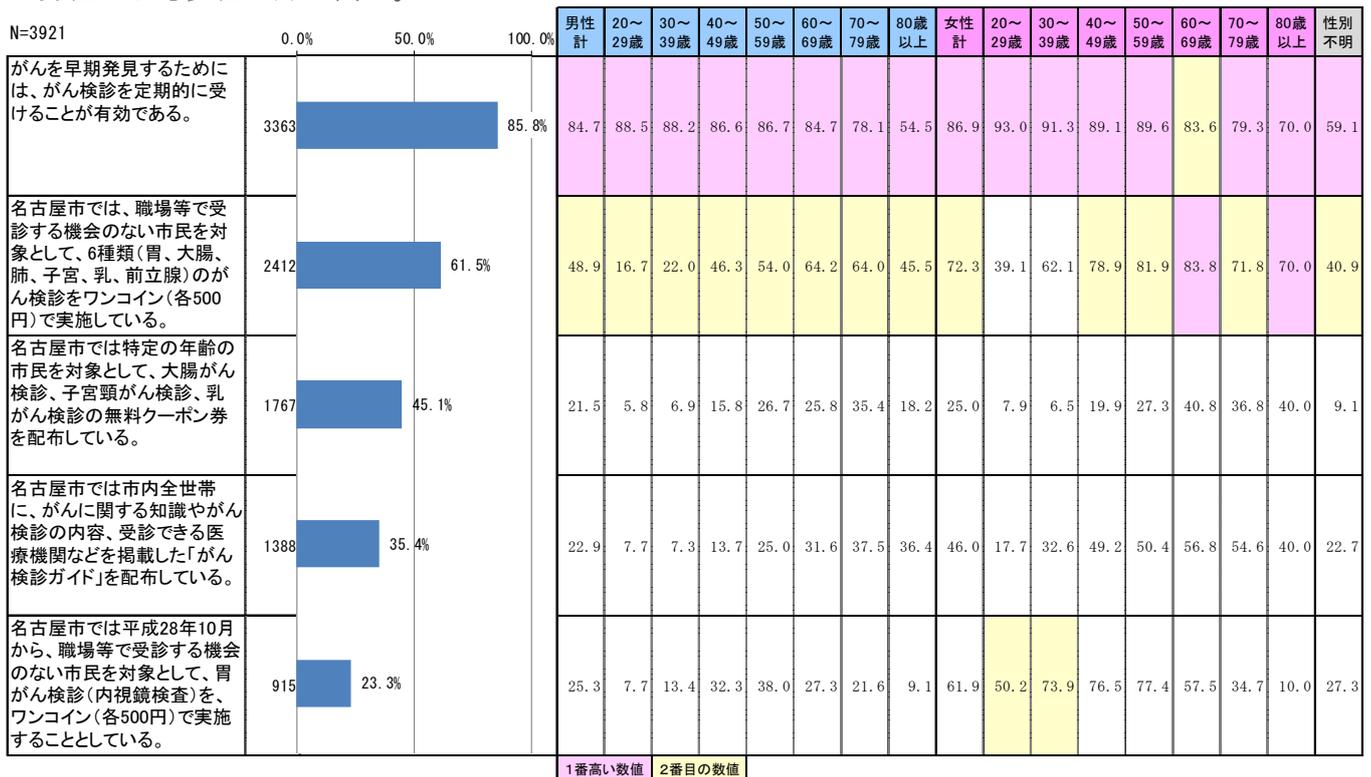


4:がん検診について

(1) がん検診に対する知識

問8 がん検診について知っていることを教えてください。【複数回答】

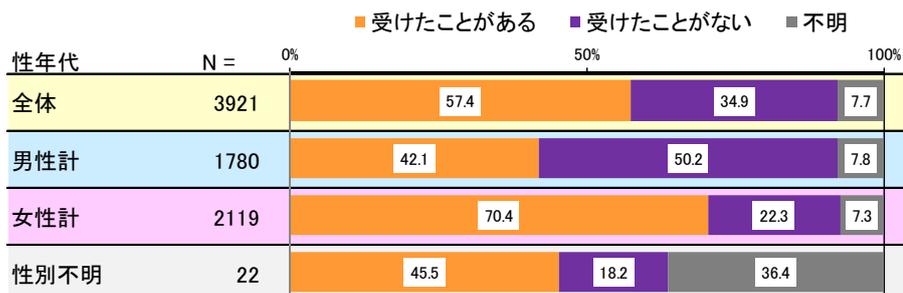
- ・がん検診の有効性は男女ともに8割以上が認知している。
- ・名古屋市で行っているがん検診施策の認知において「ワンコイン検診の実施」(61.5%)、「検診無料クーポン券配布」(45.1%)と比べ、「がん検診ガイドの配布」は35.4%と低い。
- ・「ワンコイン検診の実施」、「検診無料クーポン券配布」、「がん検診ガイドの配布」の認知は男性よりも女性の方が高い。



(2) がん検診の受診経験

問9 あなたは今までに、がん検診を受けたことが有りますか？

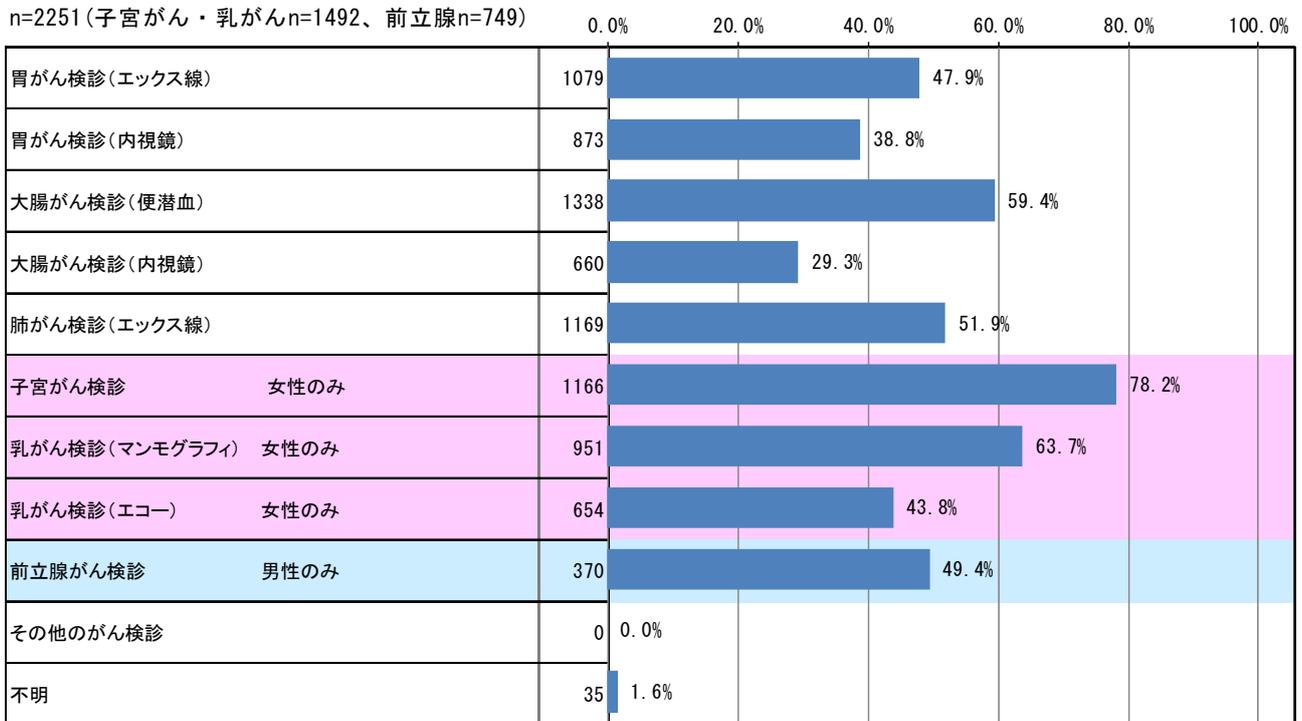
- ・がん検診の受診経験は、全体で「受けたことがある」57.4%と半数以上が受診している。
- ・がん検診の受診経験は男性(42.1%)よりも女性(70.4%)の方が高くなっている。



(3) 今までに受診したがん検診の種類

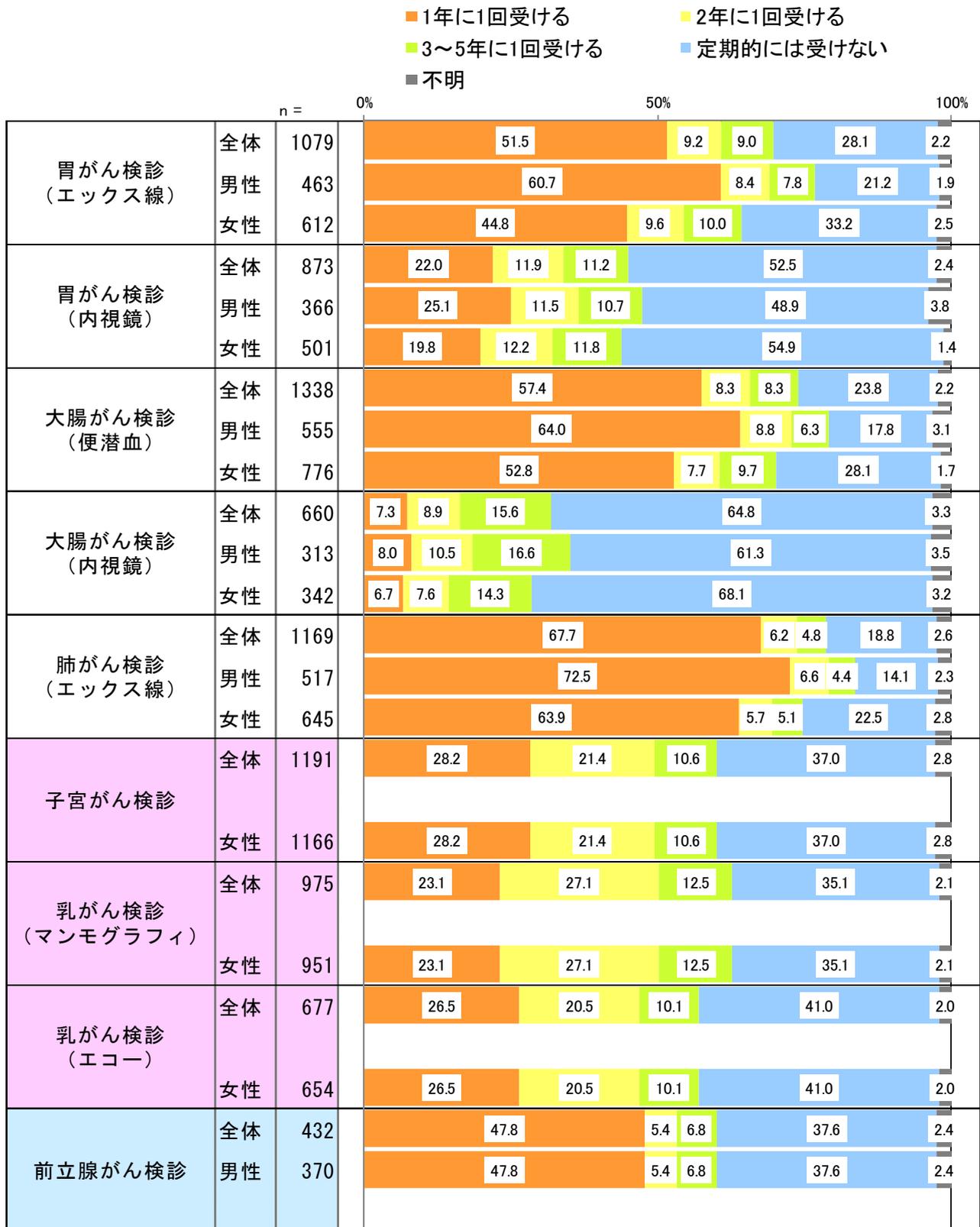
(問9で受けたことがある」と回答の方) 今までに受けたがん検診【複数回答】

- ・今までに受診したがん検診の種類としては「子宮がん」や「乳がん(マンモグラフィ)」といった女性が関係するがんの検診の受診経験の割合が高い。



各がん検診の受診頻度

・「胃がん（エックス線）」、「大腸がん（便潜血）」、「肺がん（エックス線）」の各検診は半数以上が毎年検診を受けている。

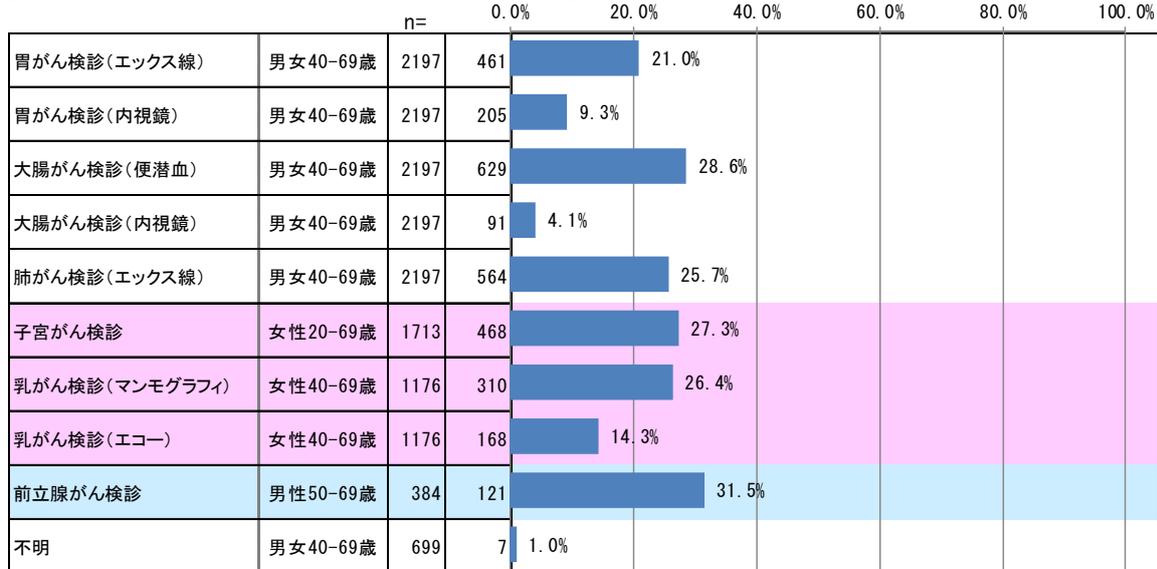


(4) 昨年度のがん検診受診状況

問10 あなたは昨年度(平成27年4月～平成28年3月)にがん検診を受けましたか
(問10で受けたことがある)と回答の方) 昨年度受けたがん検診【複数回答】

・昨年度の各がん検診について、受診対象者の受診率は、前立腺がんが31.5%と最も高く、胃がん(エックス線)、大腸がん(便潜血)、肺がん(エックス線)、子宮がん、乳がん(マンモグラフィ)といった、ワンコイン検診やクーポン配布対象のがん検診受診率は2～3割であった。

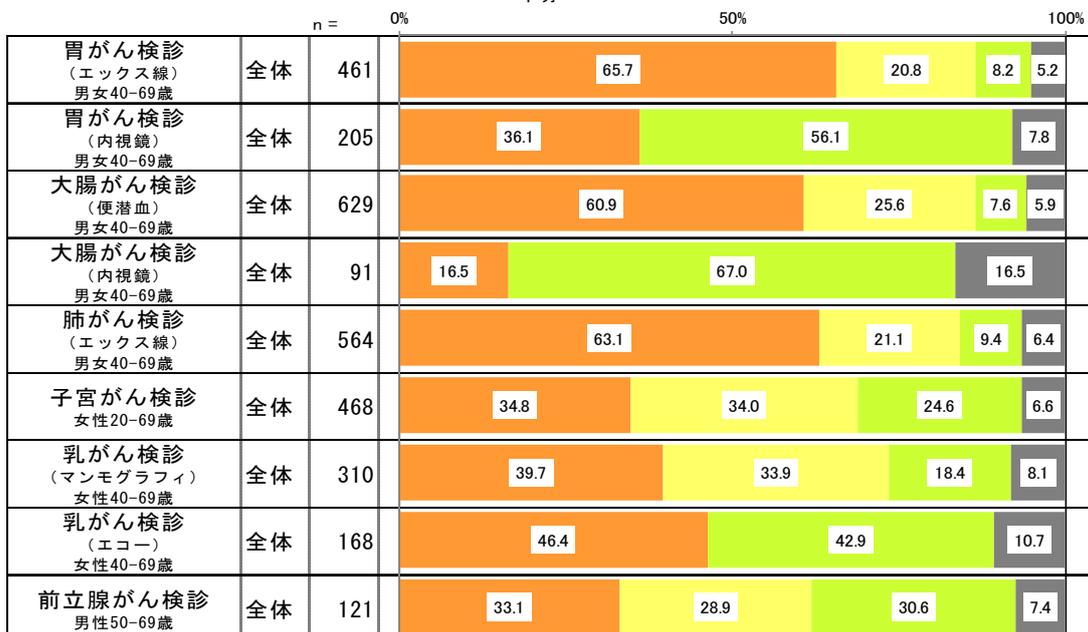
昨年度の各がん検診の受診率(母数：受診対象の性年齢全体)



各がん検診の種類

- ・「胃がん(エックス線)」や「大腸がん(便潜血)」、「肺がん(エックス線)」といった受診率が高いがん検診は、「勤務先の提供しているがん検診や人間ドック」で受けるのが半数以上かつ、名古屋市でも検診を受けている。
- ・「胃がん(内視鏡)」や「大腸がん(内視鏡)」といった内視鏡の検診は勤務先の提供が少ない上、名古屋市でも実施していないため、半数以上が自費での受診をしている。

- 本人や家族の勤務先が提供しているがん検診や人間ドック
- 名古屋市のがん検診
- 自分で(自費で)医療機関で受けたがん検診や人間ドック
- 不明

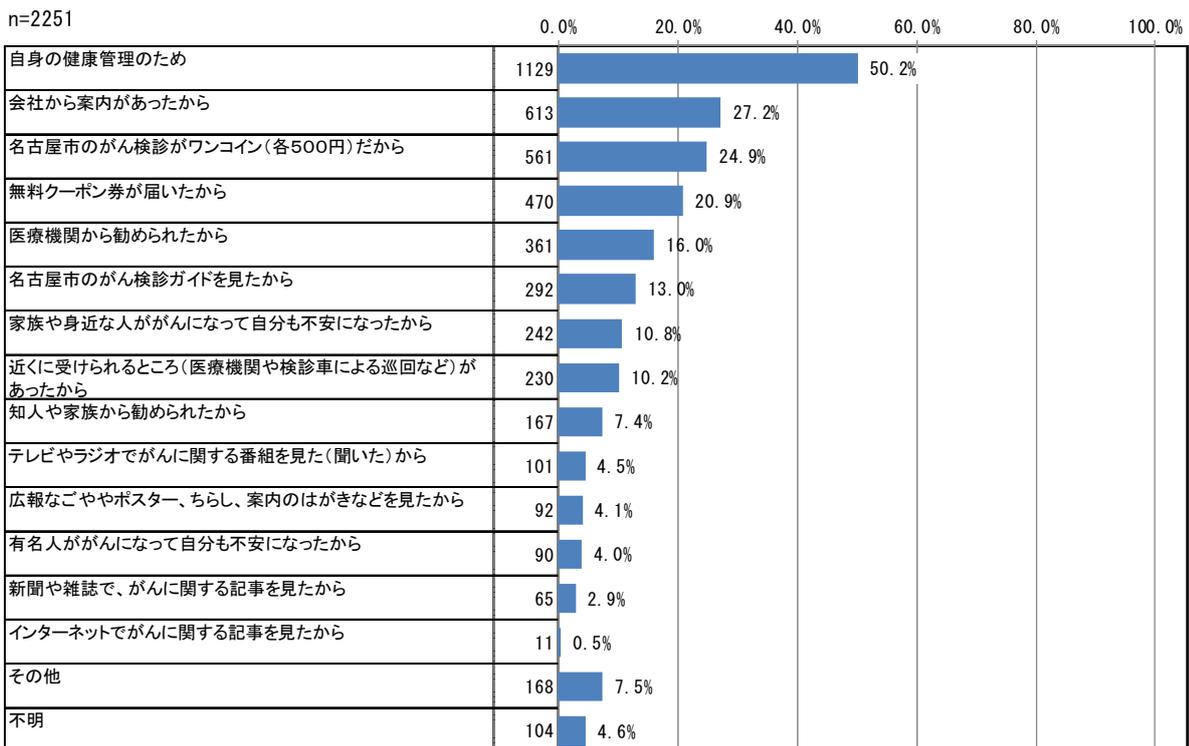


(5) がん検診受診のきっかけ

(問9で「受けたことがある」と回答の方)

問11 がん検診を受診したことがある方にお尋ねします。がん検診を受診したきっかけを教えてください。【複数回答】

- ・がん検診の受診のきっかけとして、「健康管理」が50.2%で最も高い。
- ・性別で見ると「健康管理」に続き、女性は「クーポン」、「ワンコイン」、男性は「会社からの案内」、「ワンコイン」の順に多い。
- ・「有名人」、「テレビやラジオ」、「新聞や雑誌」などのマスコミの影響は少ない。



性年代別表

	調査数	%																	
		自身の健康管理のため	名古屋市のがん検診方	ワンコイン(各500円)だから	無料クーポン券が届いたから	はがきなどを見たから	広報なごやポスター、ちらし、案内の	あつたから	近くに受けられるところ(医療機関や検診車による巡回など)があったから	知人や家族から勧められたから	医療機関から勧められたから	会社から案内があったから	自分も不安になったから	家族や身近な人ががんになったから	(聞いた)から	テレビやラジオでがんに関する番組を見た(聞いた)から	新聞や雑誌で、がんに関する記事を見たから	らにインターネットを見たかん	その他
全体	2251	50.2	13.0	24.9	20.9	4.1	10.2	7.4	16.0	27.2	4.0	10.8	4.5	2.9	0.5	7.5	4.6		
男性計	749	49.5	12.3	20.3	7.2	3.3	7.9	5.3	16.4	35.2	1.1	7.7	2.4	2.0	0.5	6.1	5.6		
男性20~29歳	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0		
男性30~39歳	24	25.0	0.0	4.2	0.0	0.0	0.0	12.5	4.2	54.2	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	8.3	4.2		
男性40~49歳	135	45.2	5.2	12.6	9.6	0.7	4.4	6.7	4.4	57.8	0.7	8.9	0.7	1.5	0.7	5.2	5.2		
男性50~59歳	165	50.3	7.3	12.1	6.7	1.2	2.4	3.6	8.5	52.1	0.6	7.3	1.8	0.6	0.7	7.3	2.4		
男性60~69歳	219	52.1	14.6	26.9	5.5	5.0	10.0	6.4	20.1	29.2	0.9	6.4	2.3	1.8	0.9	5.5	6.4		
男性70~79歳	194	52.6	20.1	27.3	9.3	5.7	13.9	4.1	28.9	9.8	1.5	8.8	3.6	3.1	0.0	5.2	7.7		
男性80歳以上	5	60.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	20.0	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0	20.0	0.0		
女性計	1492	50.3	13.4	27.3	27.8	4.4	11.5	8.5	15.8	23.3	5.5	12.3	5.6	3.4	0.5	8.2	4.0		
女性20~29歳	93	35.5	4.3	22.6	35.5	2.2	7.5	11.8	21.5	15.1	2.2	7.5	2.2	1.1	1.1	9.7	4.3		
女性30~39歳	248	41.1	3.2	16.1	36.3	1.2	7.7	6.5	15.3	22.2	9.7	9.7	5.2	1.6	0.0	15.7	2.0		
女性40~49歳	335	57.0	11.3	29.6	34.9	1.5	7.5	11.3	11.6	34.6	10.4	10.4	4.5	2.7	0.9	6.0	2.4		
女性50~59歳	273	53.8	15.8	30.0	33.3	3.7	11.4	9.2	13.6	33.3	4.0	12.8	6.2	3.3	0.4	7.7	2.6		
女性60~69歳	310	50.0	15.5	35.5	19.4	8.7	16.8	10.0	16.8	18.7	1.3	16.8	5.5	3.9	0.0	7.1	5.8		
女性70~79歳	213	53.1	27.2	24.9	9.4	8.0	16.9	2.3	21.1	5.2	2.3	14.6	8.5	5.6	0.5	5.2	8.5		
女性80歳以上	5	60.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0		
性別不明	10	70.0	0.0	10.0	10.0	10.0	0.0	0.0	30.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0		

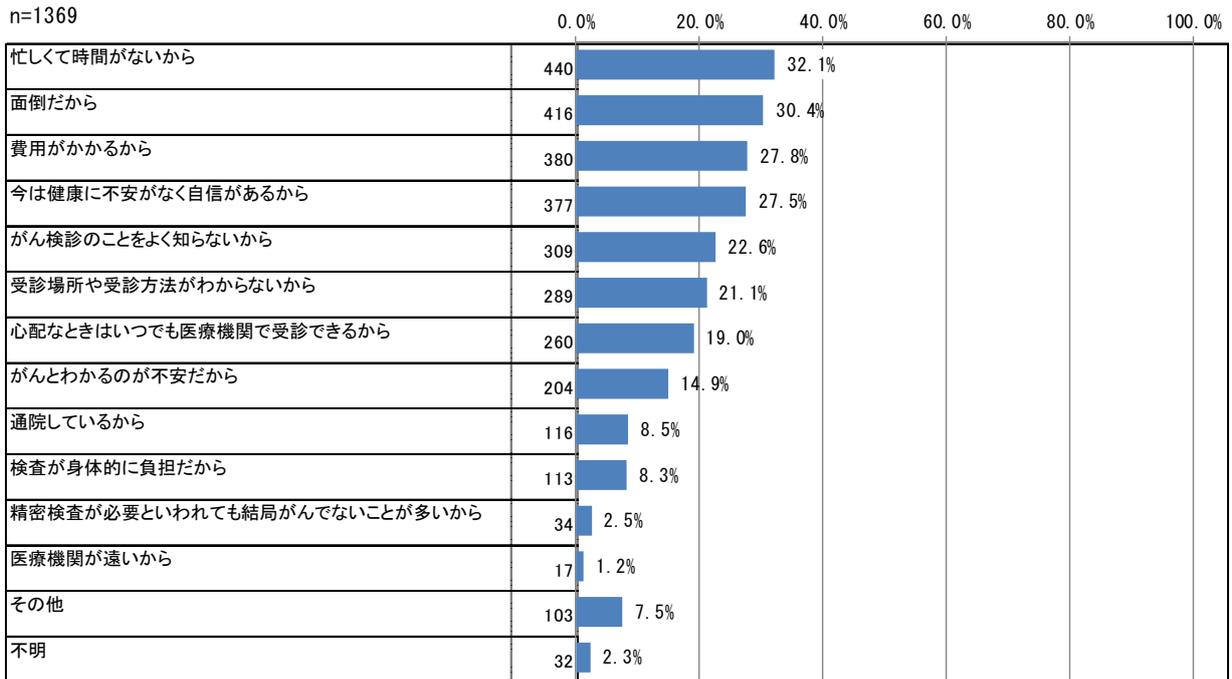
1番高い数値 2番目の数値

(6) がん検診を受診しない理由

(問9で「受けたことがない」と回答の方)

問12 がん検診を受診したことがない方にお尋ねします。がん検診を受診しない理由を教えてください。【3MA】

- ・がん検診を受診しない理由としては「忙しい」(32.1%)、「面倒」(30.4%)、「費用がかかる」(27.8%)「健康に自信がある」(27.5%)が挙げられている。
- ・20代女性は「がん検診のことをよく知らない」、「受診方法がわからない」が高い。



性年代別表

	調査数	忙しくて時間がないから	費用がかかるから	今は健康に不安がなく自信があるから	がんとわかるのが不安だから	面倒だから	検査が身体的に負担だから	通院しているから	心配なときはいつでも医療機関で受診できるから	これも結局がんでないことが多いから	精密検査が必要といわれても結局がんでないことが多いから	医療機関が遠いから	受診場所や受診方法がわからないから	がん検診のことをよく知らないから	その他	不明
全体	1369	32.1	27.8	27.5	14.9	30.4	8.3	8.5	19.0	2.5	1.2	21.1	22.6	7.5	2.3	
男性計	893	35.5	30.0	28.7	12.4	33.4	5.7	6.7	16.0	2.6	0.9	22.6	25.1	7.5	2.0	
男性20～29歳	150	29.3	22.7	36.0	4.0	37.3	1.3	0.7	8.7	0.7	0.7	29.3	36.0	8.0	2.0	
男性30～39歳	217	41.9	38.7	24.4	8.3	33.2	4.1	1.4	10.1	2.3	0.5	32.3	34.1	10.1	0.5	
男性40～49歳	167	51.5	38.3	19.8	14.4	29.3	6.6	1.8	10.2	0.6	2.4	20.4	21.0	7.8	3.0	
男性50～59歳	117	37.6	38.5	22.2	17.9	32.5	8.5	12.0	21.4	4.3	0.9	18.8	22.2	5.1	2.6	
男性60～69歳	152	27.0	22.4	30.3	20.4	36.2	9.2	13.8	25.0	3.3	0.7	15.8	15.1	3.3	1.3	
男性70～79歳	80	12.5	5.0	50.0	13.8	33.8	3.8	21.3	35.0	7.5	0.0	8.8	11.3	8.8	5.0	
男性80歳以上	4	0.0	50.0	50.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	
女性計	472	25.8	23.5	25.0	19.7	25.0	12.9	11.9	24.4	2.3	1.9	18.4	17.8	7.6	3.0	
女性20～29歳	120	33.3	35.8	26.7	12.5	34.2	8.3	0.0	11.7	0.0	0.8	36.7	37.5	7.5	1.7	
女性30～39歳	66	33.3	34.8	13.6	15.2	33.3	9.1	0.0	7.6	1.5	6.1	28.8	25.8	3.0	3.0	
女性40～49歳	55	49.1	20.0	18.2	25.5	40.0	9.1	3.6	10.9	5.5	3.6	18.2	10.9	9.1	1.8	
女性50～59歳	44	20.5	15.9	20.5	27.3	6.8	27.3	11.4	25.0	4.5	4.5	9.1	4.5	11.4	4.5	
女性60～69歳	80	12.5	21.3	20.0	21.3	17.5	13.8	27.5	36.3	5.0	0.0	3.8	5.0	12.5	5.0	
女性70～79歳	97	10.3	8.2	40.2	23.7	13.4	16.5	27.8	48.5	0.0	0.0	5.2	9.3	5.2	3.1	
女性80歳以上	4	50.0	25.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	
性別不明	4	25.0	25.0	75.0	0.0	0.0	25.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	

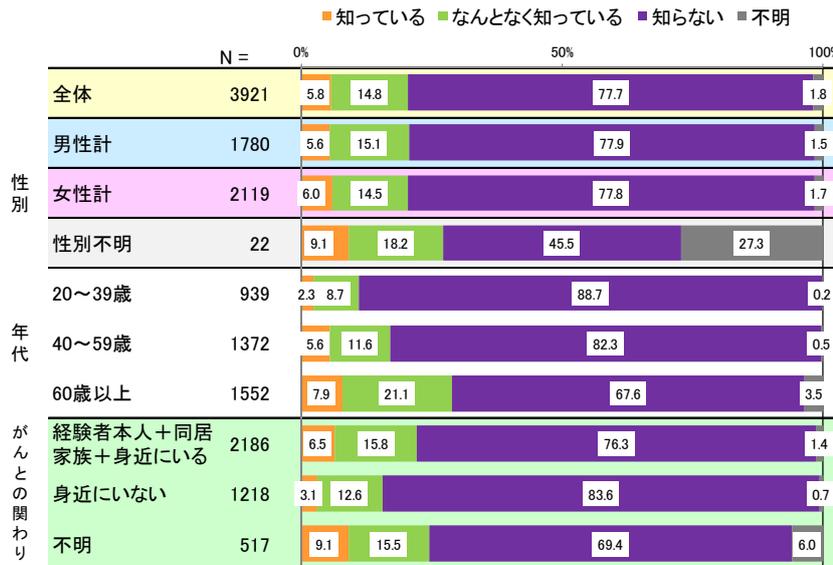
1番高い数値 2番目の数値

5:がんの情報について

(1) がん拠点病院の相談支援センターについて

問13 「がん診療拠点病院」には、がんについての様々な相談に応じるための「相談支援センター」があり、どなたでも無料で相談できることを、あなたは知っていますか？

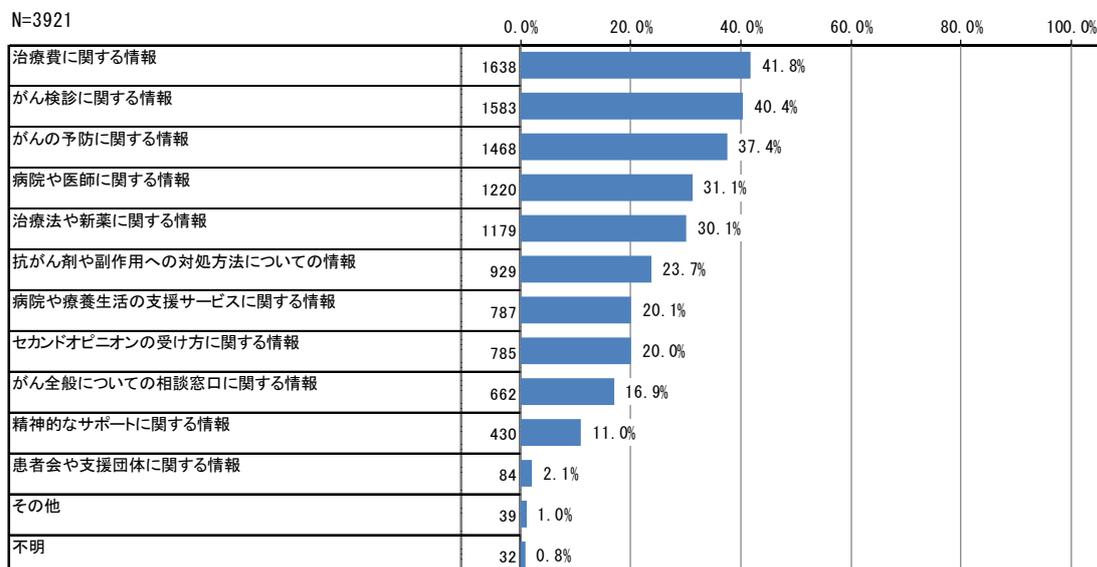
- ・がん診療拠点病院の相談支援センターの認知度については、全体で77.7%が「知らない」としており、若い年代ほど「知らない」割合が高い。
- ・がん経験者本人や身近にがん経験者がいる人でも76.3%が「知らない」としている。



(2) がんやがん治療で必要な情報

問14 あなたは、がんや、がんの治療について、どのような情報が必要だと思えますか？
【複数回答】

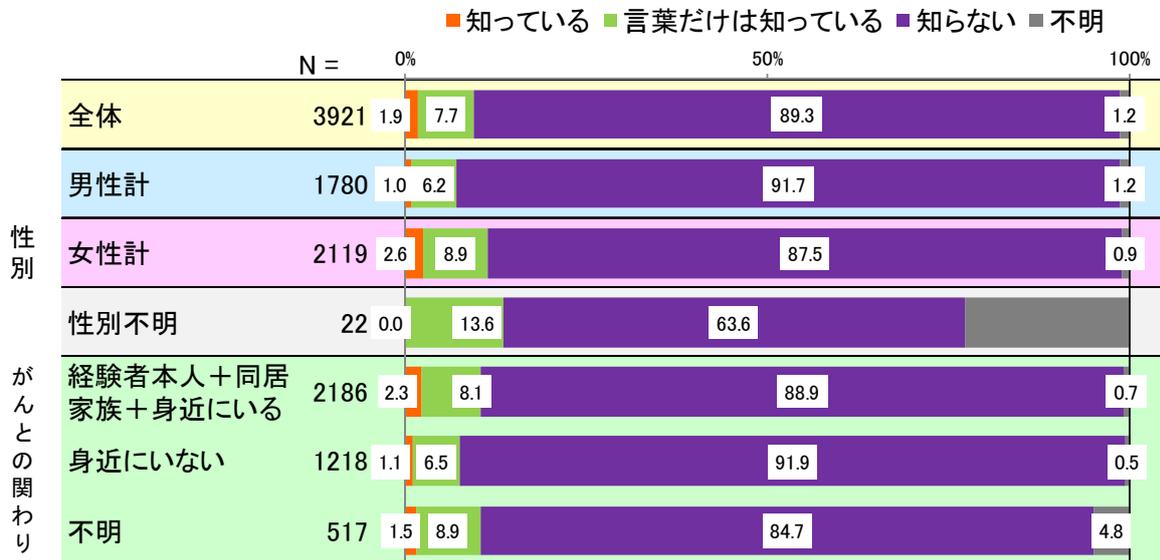
- ・がんやがん治療で必要な情報については、全体で「治療費」(41.8%)、「がん検診」(40.4%)、「がん予防」(37.4%)の順となっている。



(3) がんのピアサポートについて

問 1 5 あなたは、がんの「ピアサポート」を知っていますか？

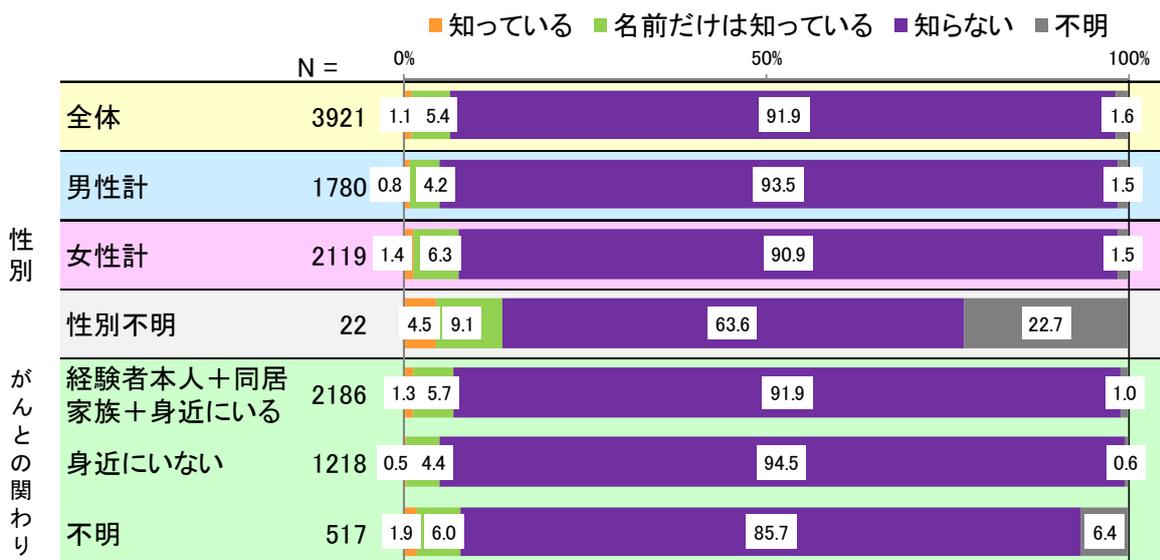
- ・ピアサポートの認知度については全体の 89.3%が「知らない」としている。
- ・がん経験者本人や身近にがん経験者がいる人でも「知らない」が 88.9%と認知度が低い。



(4) ピアネットについて

問 1 6 あなたは、がん相談・情報サロン「ピアネット」を知っていますか？

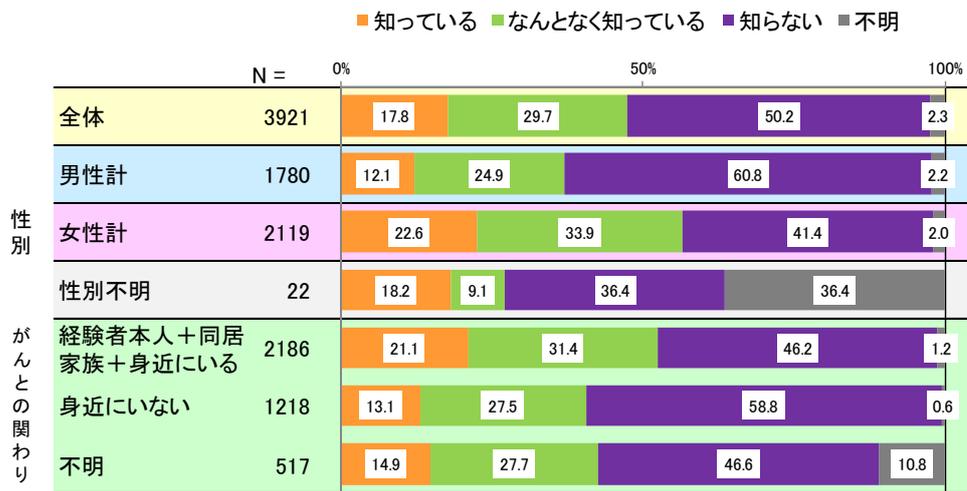
- ・ピアネットの認知度については全体の 91.9%が「知らない」としている。
- ・がん経験者本人や身近にがん経験者がいる人でも「知らない」が 91.9%と認知度が低い。



(5) 緩和ケアについて

問17 あなたは、がん医療の「緩和ケア」が、身体の痛みだけでなく、心も含めた様々なつらさを和らげるケアであり、がんと診断されたときから実施されるべきものであることを知っていますか？

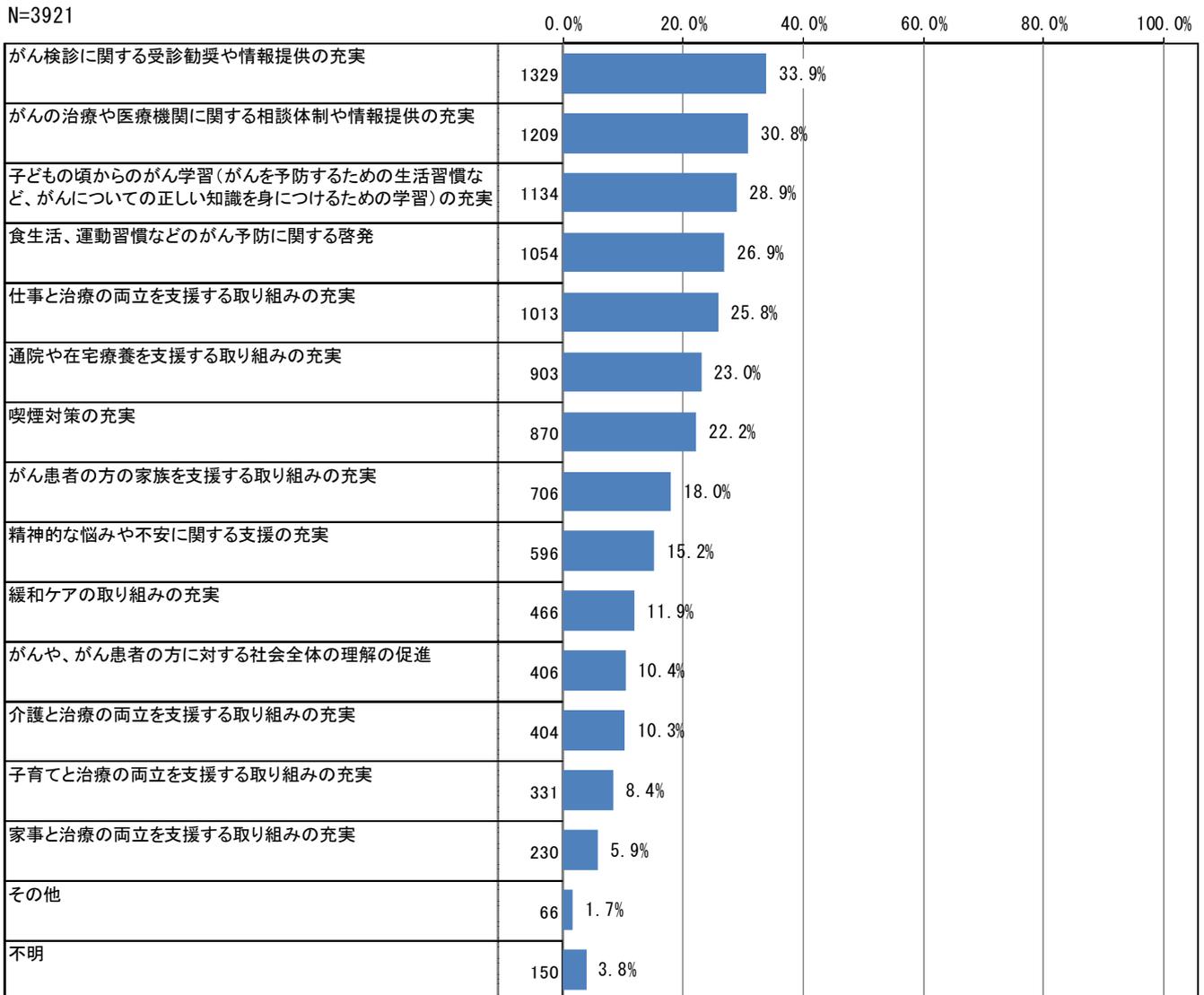
- ・緩和ケアについては全体で「知っている」、「なんとなく知っている」をあわせた認知度は47.5%だった。
- ・男性の認知度は37.0%と女性の56.5%とくらべて低い。
- ・がん経験者本人や身近にがん経験者がいる人の認知度は52.5%と約半数であった。



6：名古屋市のがん対策について

問18 名古屋市のがん対策において充実すべきだと思うことを教えてください。【3MA】

・名古屋市のがん対策において充実すべきことについて、全体では「がん検診に関する受診勧奨や情報提供の充実」が33.9%と最も高く、次いで「がんの治療や医療機関に関する相談体制や情報提供の充実」(30.8%)、「子供の頃からのがん学習の充実」(28.9%)の順となっている。



・年代別に見ると20代～40代の若年層では「仕事と治療の両立」、「がん学習の充実」の割合が高い。

		調査数	発食生活、運動習慣などのがん予防に関する啓	子どもの頃からのがん学習へがんを予防するための正しい知識を身につけるための学習の充実	喫煙対策の充実	がん検診に関する受診勧奨や情報提供の充実	がんの治療や医療機関に関する相談体制や情報提供の充実	緩和ケアの取り組みの充実	精神的な悩みや不安に関する支援の充実	通院や在宅療養を支援する取り組みの充実	仕事と治療の両立を支援する取り組みの充実	子育てと治療の両立を支援する取り組みの充実	介護と治療の両立を支援する取り組みの充実	家事と治療の両立を支援する取り組みの充実	がん患者の方の家族を支援する取り組みの充実	がんや、がん患者の方に対する社会全体の理解の促進	その他	不明	%
全体		3921	26.9	28.9	22.2	33.9	30.8	11.9	15.2	23.0	25.8	8.4	10.3	5.9	18.0	10.4	1.7	3.8	
性年代	男性計	1780	30.0	28.4	23.7	35.3	29.2	8.5	12.5	20.1	28.8	6.0	10.1	4.6	17.2	8.8	2.1	3.9	
	男性20～29歳	156	30.1	42.9	23.7	39.7	21.8	8.3	11.5	15.4	35.3	7.1	1.9	0.6	16.0	14.7	3.2	1.3	
	男性30～39歳	246	29.3	30.5	20.7	43.5	28.5	4.9	9.8	11.0	43.1	13.8	7.7	4.1	21.1	13.4	4.1	0.8	
	男性40～49歳	322	25.2	30.1	20.8	34.5	24.5	7.8	14.3	21.1	43.8	9.9	7.1	7.5	20.2	8.4	3.7	1.9	
	男性50～59歳	300	26.7	29.0	24.7	38.0	28.7	11.7	11.3	22.0	37.0	4.3	11.0	3.0	22.0	9.3	0.7	1.7	
	男性60～69歳	399	33.3	24.6	25.6	33.1	35.8	9.5	13.3	22.6	17.0	2.0	12.5	4.0	12.3	4.3	1.5	5.0	
	男性70～79歳	333	33.9	23.4	25.5	28.8	30.9	8.1	13.8	23.4	8.7	1.8	14.7	6.0	13.2	8.1	0.9	9.6	
	男性80歳以上	11	36.4	9.1	18.2	36.4	18.2	18.2	9.1	27.3	0.0	9.1	9.1	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	女性計	2119	24.3	29.5	20.9	32.9	32.3	14.8	17.4	25.5	23.5	10.6	10.5	6.9	18.7	11.7	1.3	3.4	
	女性20～29歳	215	28.4	36.7	29.8	51.2	24.2	8.4	12.1	12.1	30.2	16.3	4.7	3.7	14.9	14.0	2.3	2.3	
	女性30～39歳	322	21.4	34.5	23.0	50.0	25.5	9.6	14.0	21.4	28.9	28.6	6.5	5.9	23.9	8.4	1.6	1.2	
	女性40～49歳	413	21.3	31.0	17.4	33.4	33.2	12.6	17.2	27.1	33.2	13.6	8.2	8.5	22.8	14.8	1.9	1.0	
	女性50～59歳	337	19.6	27.9	14.8	27.0	43.6	20.5	18.1	29.1	30.6	5.3	11.6	7.1	22.3	11.6	0.6	0.9	
	女性60～69歳	426	25.8	25.8	19.0	24.9	35.4	19.0	21.6	32.9	13.1	3.1	13.4	6.8	15.7	13.4	1.2	4.7	
	女性70～79歳	372	30.4	24.5	23.4	22.3	28.0	16.1	19.4	24.5	9.4	2.2	15.6	7.5	12.1	9.1	0.5	9.1	
女性80歳以上	10	50.0	40.0	30.0	30.0	20.0	0.0	10.0	0.0	10.0	10.0	0.0	10.0	10.0	0.0	0.0	0.0	20.0	
性別不明	22	22.7	13.6	31.8	18.2	22.7	0.0	18.2	18.2	13.6	0.0	9.1	9.1	9.1	9.1	0.0	36.4		
がんとの関わり	経験者本人+同居家族+身近にいる	2186	25.7	28.9	22.0	34.6	33.3	13.4	15.5	25.3	25.8	9.1	11.2	6.3	18.5	10.1	1.6	2.5	
	身近にいない	1218	29.0	32.2	23.2	36.5	28.8	9.2	14.4	21.3	26.8	8.0	8.8	5.3	18.1	11.2	1.8	1.7	
	不明	517	26.9	21.5	20.5	24.8	25.0	11.8	15.7	17.6	23.6	6.6	10.3	5.2	15.5	9.5	1.7	14.3	
(再掲)年代(男女合算)	20～29歳	371	29.1	39.4	27.2	46.4	23.2	8.4	11.9	13.5	32.3	12.4	3.5	2.4	15.4	14.3	2.7	1.9	
	30～39歳	568	24.8	32.7	22.0	47.2	26.8	7.6	12.1	16.9	35.0	22.2	7.0	5.1	22.7	10.6	2.6	1.1	
	40～49歳	735	23.0	30.6	18.9	33.9	29.4	10.5	15.9	24.5	37.8	12.0	7.8	8.0	21.6	12.0	2.7	1.4	
	50～59歳	637	22.9	28.4	19.5	32.2	36.6	16.3	14.9	25.7	33.6	4.9	11.3	5.2	22.1	10.5	0.6	1.3	
	60～69歳	825	29.5	25.2	22.2	28.8	35.6	14.4	17.6	27.9	15.0	2.5	13.0	5.5	14.1	9.0	1.3	4.8	
	70～79歳	706	32.0	23.9	24.4	25.4	29.3	12.3	16.7	23.9	9.1	2.0	15.2	6.8	12.6	8.6	0.7	9.5	
	80歳以上	21	42.9	23.8	23.8	33.3	19.0	9.5	9.5	14.3	4.8	9.5	4.8	9.5	4.8	0.0	0.0	9.5	
	不明	58	20.7	24.1	36.2	19.0	29.3	5.2	10.3	19.0	22.4	5.2	12.1	8.6	24.1	5.2	1.7	17.2	

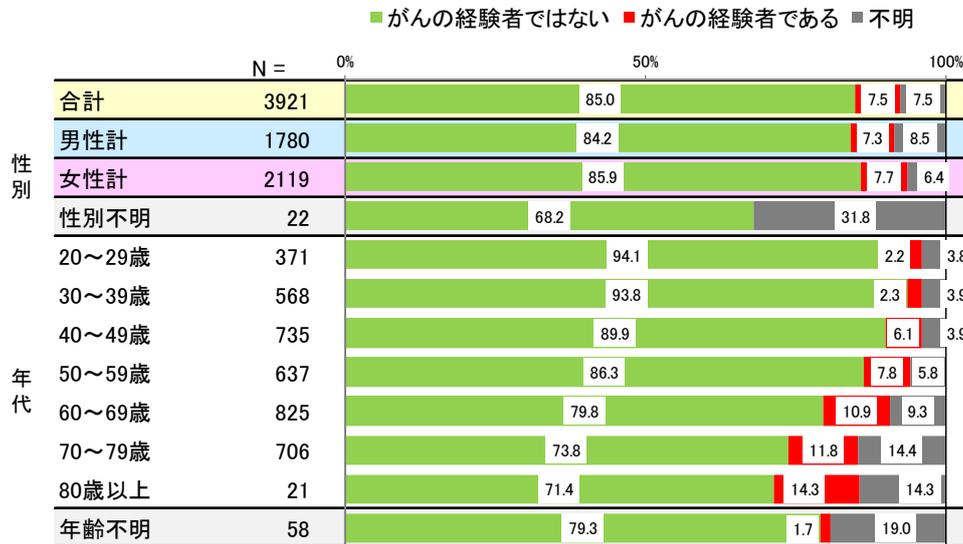
1番高い数値 2番目の数値 3番目の数値

7:がんの経験

(1) 本人のがん罹患経験

問19 あなたの状況を教えてください。

・年齢が上がるにつれ、罹患経験が高くなる傾向にある。

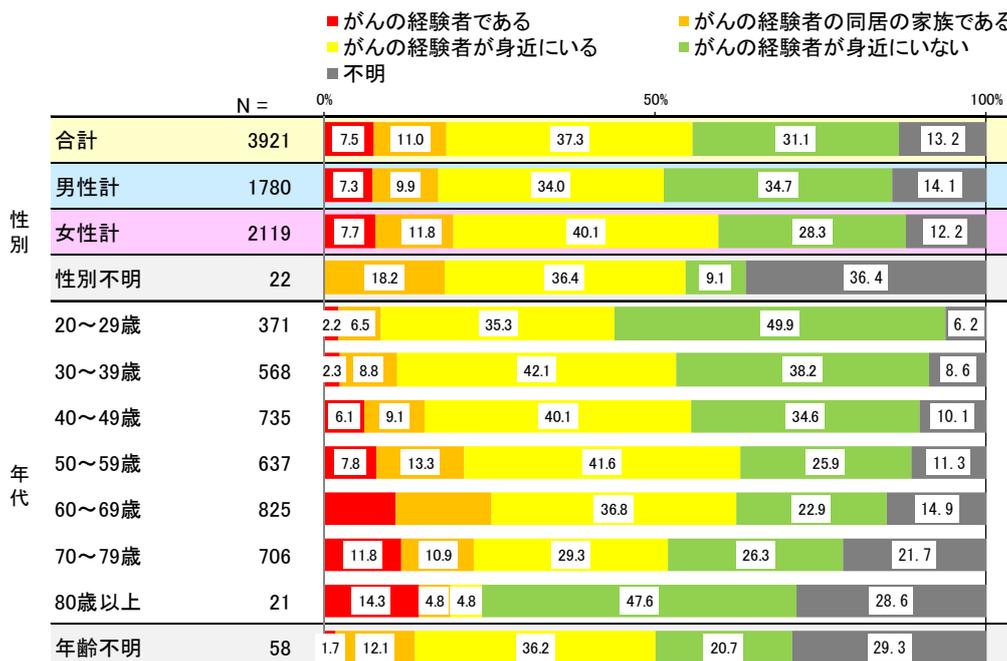


(2) 身近な人のがん罹患経験

(問19で「がんの経験者ではない」と回答した方)

がんの経験者ではない場合、身近にがんの経験者がいますか？

・「がん経験者」、「がん経験者の同居家族」、「がん経験者が身近にいる」をあわせた、がん経験が身近な人の割合は全体（3921人）の55.8%となった。

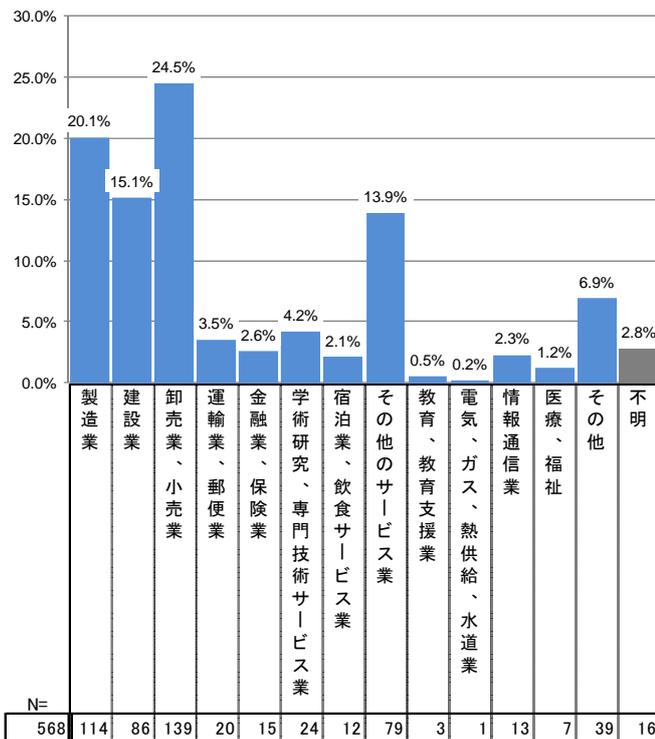


II：調査結果 ②企業

1:回答者のプロフィール

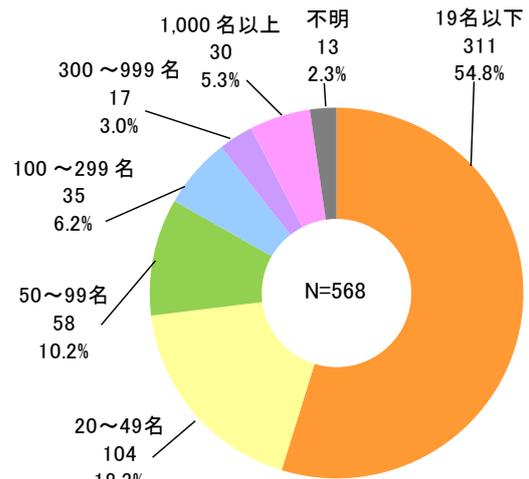
(1) 業種

問1 業種



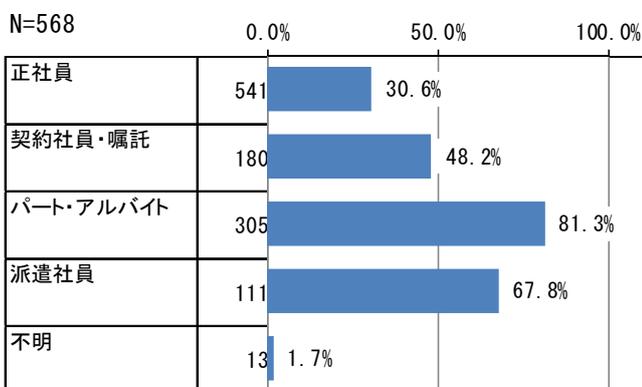
(2) 従業員数

問2 従業員数



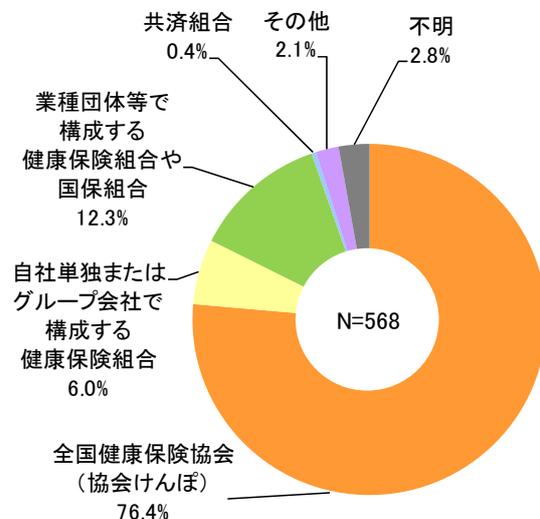
(3) 従業員の構成

問3 従業員の構成【複数回答】



(4) 医療保険制度

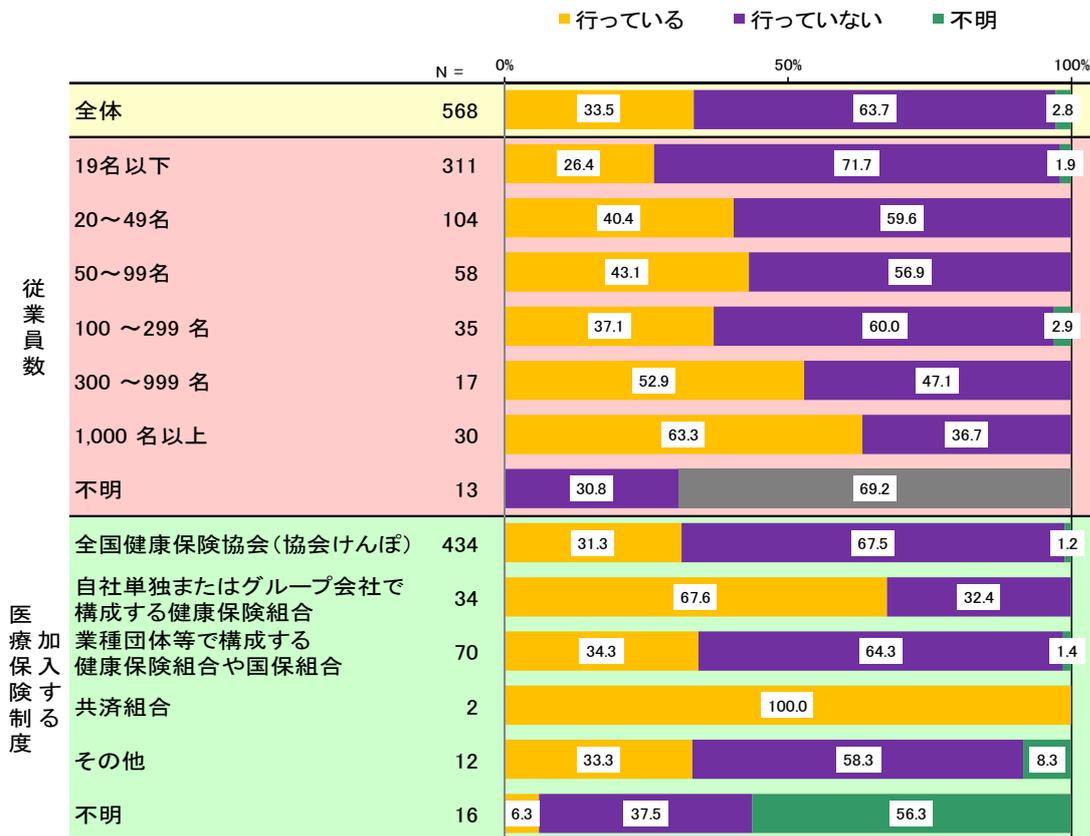
問4 加入する医療保険制度



2:がん予防の取り組み

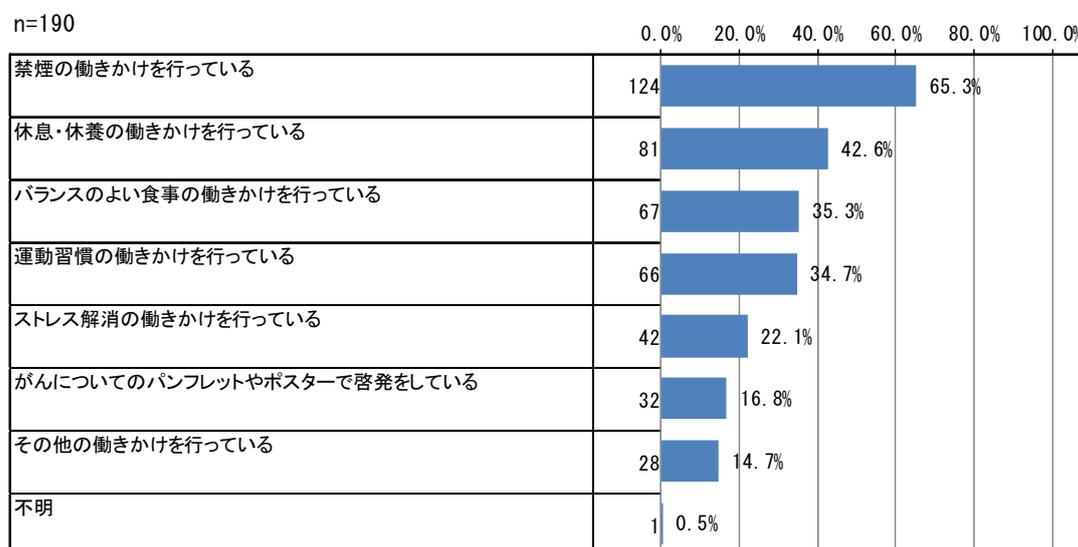
問5 事業所または医療保険者において、社員に対して、がん予防の働きかけを行っていますか？

- ・社員に対してがん予防の働きかけを行っている企業は、全体の約3分の1であった。
- ・企業の従業員規模別に見ると、規模が小さくなるほど働きかけを行っている割合が低い。
- ・加入している医療保険別に見ると、「協会けんぽ」や「業界団体等で構成する健康保険組合や国保組合」で働きかけを行っている割合が低い。



(問5で「行っている」と回答の方) それほどのようなことですか【複数回答】

- ・具体的な働きかけの内容としては「禁煙」が65.3%と最も高く、次いで「休息・休養」(42.6%)、「バランスのよい食事」(35.3%)、「運動習慣」(34.7%)と続いている。

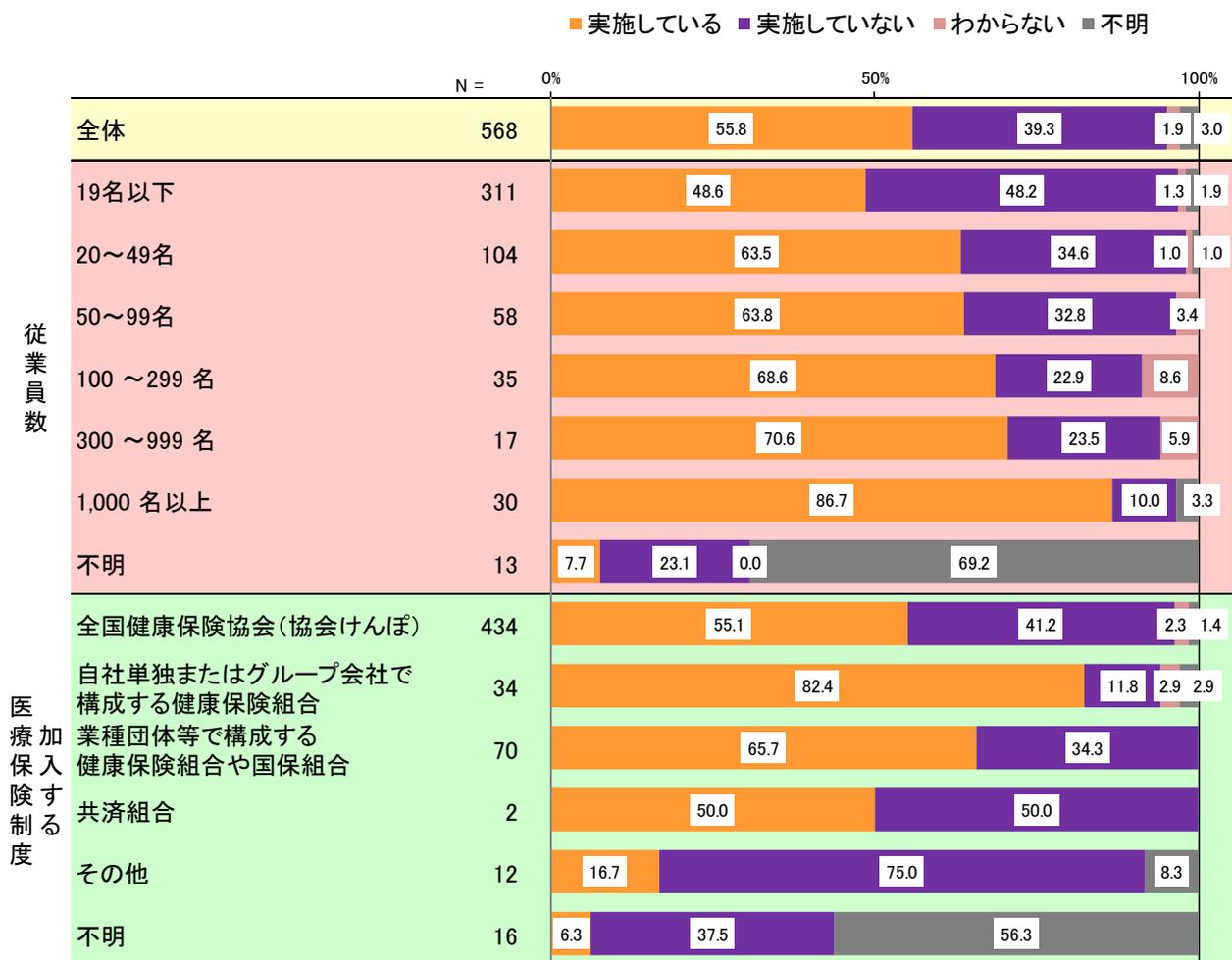


3:がん検診について

(1) 社員に対するがん検診の実施

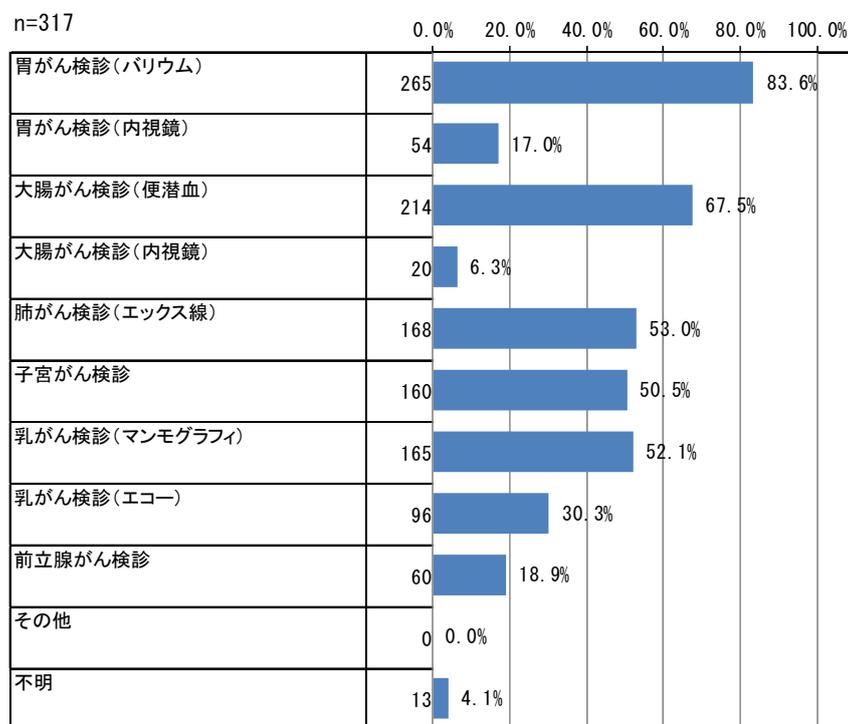
問6 事業所または医療保険者において、社員に対して、がん検診（自己負担の一部助成を含む）を実施していますか？

- ・社員に対してがん検診を実施している企業は、全体の55.8%であった。
- ・企業の従業員規模別に見ると、規模が小さくなるほど実施している割合が低い。
- ・加入している医療保険別に見ると、「協会けんぽ」加入企業の実施が低い。



(問6で「実施している」と回答の方) それほどのような検診ですか【複数回答】

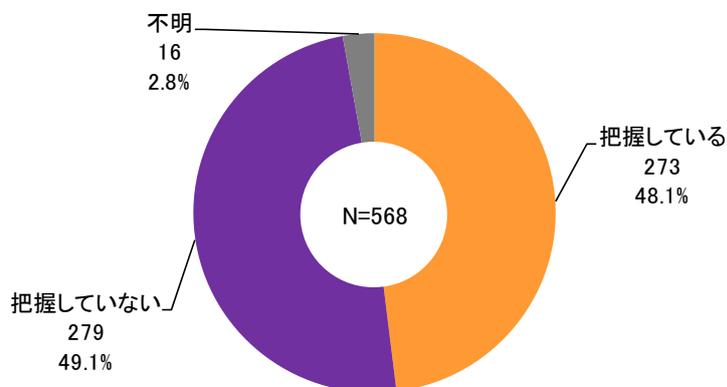
・具体的な検診の内容としては「胃がん(バリウム)」が83.6%と最も高く、次いで「大腸がん(便潜血)」(67.5%)、「肺がん(エックス線)」(53.0%)と続いている。



(2) がん検診受診状況の把握

問7 社員のがん検診受診状況を把握していますか？

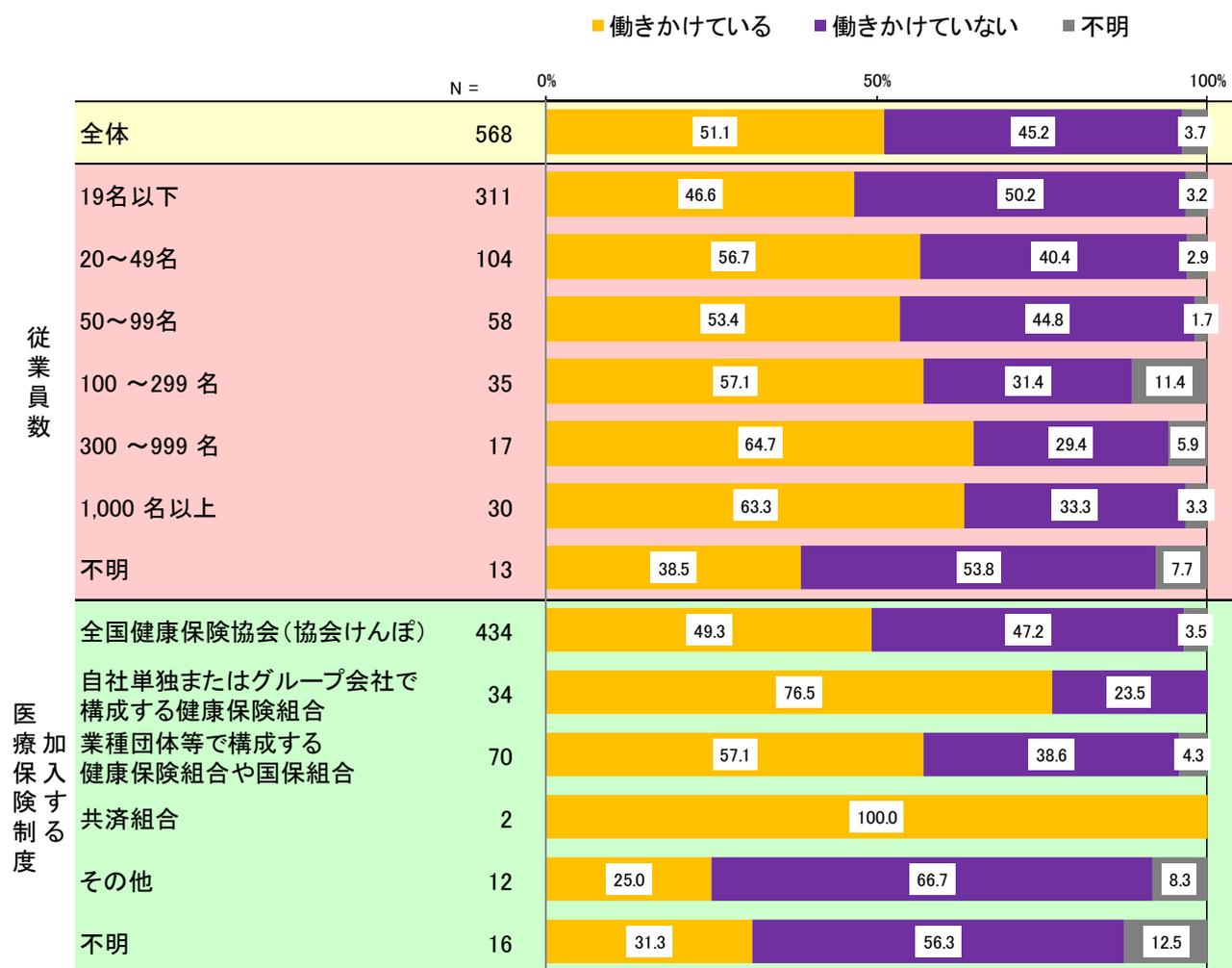
・社員のがん検診受診状況を把握している企業は、全体の48.1%であった。



(3) がん検診受診の働きかけ

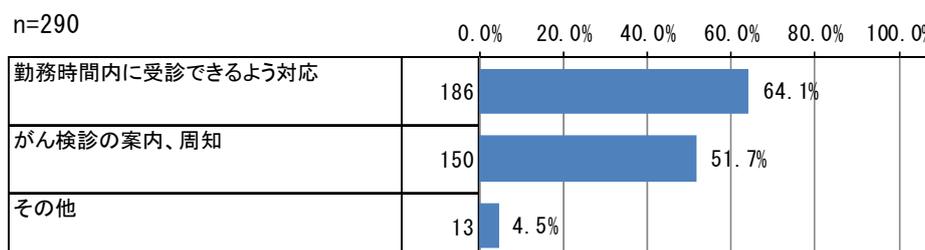
問8 社員に対してがん検診の受診を働きかけていますか？

- ・社員に対してがん検診の受診を働きかけている企業は、全体の51.1%であった。
- ・企業の従業員規模別に見ると、規模が小さくなるほど働きかけている割合が低い。
- ・加入している医療保険別に見ると、「協会けんぽ」、「業界団体等で構成する健康保険組合や国保組合」加入企業の働きかけている割合が低い。



(問8で「働きかけている」と回答の方) それほどのようなことですか【複数回答】

- ・具体的な働きかけの内容としては「勤務時間内に受診できるよう対応」が64.1%、次いで「がん検診の案内、周知」が51.7%となった。

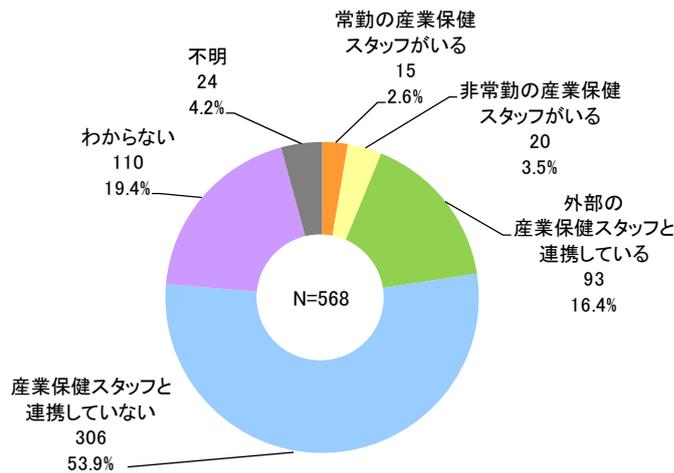


4:がん患者への支援体制

(1) 産業保健スタッフの配置

問9 産業保健スタッフ（産業医を含む）の状況を教えてください。

- ・「常勤」、「非常勤」、「外部と連携」を合わせた産業保健スタッフ配置状況は全体の22.5%であった

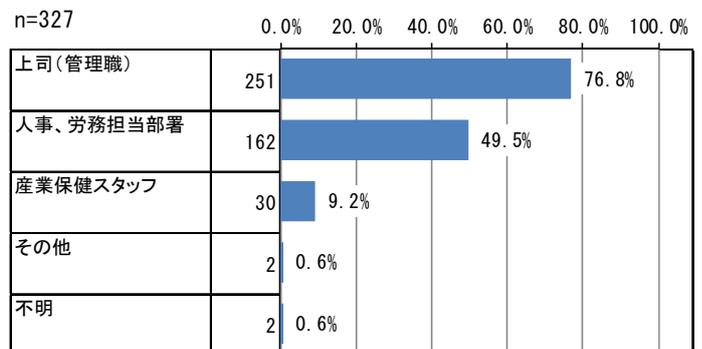
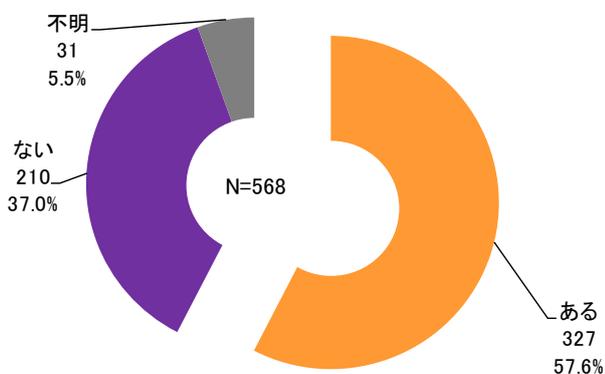


(2) 罹患した社員の社内相談窓口

問10 社員が、がんを含めた私傷病に罹患した場合、労務管理上の社内での報告先や相談窓口はありますか？

(問10で「ある」と回答の方) それはどこですか【複数回答】

- ・がんを含めた私傷病に罹患にした場合の相談窓口の有無について、57.6%の企業が「ある」と回答した。
- ・具体的な相談窓口としては「上司（管理職）」が76.8%、次いで「人事、労務担当部署」が49.5%、「産業保健スタッフ」が9.2%となった。



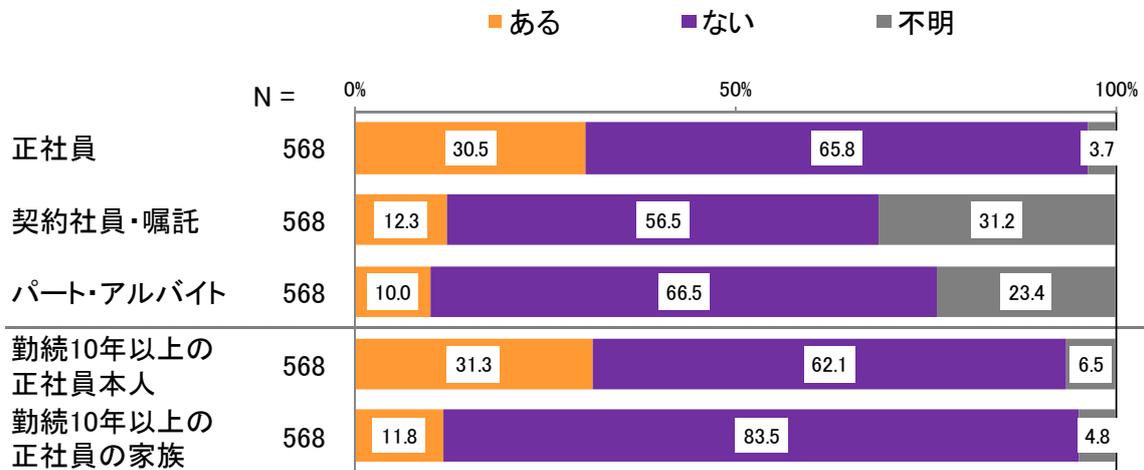
(3) 私傷病による休暇制度

問 1 1 労働基準法に基づく有給休暇以外に、がんを含めた私傷病による休暇が取得できる制度はありますか？

問 1 2 勤続年数が10年以上の正社員が、がんを含めた私傷病に罹患した場合、取得可能な休暇・休職制度がありますか？

問 1 3 勤続年数が10年以上の正社員の家族が、がんを含めた私傷病に罹患した場合、取得可能な休暇・休職制度がありますか？

- ・がんを含めた私傷病による休暇制度について、正社員は30.5%が「ある」としているのに対し、「契約社員・嘱託」(12.3%)、「パート・アルバイト」(10.0%)の非正規雇用では低い。
- ・勤続10年以上の正社員の家族ががん罹患した場合の休暇制度は11.8%の企業が「ある」としている。



(問 1 2、1 3で「ある」と回答の方) その期間はどのくらいですか

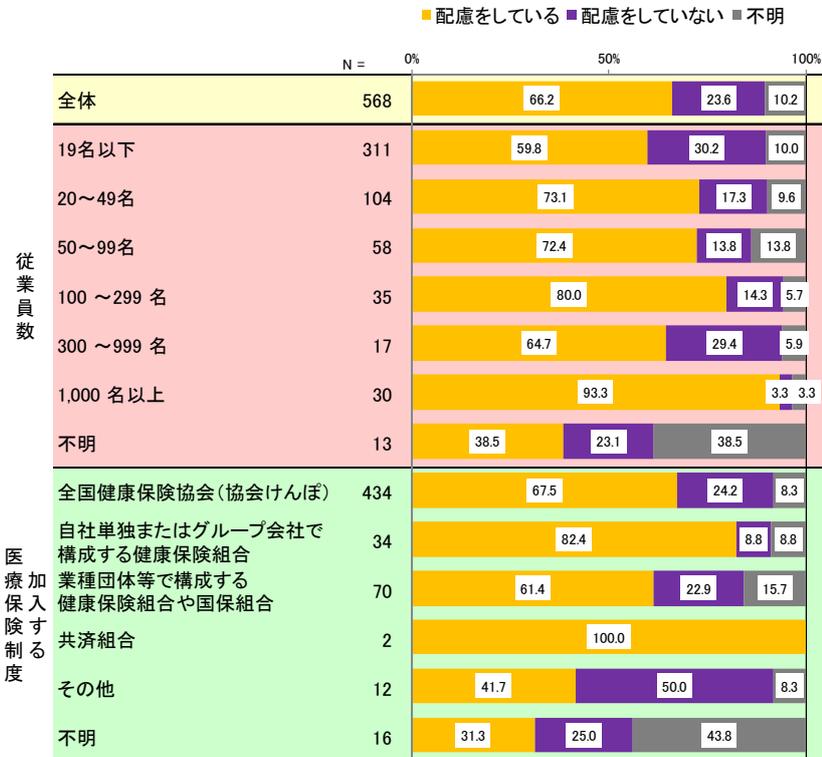
- ・勤続10年以上の正社員及び家族ががん罹患した場合の休暇制度の期間について、正社員本人が罹患した場合の46.1%が「1ヶ月以上1年未満」、正社員の家族が罹患した場合の53.7%が「1ヶ月以上6ヶ月未満」とそれぞれ最も高くなっている。



(4) 罹患した社員に対する仕事上の配慮

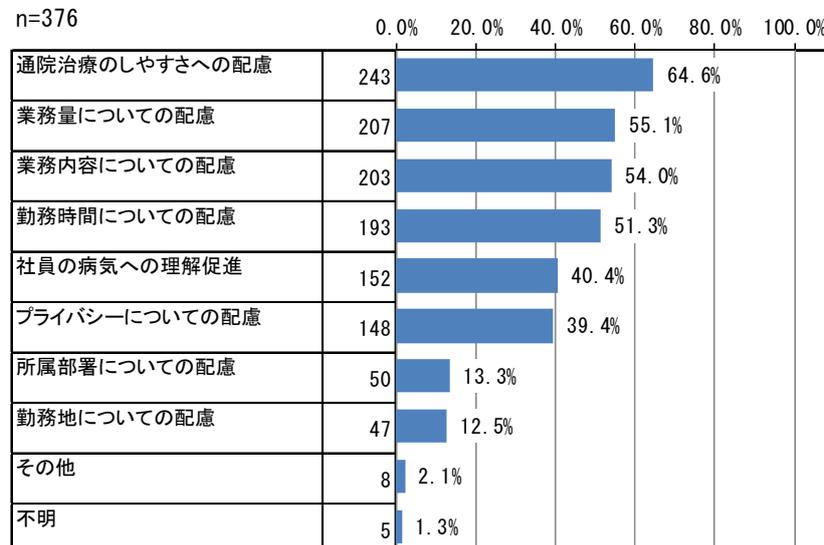
問14 がんを含めた私傷病に罹患した社員に対して、仕事上の配慮をしていますか？

- ・がんを含めた私傷病に罹患した社員に対して、66.2%の企業が「配慮している」と回答した。
- ・企業の従業員規模別に見ると、規模が小さくなるほど「配慮している」割合が低い。



(問14で「配慮をしている」と回答の方) それはどのようなことですか【複数回答】

- ・具体的な配慮の内容としては「通院治療のしやすさ」が64.6%、次いで「業務量」(55.1%)、「業務内容」(54.0%)の順となっている。
- ・企業の従業員規模別に見ると、規模が小さくなるほど「通院治療のしやすさ」と回答する割合が高くなり、「業務量」と回答する割合が低くなっている。



%

		調査数	進社員の病気の理解促進	の配慮	の配慮	の配慮	業務量についての配慮	業務内容についての配慮	勤務時間についての配慮	勤務地についての配慮	所属部署についての配慮	その他	不明
全体		376	40.4	39.4	64.6	55.1	54.0	51.3	12.5	13.3	2.1	1.3	
従業員数	19名以下	186	43.5	31.2	73.7	47.8	40.3	52.7	6.5	4.3	1.6	1.6	
	20～49名	76	38.2	44.7	60.5	55.3	68.4	55.3	14.5	10.5	2.6	0.0	
	50～99名	42	33.3	47.6	52.4	64.3	76.2	42.9	19.0	14.3	2.4	2.4	
	100～299名	28	32.1	53.6	50.0	50.0	42.9	39.3	14.3	25.0	0.0	0.0	
	300～999名	11	36.4	36.4	54.5	90.9	90.9	54.5	18.2	45.5	0.0	0.0	
	1,000名以上	28	39.3	57.1	50.0	78.6	71.4	53.6	35.7	50.0	7.1	3.6	
	不明	5	80.0	20.0	80.0	60.0	40.0	60.0	0.0	40.0	0.0	0.0	
医療加入保険制度	全国健康保険協会(協会けんぽ)	293	38.6	37.2	66.9	49.5	49.8	47.1	9.2	9.9	2.0	1.7	
	自社単独またはグループ会社で構成する健康保険組合	28	50.0	60.7	71.4	78.6	78.6	75.0	35.7	32.1	3.6	0.0	
	業種団体等で構成する健康保険組合や国保組合	43	41.9	41.9	46.5	76.7	67.4	62.8	20.9	20.9	2.3	0.0	
	共済組合	2	0.0	50.0	50.0	100.0	100.0	100.0	50.0	50.0	0.0	0.0	
	その他	5	100.0	40.0	40.0	60.0	40.0	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
不明	5	40.0	20.0	80.0	40.0	40.0	40.0	0.0	40.0	0.0	0.0		

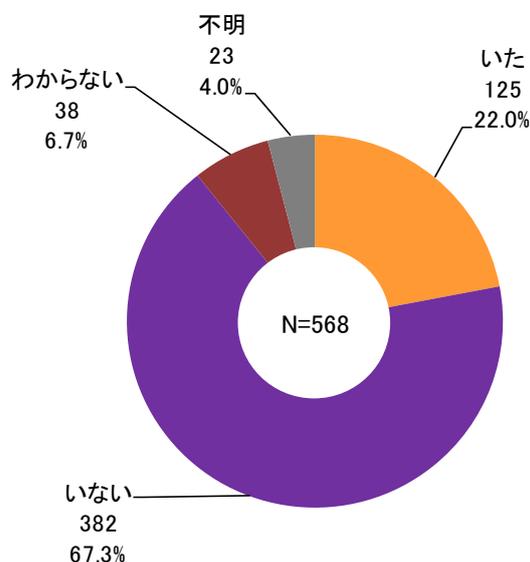
1番高い数値 2番目の数値

5:社内におけるがん罹患状況の実態

(1) がんと診断された社員の有無

問 15 過去3年間に、がんと診断された社員がいましたか？

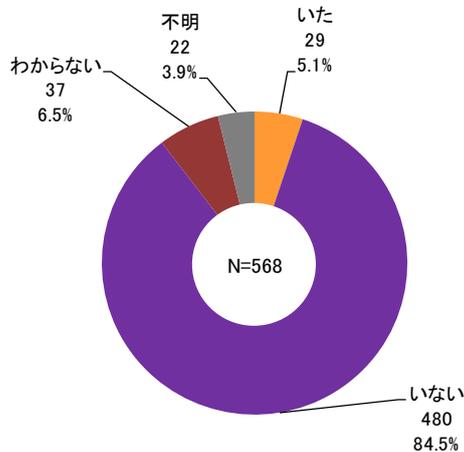
・過去3年間に、がんと診断された社員がいた企業は、全体の4分の1弱にあたる22.0%であった。



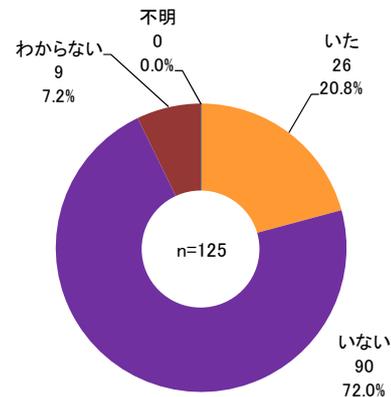
(2) がんと診断され離職した社員の有無

問 16 過去3年間に、がんと診断され、離職した社員がいましたか？

- ・過去3年間にがんと診断され、離職した社員がいた企業は、全体の5.1%であった。
- ・過去3年間にがんと診断された社員がいる企業の中で、離職した社員がいた企業は、20.8%であった。



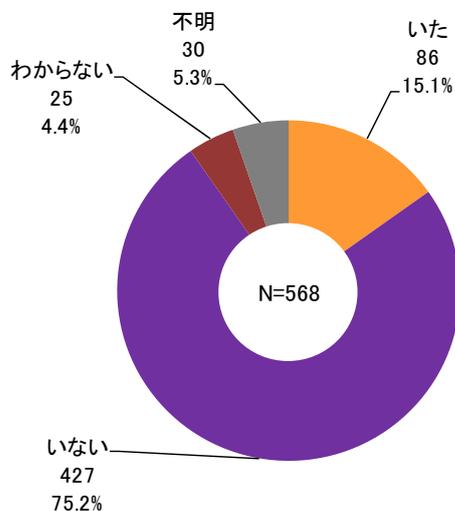
過去3年間にがんと診断された社員がいた企業



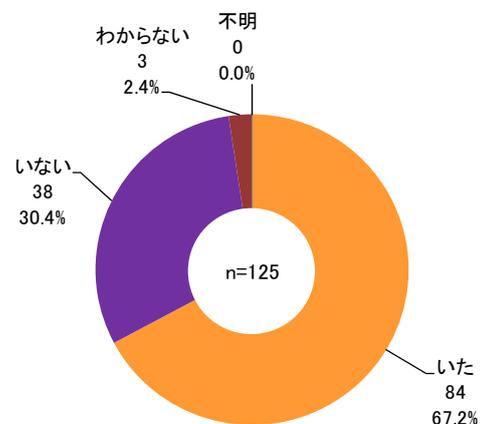
(3) がんにかかった社員の休業・休職状況

問 17 過去3年間のがん罹患者のうち、1ヶ月以上連続して休業、休職した社員がいましたか？

- ・過去3年間のがん罹患者のうち1ヶ月以上連続して休業、休職した社員がいた企業は全体の15.1%であった。
- ・過去3年間にがんと診断された社員がいる企業の中で、1ヶ月以上連続して休業、休職した社員がいた企業は、67.2%であった。



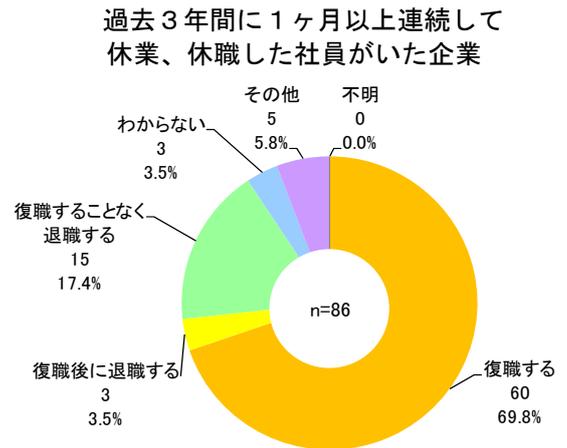
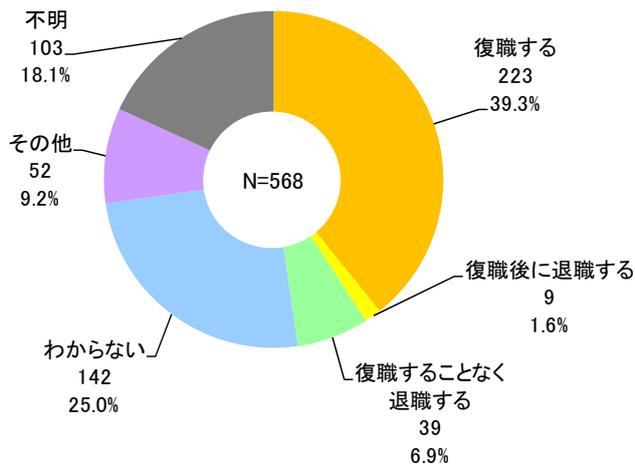
過去3年間にがんと診断された社員がいた企業



(4) 休業・休職した社員の復職状況

問 18 1ヶ月以上連続して休業、休職した社員の復職の状況を教えてください。

- ・1ヶ月以上連続して休業、休職した社員の復職の状況について、「復職する」のは全体の39.3%であるのに対し「復職することなく退職する」は6.9%であった。
- ・過去3年間に1ヶ月以上連続して休業、休職した社員がいる企業の中では、「復職する」のは69.8%、「復職することなく退職する」は17.4%であった。



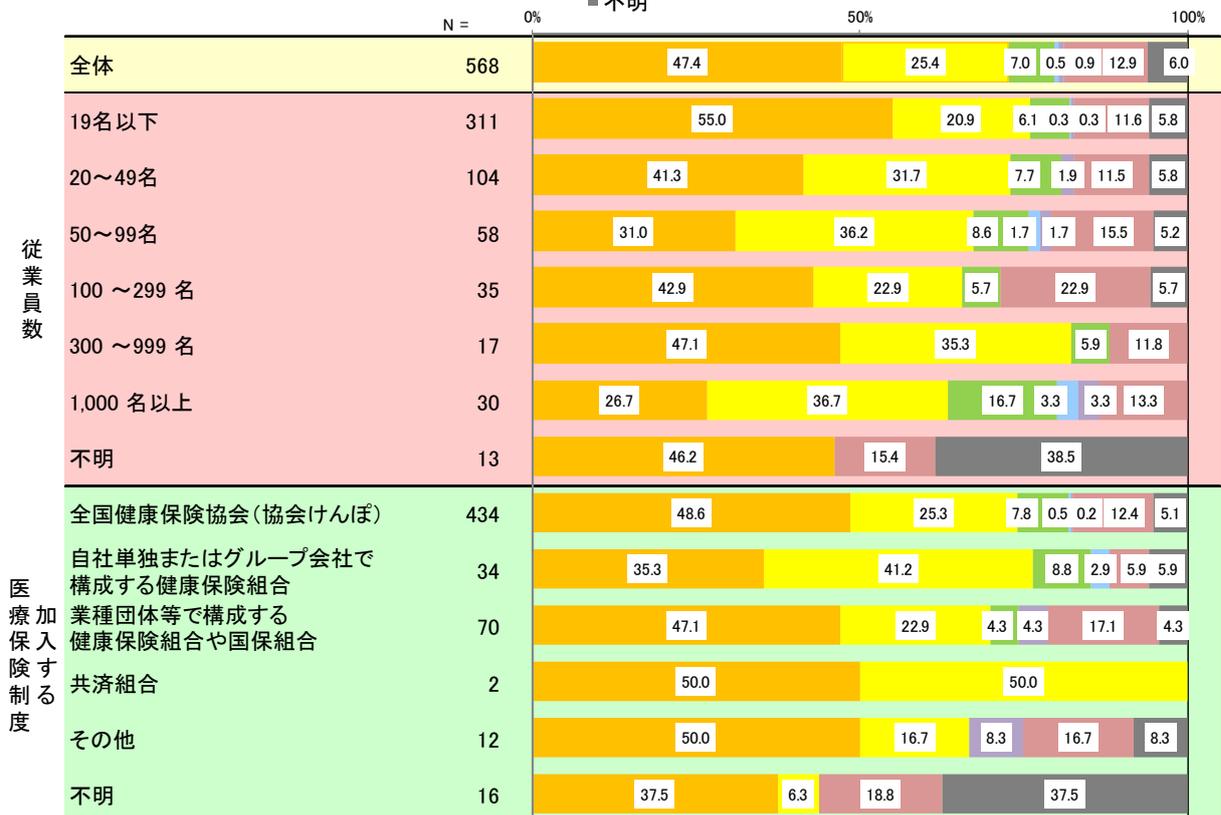
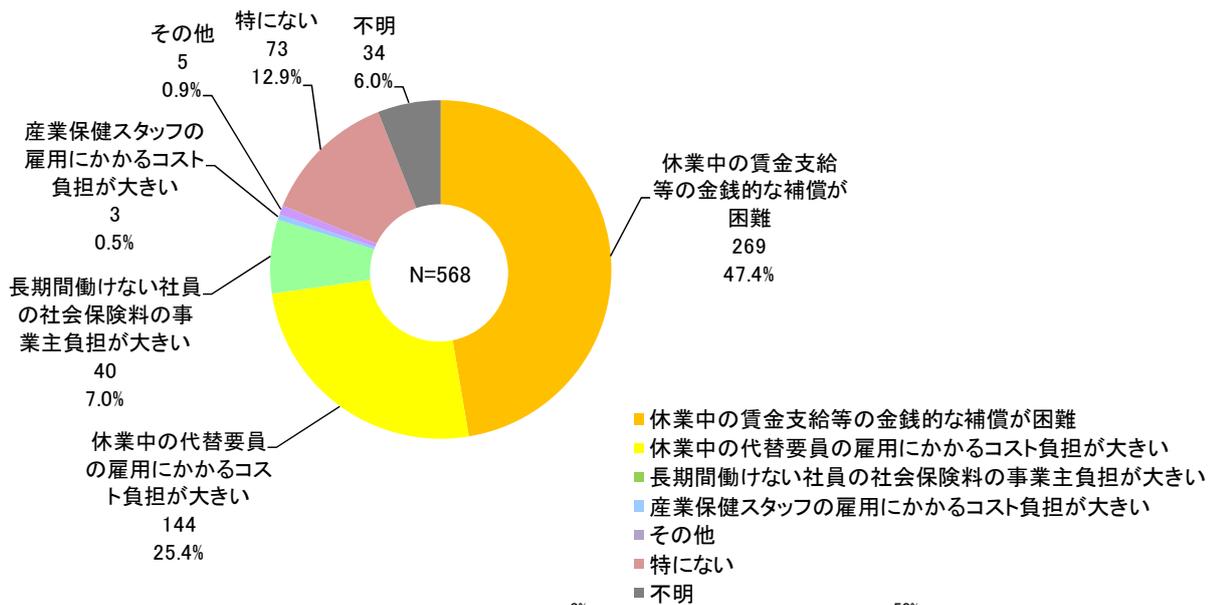
6:がん対策の課題

(1) 仕事と治療の両立のための課題

問19 仕事と治療の両立を実現するために課題となることは何だと考えますか？

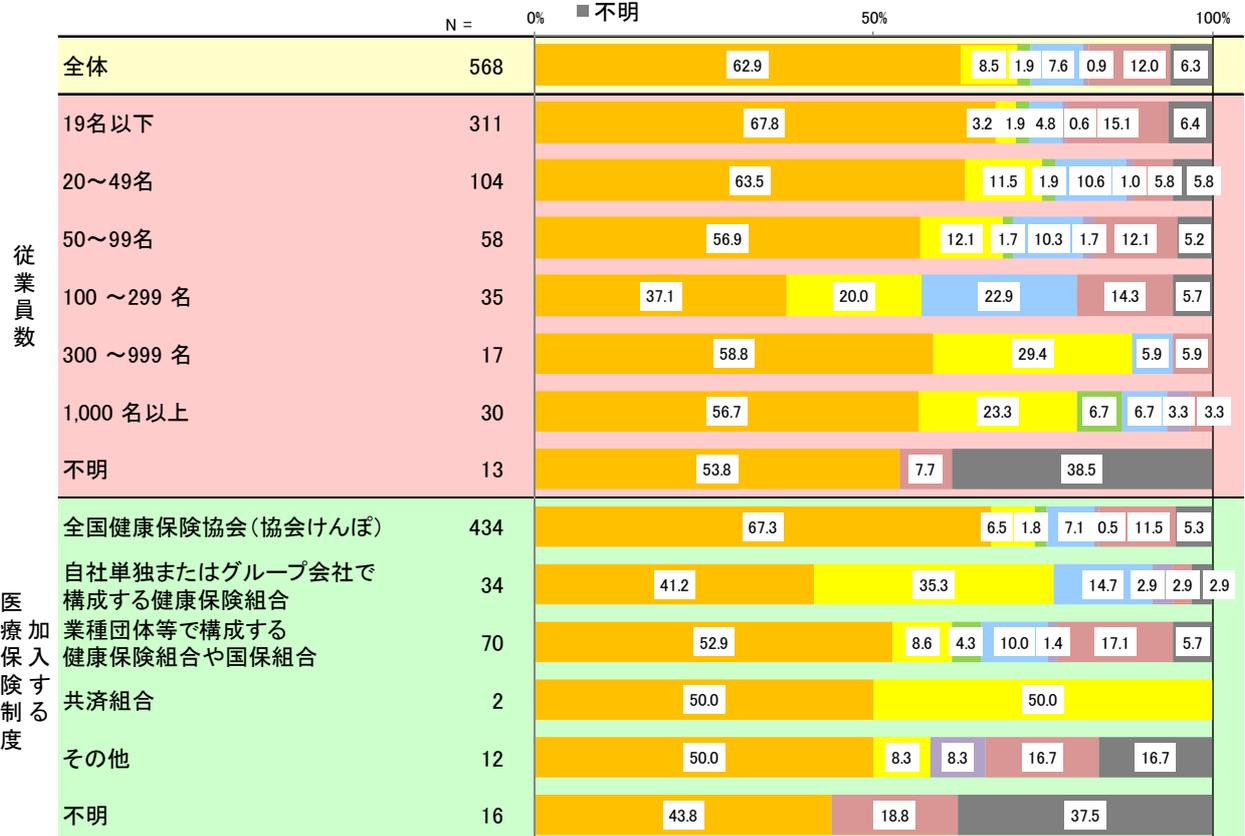
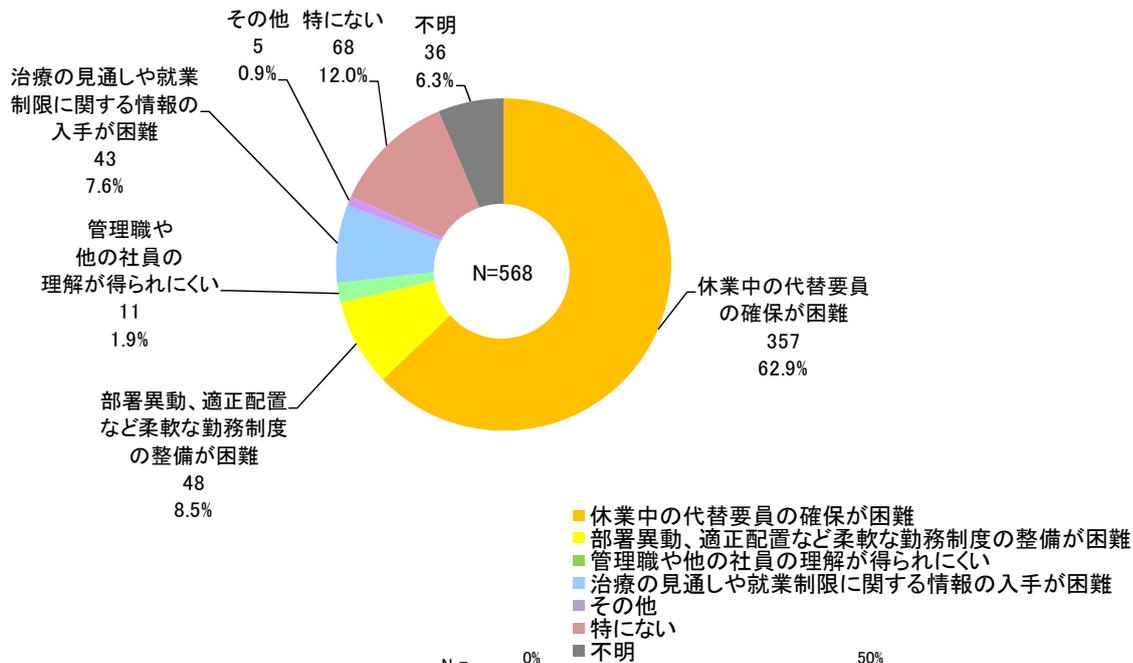
<コスト面の負担>

・仕事と治療の両立を実現するためのコスト面の負担の課題については、「休業中の賃金支給等の金銭的な補償が困難」の回答が47.4%と約半数にのぼった。



<人事管理上や情報把握の負担>

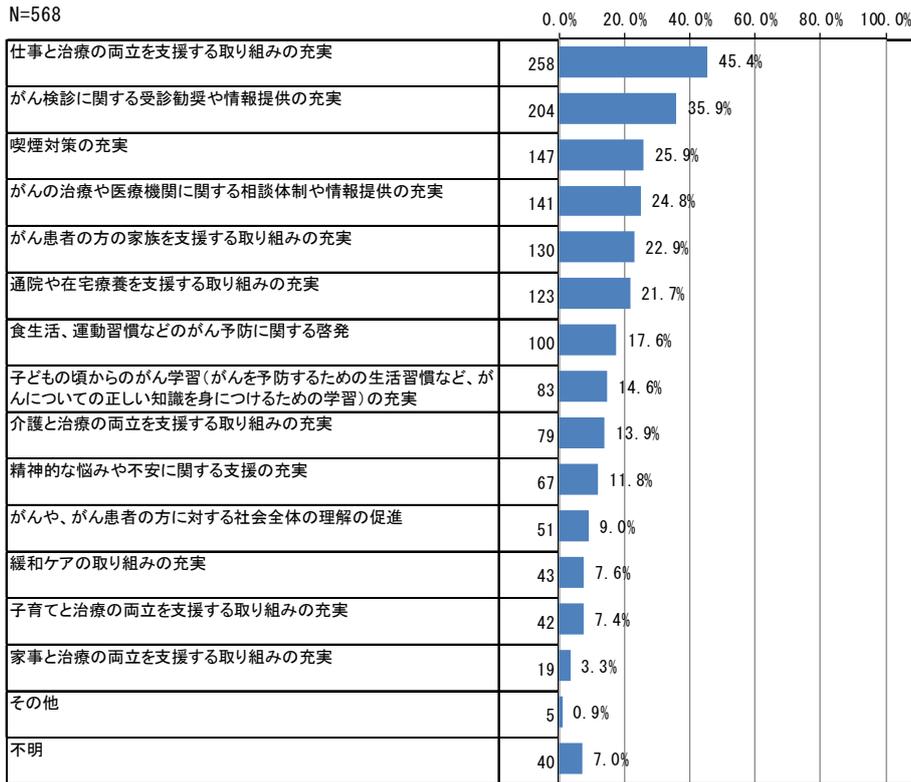
- ・仕事と治療の両立を実現するための人事管理や情報把握の負担の課題については、「代替要員の確保が困難」の回答が62.9%となった。
- ・企業の従業員規模別に見ると、規模が小さくなるほど「代替要員の確保が困難」と回答する割合が高くなり、「部署異動、適正配置など柔軟な勤務制度の整備が困難」と回答する割合が低くなっている。



(2) 名古屋市のがん対策について

問20 名古屋市のがん対策において充実すべきだと思うことを教えてください。【3MA】

- ・名古屋市のがん対策において充実すべきことについて、全体では「仕事と治療の両立を支援する取り組みの充実」が45.4%と最も高く、次いで「がん検診に関する受診勧奨や情報提供の充実」(35.9%)、「喫煙対策の充実」(25.9%)の順となっている。
- ・企業の従業員規模別に見ると、規模の小さい企業は「仕事と治療の両立を支援する取り組みの充実」が高く、規模の大きい企業は「がん検診に関する受診勧奨や情報提供の充実」が高い。



	調査数	食生活、運動習慣などのがん予防に関する啓発	子どもの頃からのがん学習(がんを予防するための生活習慣など、がんについての正しい知識を身につけるための学習)の充実	喫煙対策の充実	がん検診に関する受診勧奨や情報提供の充実	がんの治療や医療機関に関する相談体制や情報提供の充実	緩和ケアの取り組みの充実	精神的な悩みや不安に関する支援の充実	通院や在宅療養を支援する取り組みの充実	仕事と治療の両立を支援する取り組みの充実	子育てと治療の両立を支援する取り組みの充実	介護と治療の両立を支援する取り組みの充実	家事と治療の両立を支援する取り組みの充実	がん患者の方の家族を支援する取り組みの充実	がんや、がん患者の方に対する社会全体の理解の促進	その他	不明	
全体	568	17.6	14.6	25.9	35.9	24.8	7.6	11.8	21.7	45.4	7.4	13.9	3.3	22.9	9.0	0.9	7.0	
従業員数	19名以下	311	17.4	14.8	22.8	33.4	23.5	9.3	11.3	22.2	41.8	7.4	14.5	3.2	21.2	10.3	1.3	7.1
	20～49名	104	22.1	18.3	28.8	39.4	25.0	4.8	11.5	23.1	52.9	9.6	12.5	3.8	23.1	5.8	1.0	4.8
	50～99名	58	12.1	12.1	29.3	39.7	27.6	6.9	6.9	27.6	58.6	3.4	10.3	3.4	27.6	3.4	0.0	1.7
	100～299名	35	11.4	8.6	37.1	25.7	22.9	0.0	17.1	17.1	54.3	11.4	14.3	2.9	25.7	14.3	0.0	8.6
	300～999名	17	29.4	11.8	35.3	52.9	29.4	0.0	23.5	5.9	35.3	0.0	17.6	5.9	23.5	5.9	0.0	11.8
	1,000名以上	30	16.7	20.0	23.3	46.7	23.3	16.7	13.3	16.7	36.7	10.0	13.3	3.3	26.7	13.3	0.0	16.7
不明	13	15.4	0.0	23.1	30.8	46.2	0.0	15.4	15.4	23.1	0.0	23.1	0.0	23.1	7.7	0.0	15.4	
医療加入する制度	全国健康保険協会(協会けんぽ)	434	16.8	15.4	26.3	35.3	23.7	6.7	12.4	20.5	48.6	7.6	12.7	3.5	23.7	7.6	0.9	6.2
	自社単独またはグループ会社で構成する健康保険組合	34	26.5	17.6	26.5	41.2	26.5	11.8	11.8	20.6	32.4	8.8	23.5	2.9	20.6	8.8	0.0	14.7
	業種団体等で構成する健康保険組合や国保組合	70	15.7	12.9	24.3	38.6	25.7	8.6	10.0	27.1	38.6	7.1	17.1	2.9	21.4	18.6	0.0	10.0
	共済組合	2	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	その他	12	16.7	0.0	16.7	41.7	33.3	16.7	0.0	16.7	25.0	8.3	16.7	8.3	8.3	8.3	8.3	0.0
不明	16	31.3	6.3	25.0	31.3	37.5	6.3	12.5	31.3	31.3	0.0	12.5	0.0	18.8	6.3	0.0	6.3	

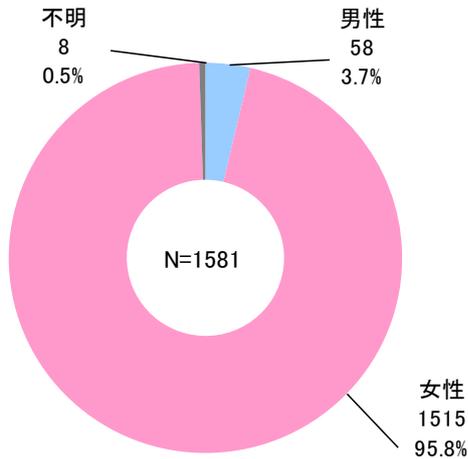
1番高い数値 2番目の数値

II：調査結果 ③協会けんぽ被扶養者

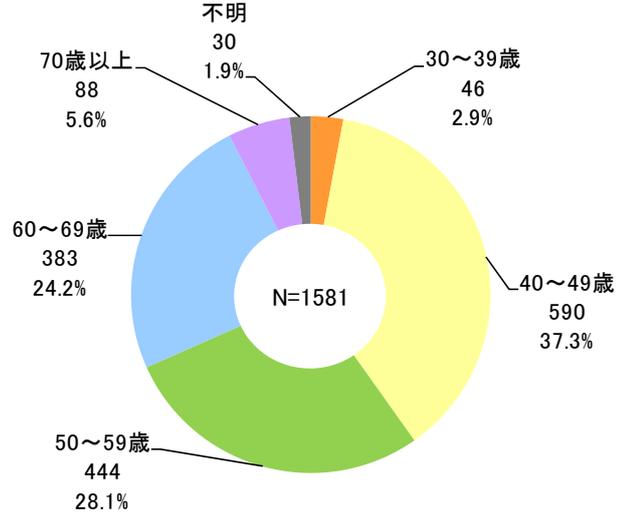
1:回答者のプロフィール

(1) 性別と年齢

問1 性別



問2 年齢

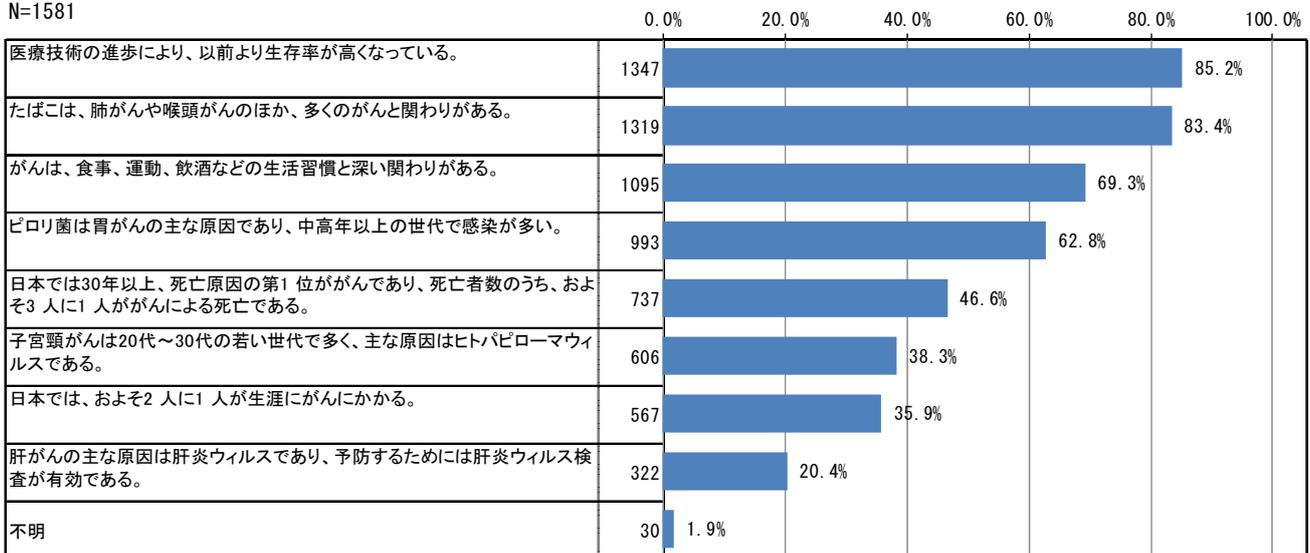


2:がんの知識

問3 がんについて知っていることを教えてください。【複数回答】

- ・がんについて知っている知識について、全体で「医療技術の進歩により生存率が高くなっている」が85.2%、「たばこは多くのがんと関わりがある」が83.4%でそれぞれが8割以上と高くなっている。
- ・「日本では、およそ2人に1人が生涯にがんにかかる。」の認知度が35.9%と低かった。

N=1581

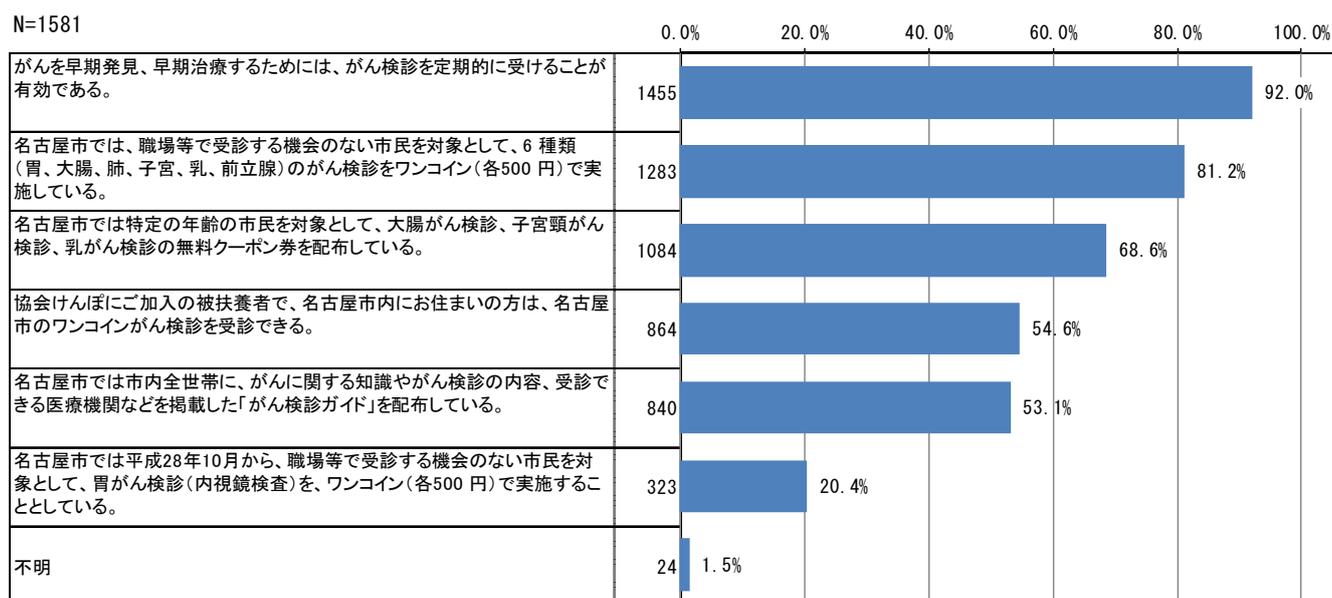


3:がん検診について

(1) がん検診の知識

問4 がん検診について知っていることを教えてください【複数回答】

- ・がん検診に対する知識について、「がんを早期発見するためには、がん検診を定期的に行うことが有効」の回答が全体の92.0%と最も高くなっている。
- ・「名古屋市でワンコイン検診を実施している」の認知度は81.2%であるが、「協会けんぽ加入の被扶養者は名古屋市のワンコイン検診を受診できる」ことを認知しているのは54.6%であった。

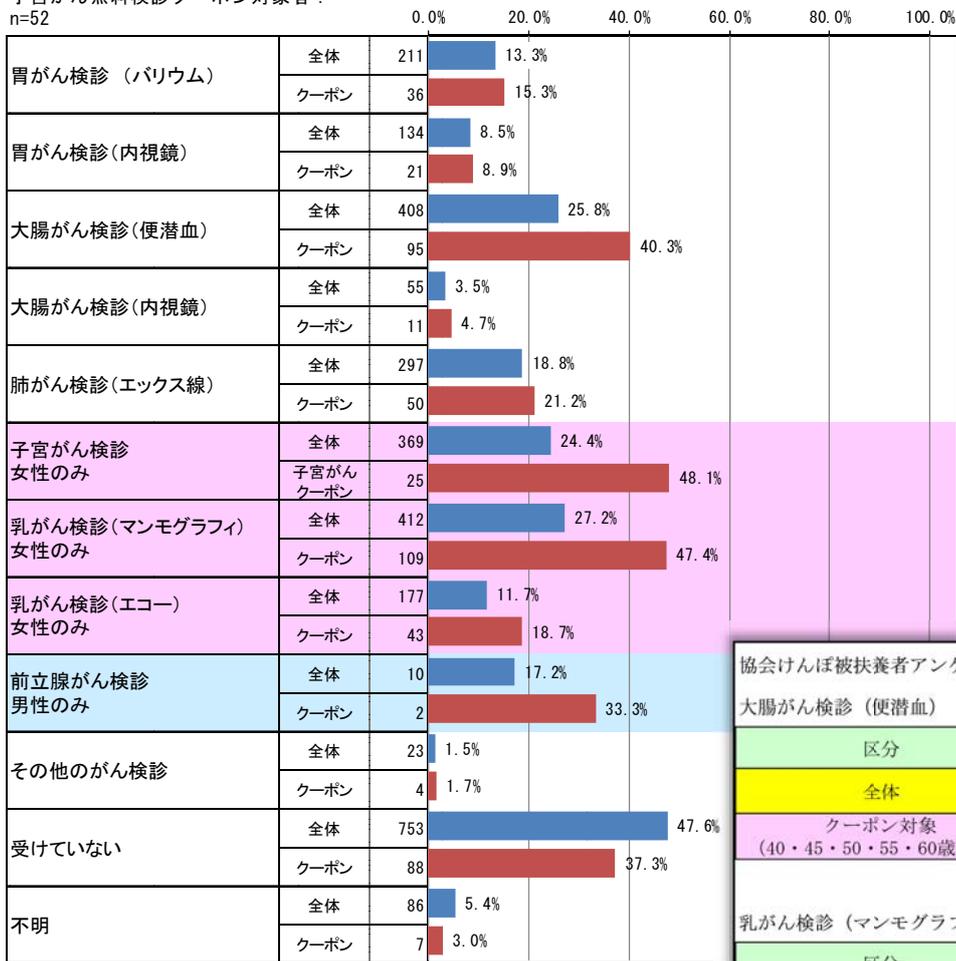


(2) 昨年度受診したがん検診

問5 あなたが昨年度(平成27年4月～平成28年3月)に受けたがん検診を教えてください。
【複数回答】

- ・昨年度受診したがん検診について、がん検診無料クーポン券の対象のがん検診は、全体と比べ受診率が高かった。
- ・昨年度「受診しなかった」のは全体では47.6%に対し、無料クーポン券対象者は37.3%と10ポイント以上低く、無料クーポン券配布によって受診促進の効果があったと考えられる。

全体：N=1581
(女性n=1515, 男性n=58)
がん無料検診クーポン：n=236
(女性n=230, 男性n=6)
子宮がん無料検診クーポン対象者：
n=52

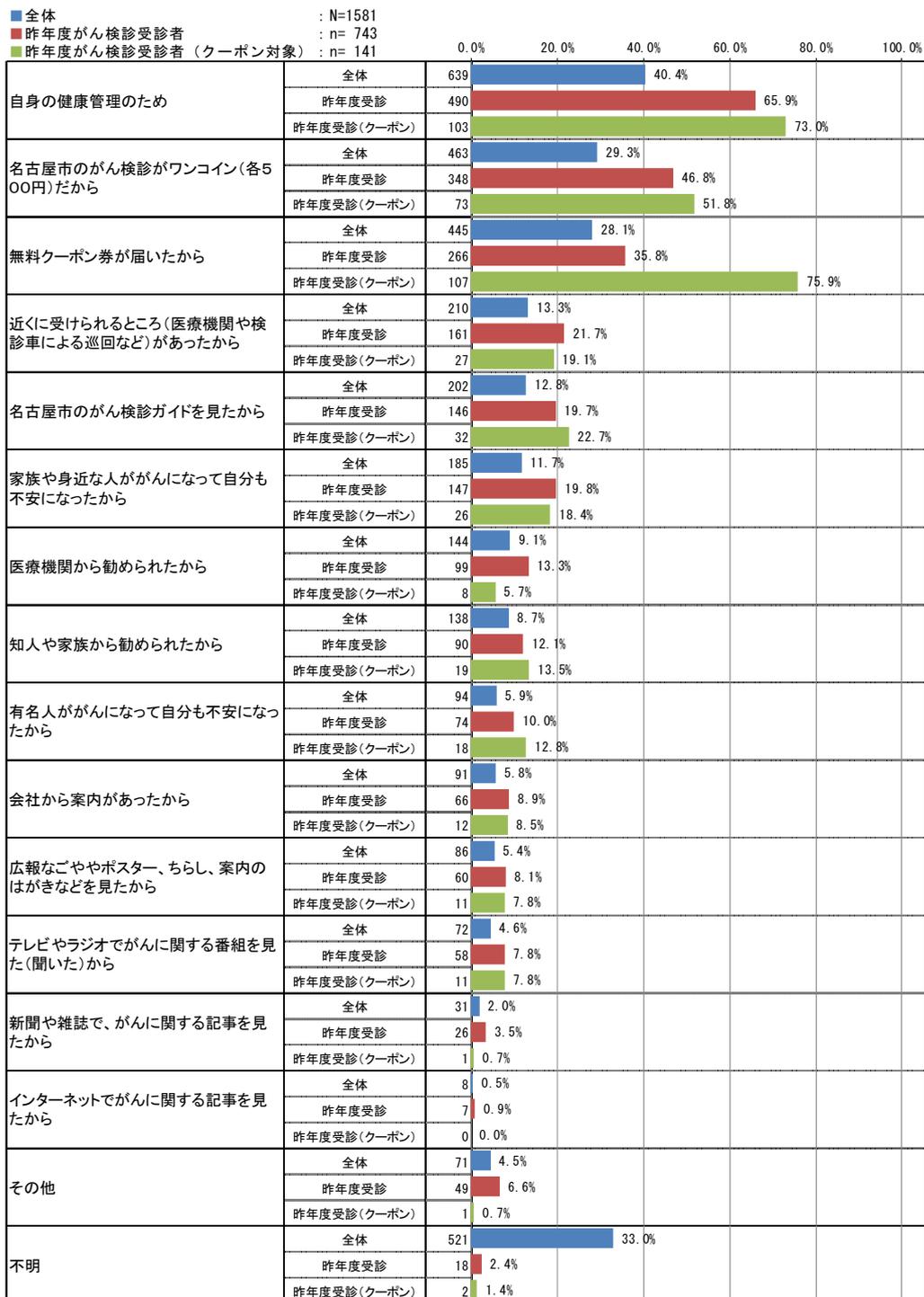


協会けんぽ被扶養者アンケート 昨年度の受診状況			
大腸がん検診(便潜血)			
区分	対象者数	受診者数	割合
全体	1581	408	25.81%
クーポン対象 (40・45・50・55・60歳男女)	236	95	40.25%
乳がん検診(マンモグラフィ)			
区分	対象者数	受診者数	割合
全体	1515	412	27.19%
クーポン対象 (40・45・50・55・60歳女性)	230	109	47.39%
子宮がん検診			
区分	対象者数	受診者数	割合
全体	1515	369	24.36%
クーポン対象 (20・25・30・35・40歳女性)	52	25	48.08%

(3) がん検診受診のきっかけ

問6 がん検診を受診したことがある方にお尋ねします。がん検診を受診したきっかけを教えてください。【複数回答】

- ・がん検診を受診したことがある方が、がん検診を受診したきっかけとしては全体では「自身の健康管理のため」が40.4%と最も高く、以下「名古屋市のがん検診がワンコインだから」(29.3%)、「無料クーポン券が届いたから」(28.1%)の順となった。
- ・昨年度がん検診を受診した無料クーポン券対象者の75.9%が、がん検診受診のきっかけとして「無料クーポン券が届いたから」と回答している。

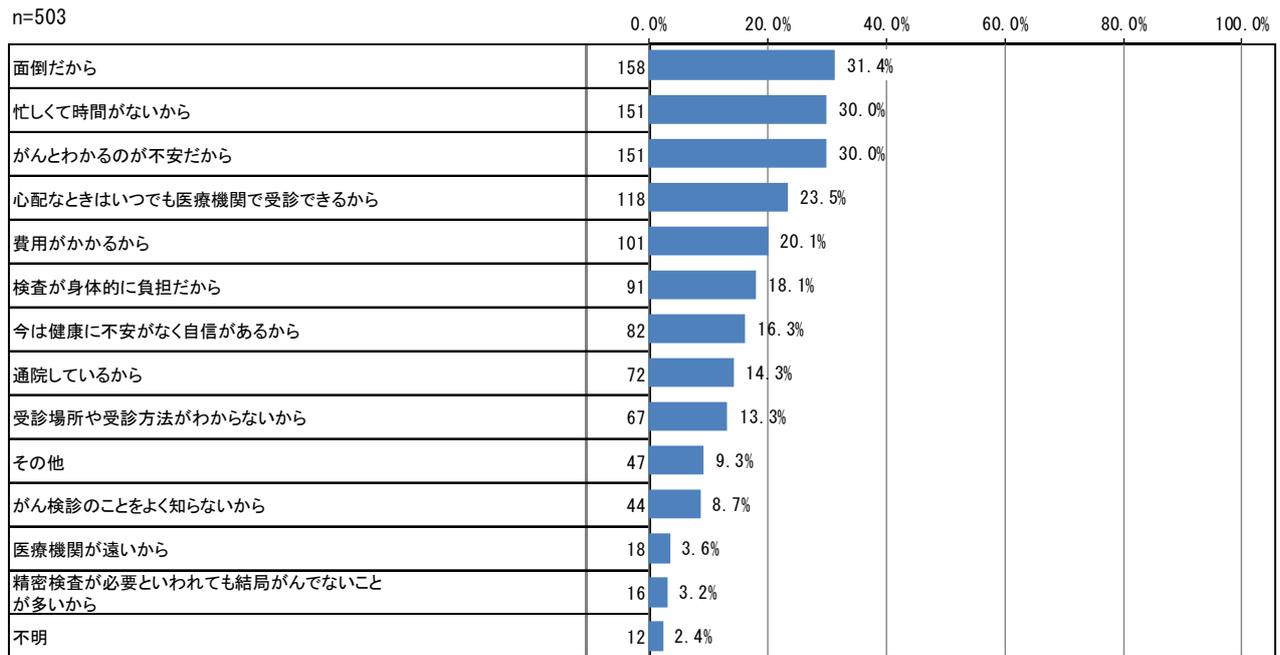


(4) がん検診を受診しない理由

問7 がん検診を受診したことがない方にお尋ねします。がん検診を受診しない理由を教えてください。【3MA】

※がん検診を受診したことがない方…問5昨年度いずれのがん検診も受診せず、
問6がん検診受診のきっかけの回答が不明のサンプル(503サンプル)

・がん検診を受診しない理由としては「面倒だから」(31.4%)、「忙しくて時間がないから」(30.0%)、「がんとわかるのが不安だから」(30.0%)の順で高かった。



4: 特定健康診査について

(1) 昨年度の特定健康診査の受診状況

問8 あなたは昨年度(平成27年4月～平成28年3月)に、特定健康診査を受けましたか？

・特定健康診査の受診率は全体で35.1%であった。

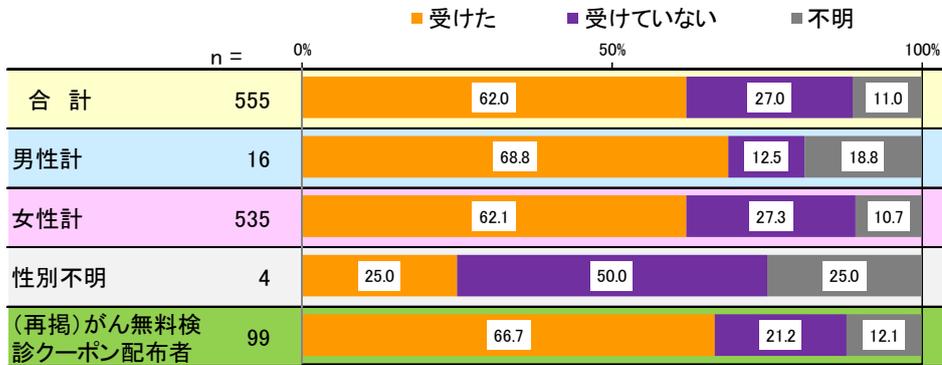
■ 受けた ■ 受けていない ■ 今まで受けたことが一度もない ■ 不明



(2) 特定健康診査と同時のがん検診の受診状況

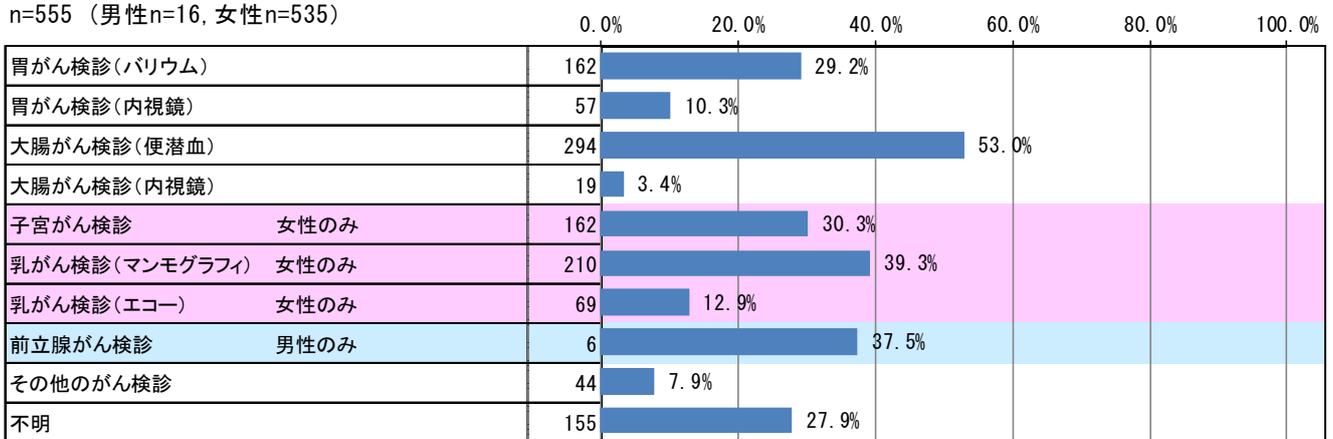
問9 昨年度に特定健康診査を受けた方にお尋ねします。特定健康診査と同時のがん検診を受けましたか？

・特定健康診査の受診者が同時のがん検診を受診したのは62.0%であった。



(問9で「受けた」と回答の方) それはどのようながん検診ですか【複数回答】

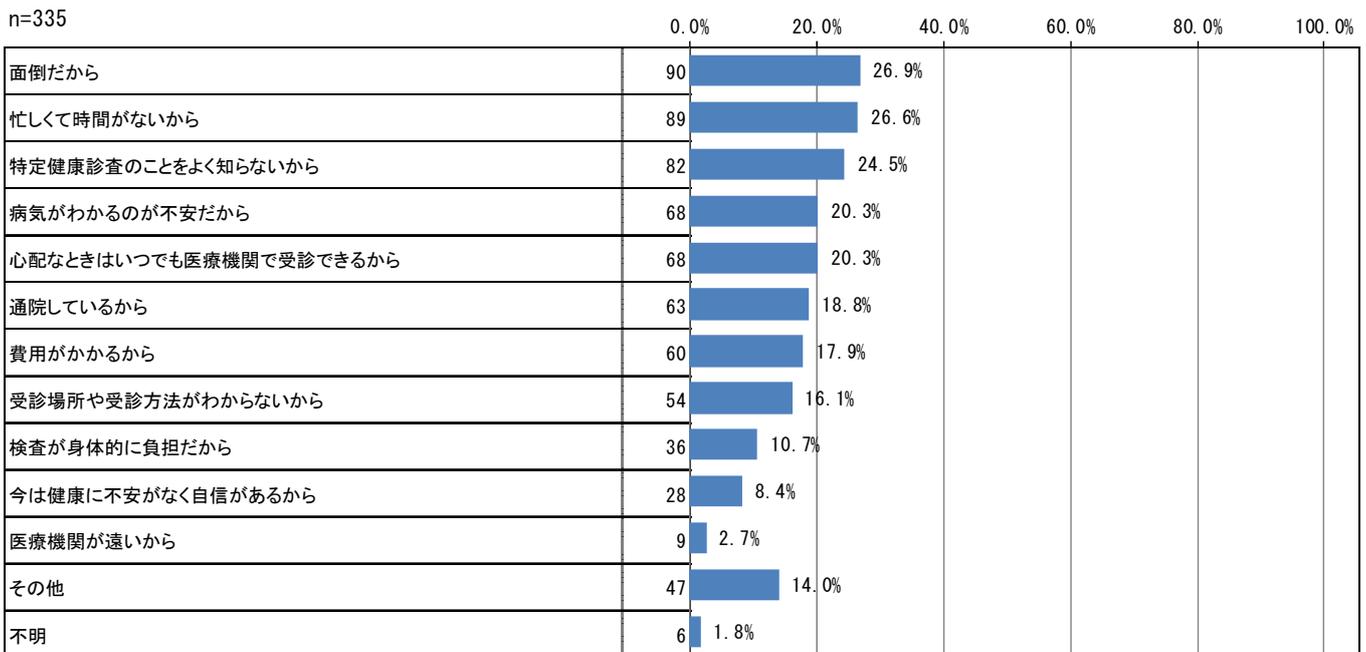
・特定健康診査の受診者が同時に受診したがん検診の内容としては「大腸（便潜血）」(53.0%)、「乳がん（マンモグラフィ）」(女性のみ 39.3%)、「前立腺」(男性のみ 37.5%)、の順で高く、無料クーポン券を配布したり、ワンコイン検診を実施しているがん検診の受診率が高かった。



(3) 特定健康診査を受診しない理由

問 10 特定健康診査を受診したことがない方にお尋ねします。特定健康診査を受診しない理由を教えてください。

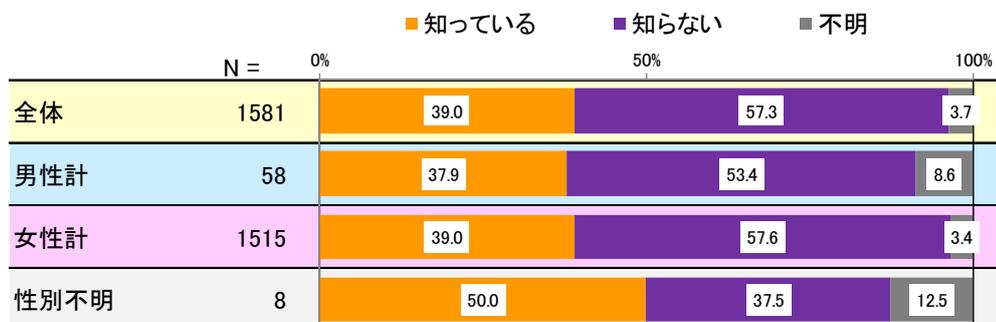
・特定健康診査を受診しない理由としては「面倒だから」(26.9%)、「忙しくて時間がないから」(26.6%)、「特定健康診査のことをよく知らないから」(24.5%)の順で高かった。



5: 特定保健指導について

問 11 「特定保健指導」がどのようなものか知っていますか

・特定保健指導を「知っている」のは全体の 39.0%であった

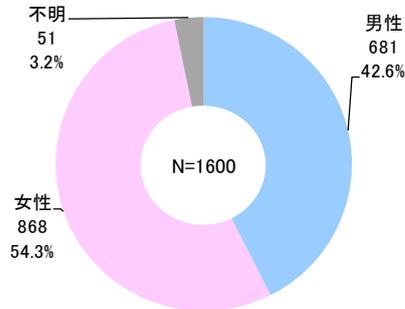


II：調査結果 ④がん患者

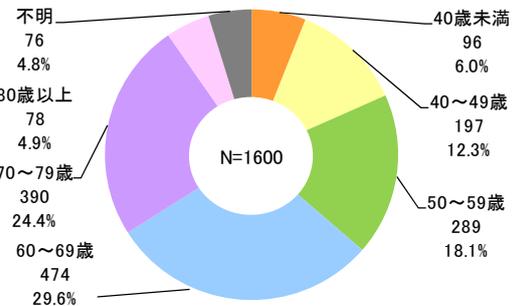
1：回答者のプロフィール

(1) 性別と年代

問1 性別

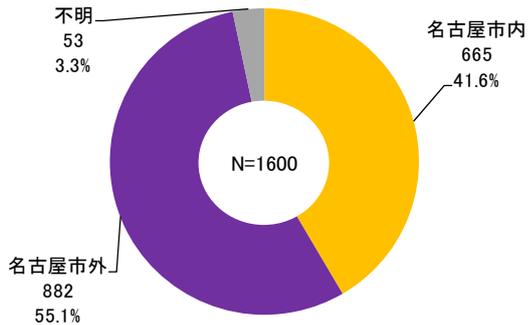


問3 年代



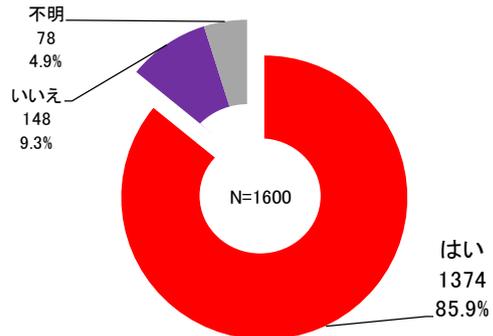
(2) 居住地

問2 居住地



(3) がんの罹患状況

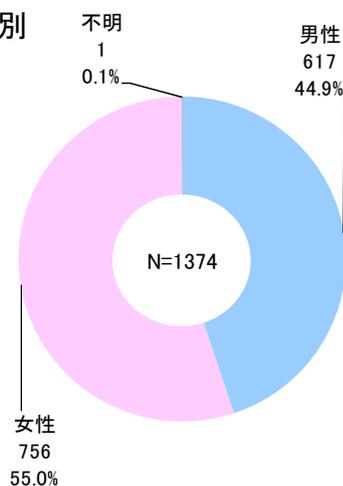
問4 あなたはがんと診断されていますか



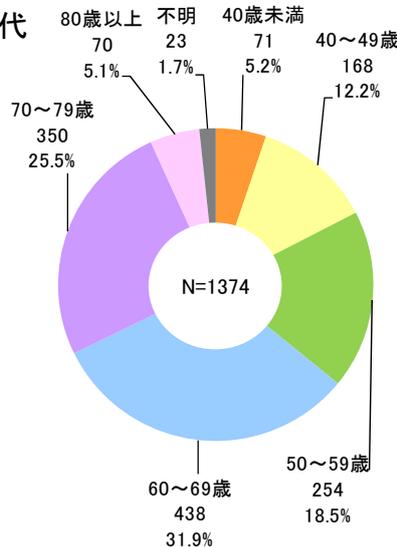
2：回答者(がん患者)のプロフィール

(1) 性別と年代

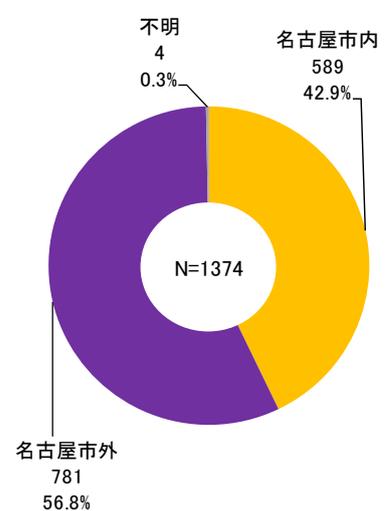
性別



年代



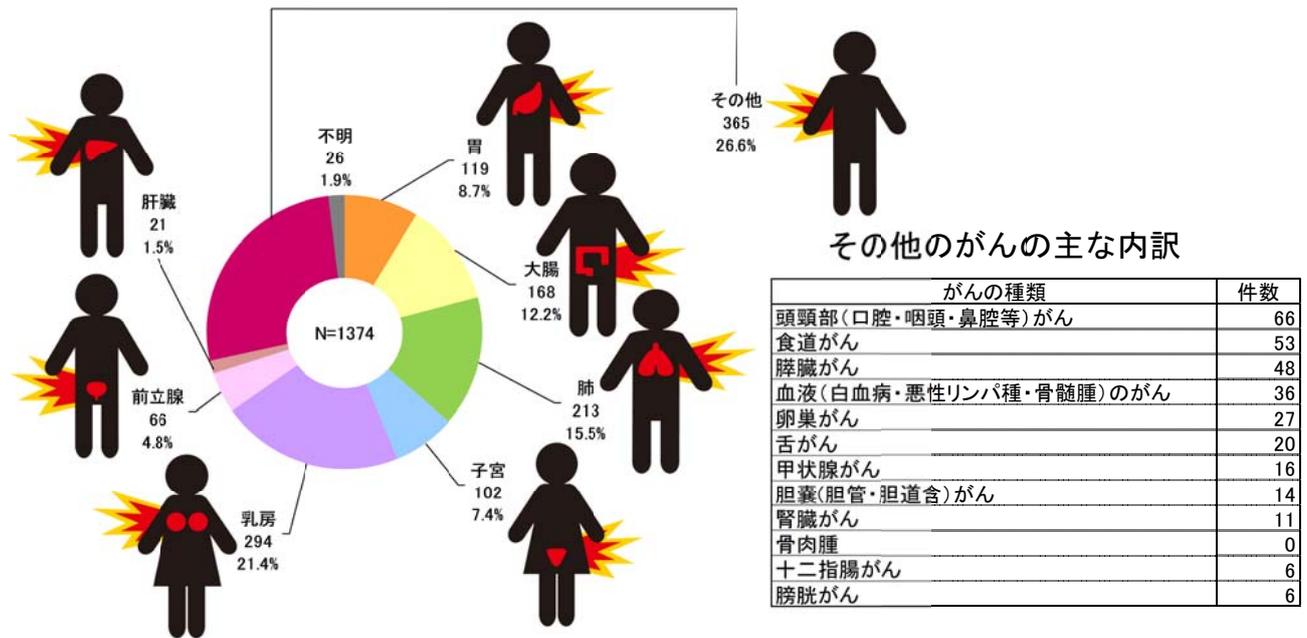
(2) 居住地



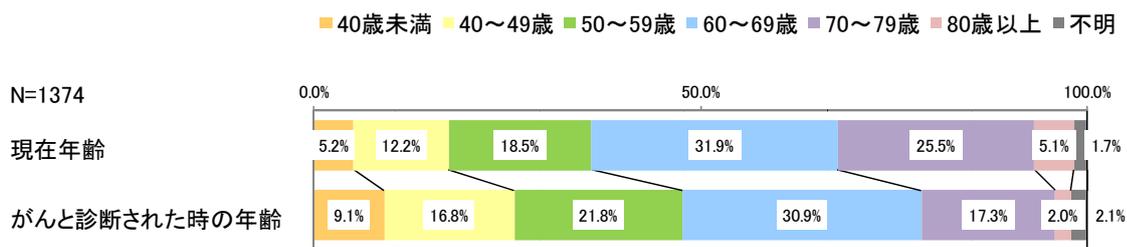
(3) がんの状況

- 問5 診断されたがんの種類（原発巣）を教えてください。
 問6 最初にごんと診断された時の年齢を教えてください。
 問7 診断されたときの進行度（ステージ）を教えてください。
 複数回かかったときは、直近のがんについて教えてください。

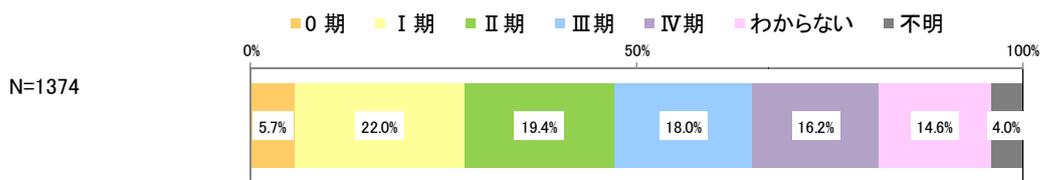
原発巣



がんと診断された時の年齢



がんと診断された時の進行度

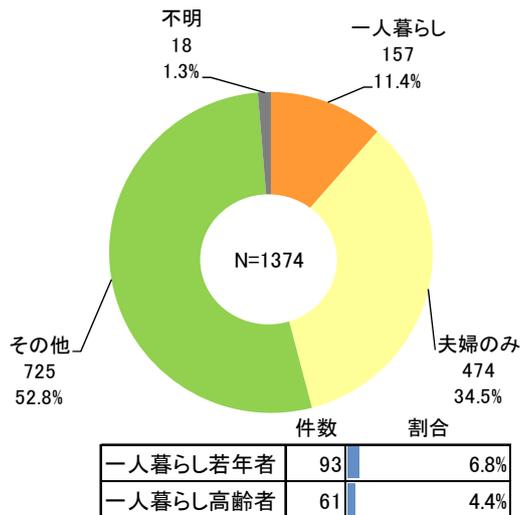


(4) がん診断時の世帯の状況

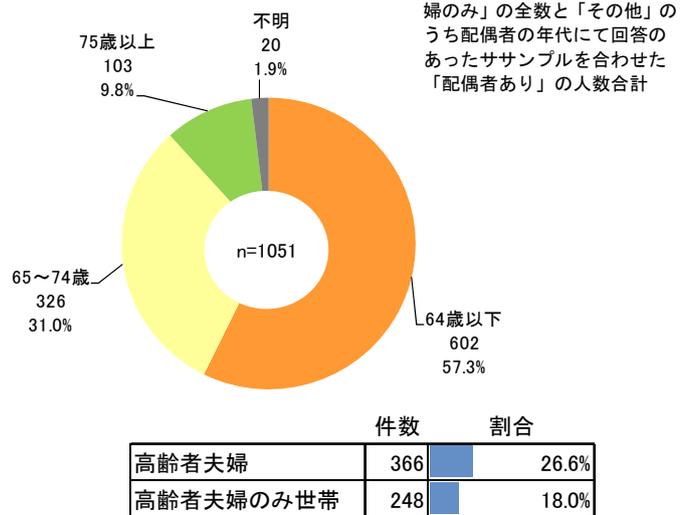
- ・がん診断時の世帯の状況として、若年者の独居世帯は全体の6.8%、高齢者の独居世帯は4.4%で高齢者夫婦のみ世帯は18.0%であった。
- ・家族の状況として、中学生以下の子どもがいたのは12.6%、介護や介助が必要な者がいたのは18.2%、がん患者自身が介護や介助をしていたのが5.7%であった。

問8 がんを診断されたときの世帯の状況を教えてください。

(世帯の状況)



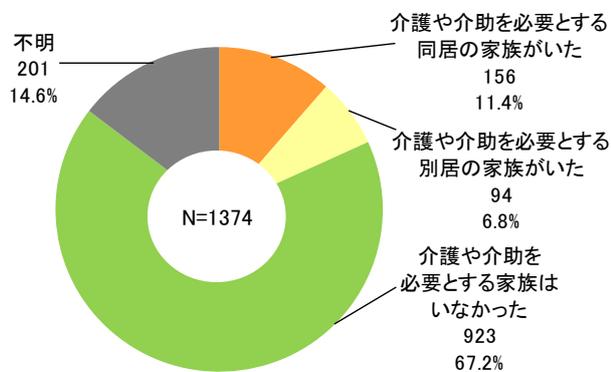
(配偶者の年代)



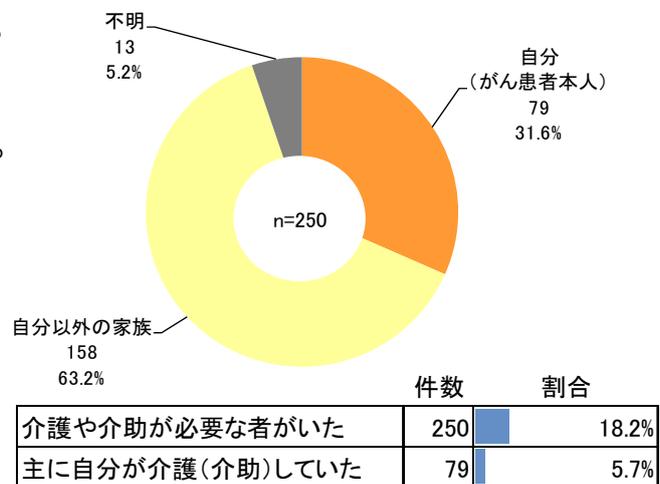
(子供の人数)

N=1374	1人	2人	3人以上	いない	子供がいた割合
0歳~2歳	33	4	0	1337	2.7%
3歳~就学前	31	5	0	1338	2.6%
小学生・中学生	79	47	5	1243	9.5%
子供全体	87	75	11	1201	12.6%

(介護や介助を必要とする、高齢者や障害者・児等の家族の有無)



主に介護(介助)していたのは誰ですか

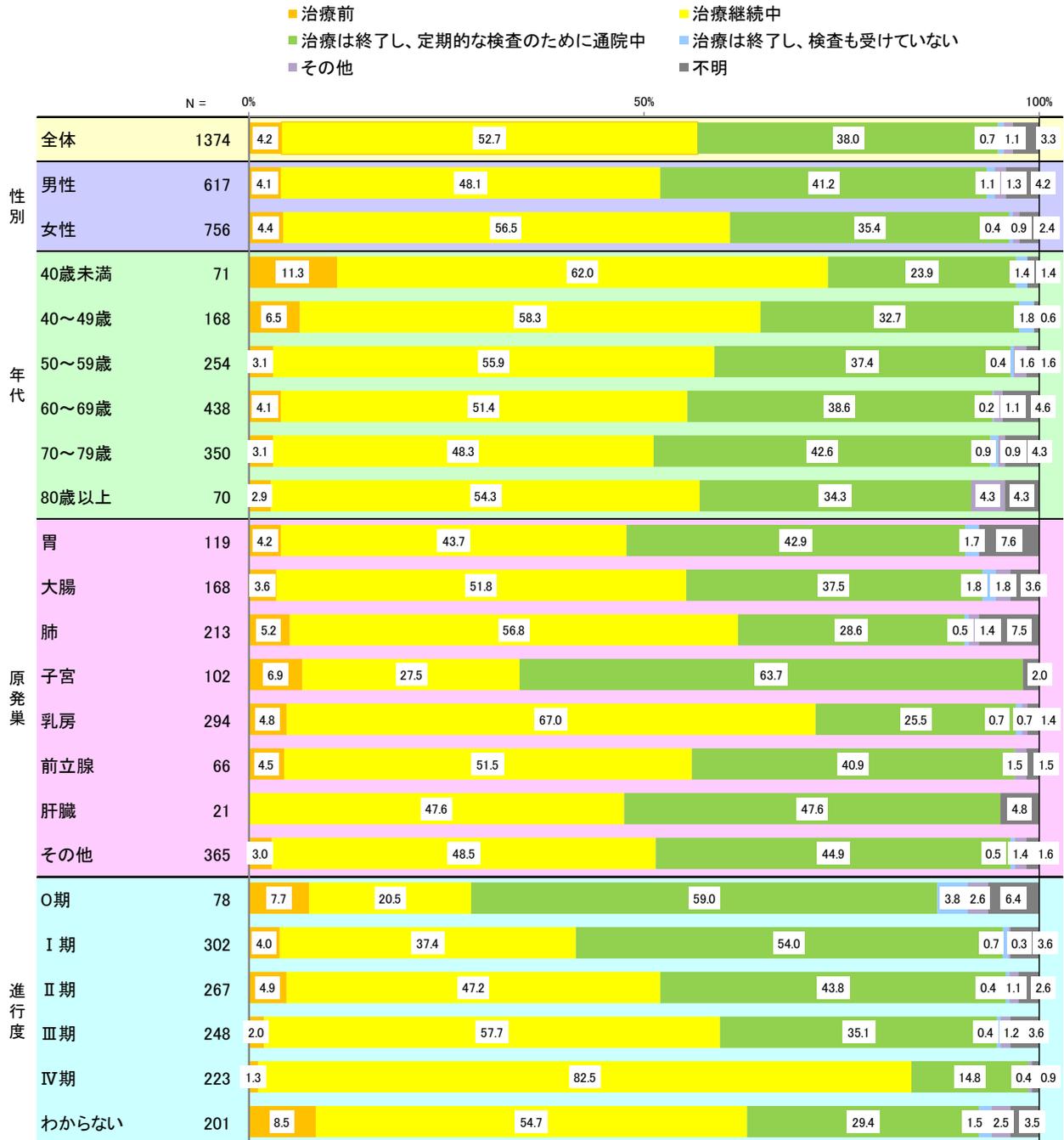


3:がん医療・がん患者の支援について

(1) がんの治療状況

問9 現在の状況を教えてください。

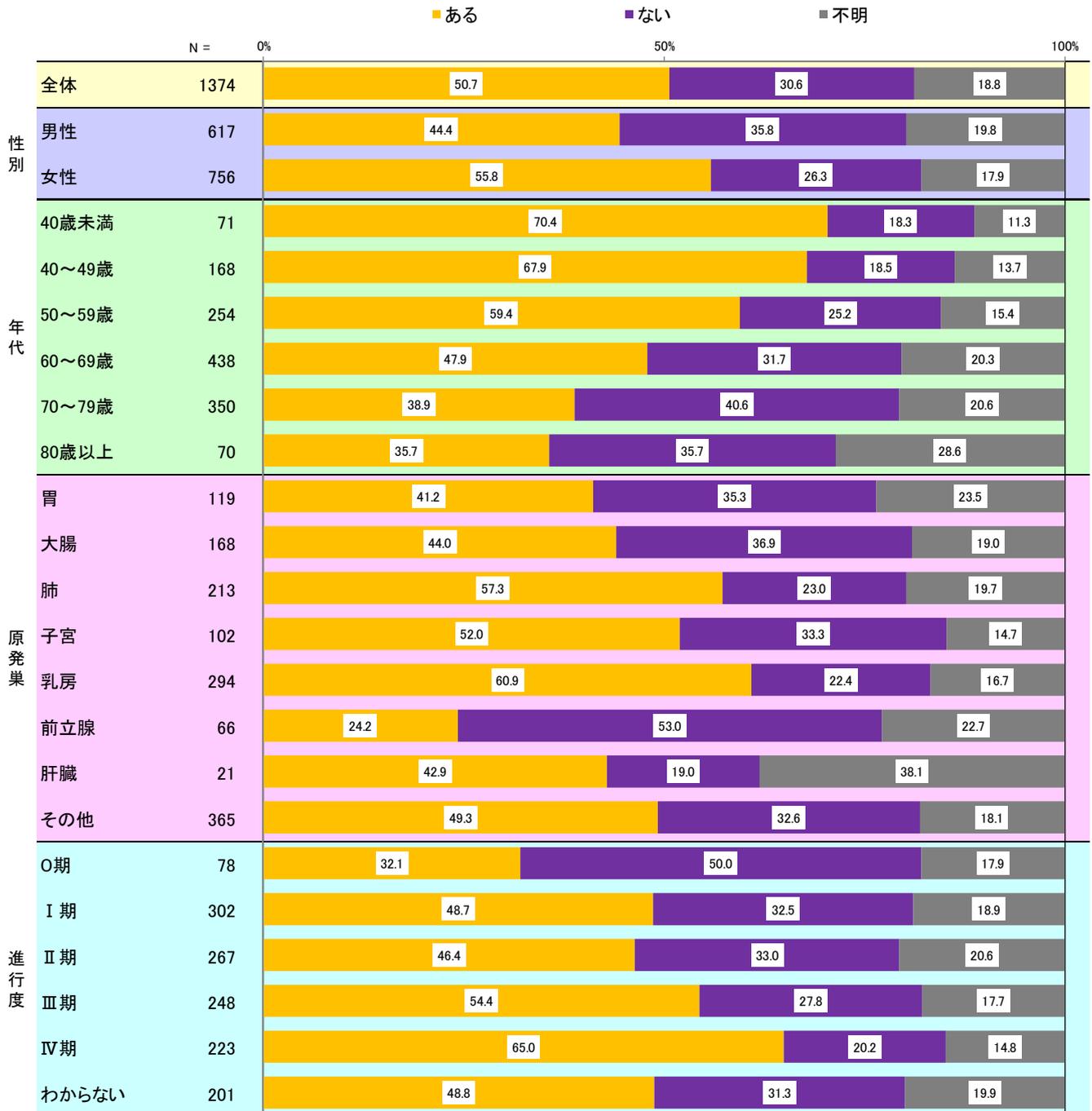
- ・現在の治療状況としては全体で「治療継続中」は52.7%で、「治療は終了し、定期的な検査のために通院中」は38.0%であった。
- ・がんの進行度が進むほど「治療継続中」と回答する割合が高くなっている。

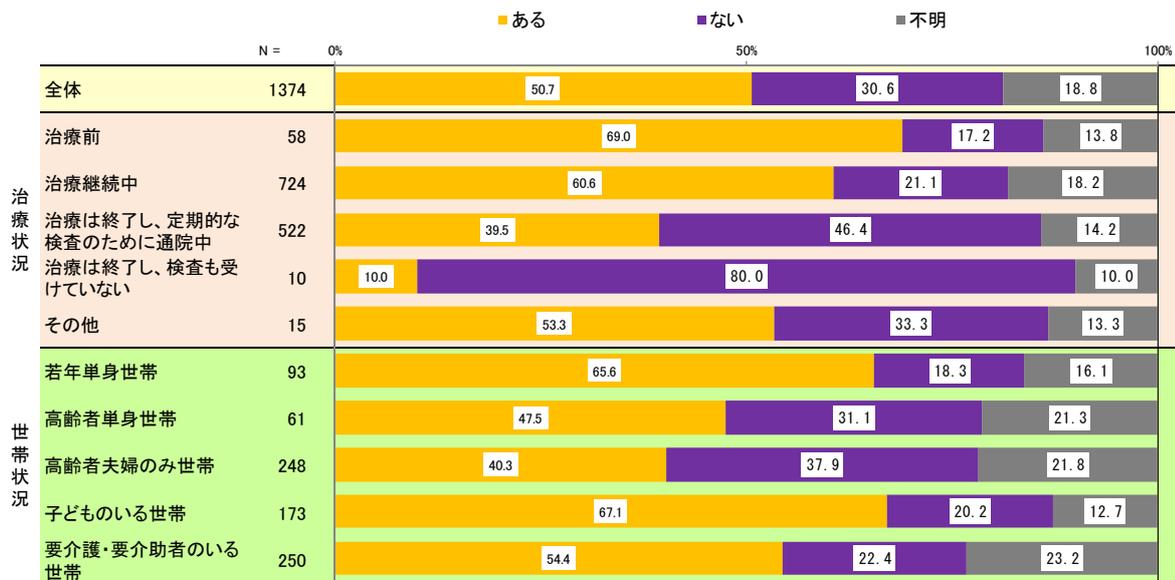


(2) がんについての悩み

問10 がんについて、現在、悩みがありますか？

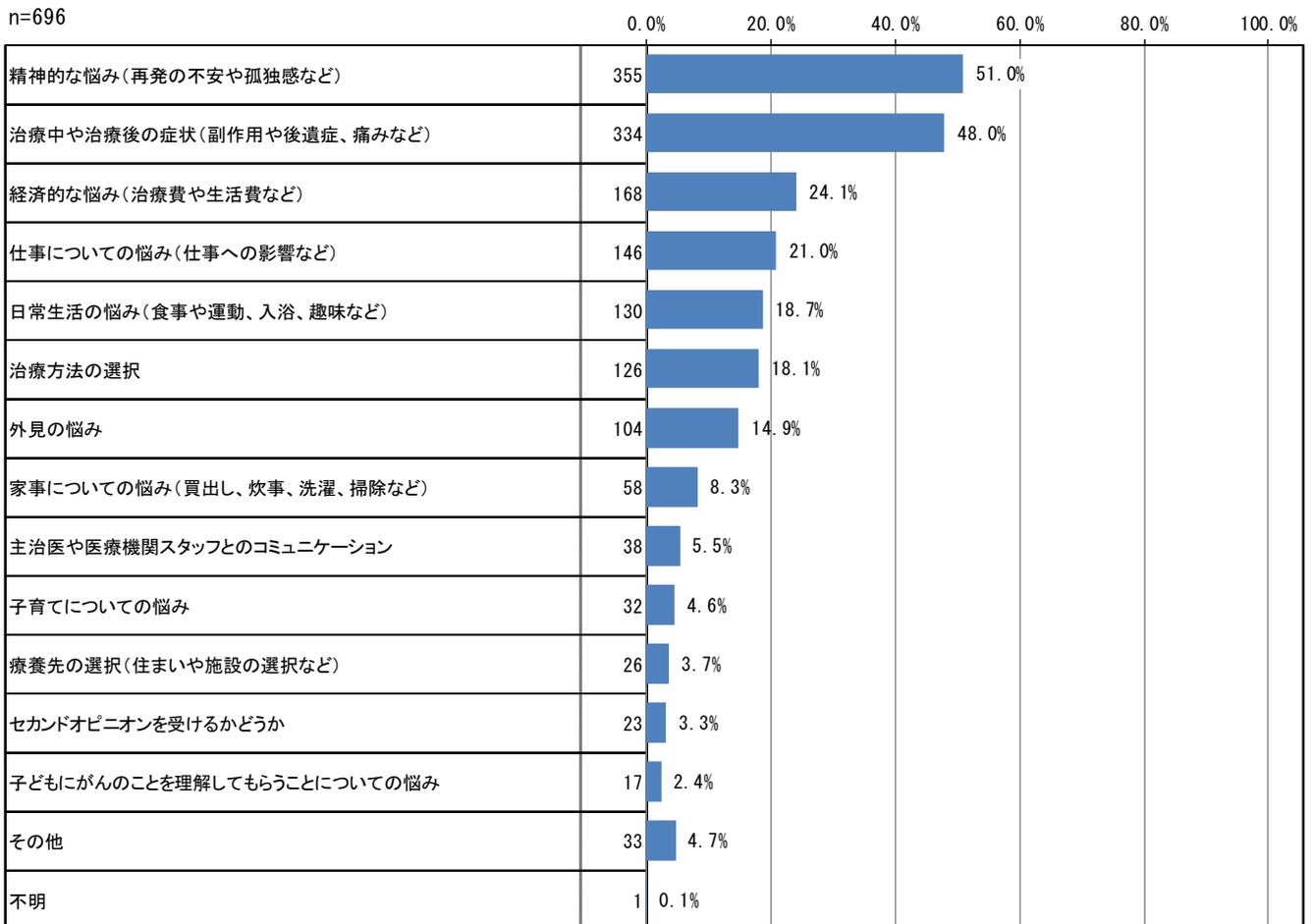
- ・現在、がんについての悩みがあるのは全体で50.7%と約半数であった。
- ・年代別では若い年代ほど、進行度別では進行しているほど、悩みがあるとする回答の割合が高い。
- ・世帯の状況別では、若年単身世帯と子どもがいる世帯で悩みがある割合が高い。





(問10で「はい」と回答の方) それほどのような悩みですか

- ・具体的な悩みの内容としては、「精神的な悩み」(51.0%)、「治療中や治療後の症状」(48.0%)が高い。
- ・若年層や、若年単身世帯、子供のいる世帯は「経済的な悩み」、「仕事についての悩み」が高くなっている。特に40歳未満では、「精神的な悩み」、「治療中や治療後の症状」に次いで「経済的な悩み」、「外見の悩み」、「仕事についての悩み」の順に多い。



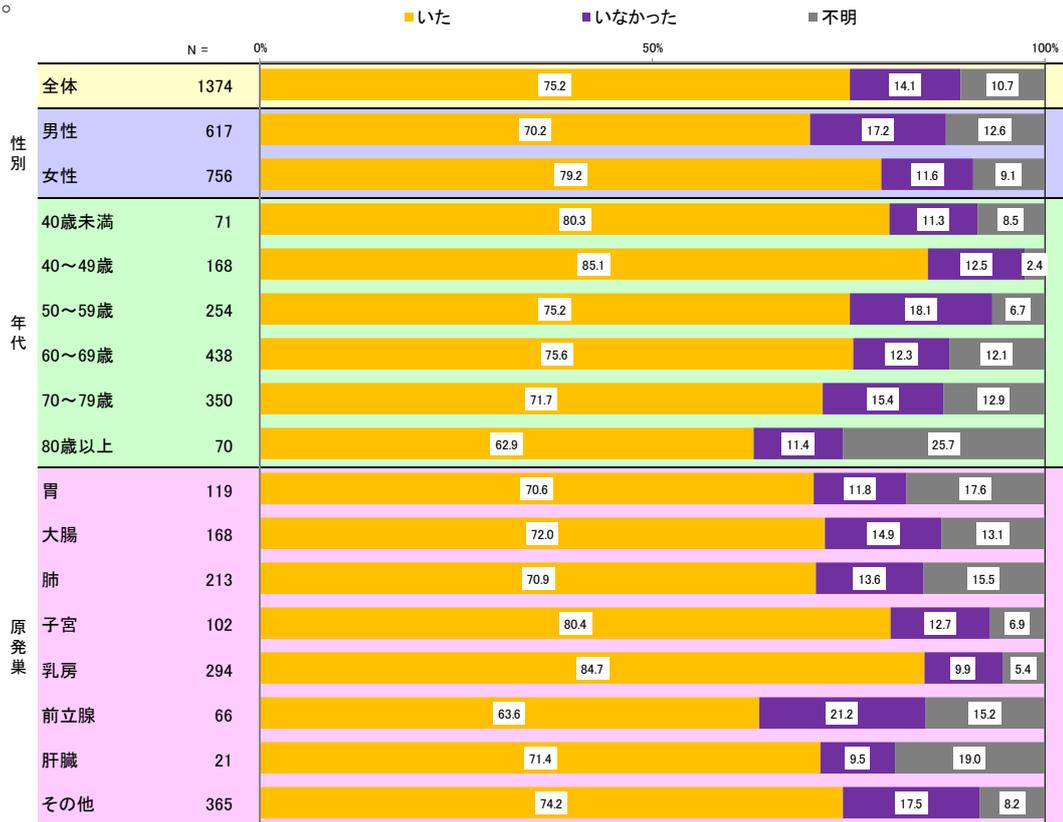
	調査数	セカンドオピニオンを受けるかどうか	治療方法の選択	治療中や治療後の症状（副作用や後遺症、痛みなど）	外見の悩み	療養先の選択（住まいや施設の選択など）	主治医や医療機関スタッフとのコミュニケーション	経済的な悩み（治療費や生活費など）	影響など	仕事についての悩み（仕事への影響など）	家事、洗濯、掃除など	子育てについての悩み	子どもにがんのことを理解してもらおうことについての悩み	日常生活の悩み（食事や運動、入浴、趣味など）	精神的な悩み（再発の不安や孤独感など）	その他	不明
全体	696	3.3	18.1	48.0	14.9	3.7	5.5	24.1	21.0	8.3	4.6	2.4	18.7	51.0	4.7	0.1	
性別																	
男性	274	3.6	21.9	50.4	7.3	3.6	3.3	21.2	21.2	3.6	1.1	1.5	26.3	42.7	4.7	0.4	
女性	422	3.1	15.6	46.4	19.9	3.8	6.9	26.1	20.9	11.4	6.9	3.1	13.7	56.4	4.7	0.0	
年代																	
40歳未満	50	2.0	12.0	46.0	34.0	4.0	2.0	38.0	26.0	12.0	20.0	8.0	20.0	58.0	4.0	0.0	
40～49歳	114	3.5	17.5	44.7	21.9	5.3	6.1	34.2	31.6	8.8	14.0	7.9	9.6	53.5	4.4	0.0	
50～59歳	151	3.3	17.9	48.3	15.9	2.0	5.3	28.5	35.8	9.3	3.3	0.7	15.9	53.6	3.3	0.0	
60～69歳	210	3.3	19.0	49.5	13.3	2.9	6.2	22.9	14.8	5.2	0.5	0.5	24.8	52.4	4.8	0.5	
70～79歳	136	3.7	15.4	48.5	4.4	4.4	4.4	9.6	5.1	10.3	0.0	1.5	18.4	47.8	5.9	0.0	
80歳以上	25	4.0	36.0	56.0	4.0	12.0	8.0	8.0	8.0	12.0	0.0	0.0	28.0	20.0	8.0	0.0	
原発巣																	
胃	49	6.1	26.5	46.9	10.2	4.1	4.1	8.2	26.5	6.1	6.1	4.1	30.6	34.7	6.1	0.0	
大腸	74	2.7	16.2	54.1	8.1	6.8	4.1	32.4	25.7	8.1	4.1	2.7	23.0	48.6	6.8	0.0	
肺	122	4.9	23.8	48.4	5.7	4.9	3.3	23.8	14.8	5.7	2.5	1.6	16.4	50.8	1.6	0.8	
子宮	53	0.0	18.9	52.8	5.7	3.8	5.7	20.8	18.9	5.7	5.7	1.9	7.5	64.2	5.7	0.0	
乳房	179	2.2	11.2	46.4	30.7	1.1	5.6	31.8	26.3	14.0	8.4	3.4	11.7	57.5	5.0	0.0	
前立腺	16	12.5	31.3	50.0	0.0	0.0	12.5	25.0	12.5	6.3	0.0	0.0	18.8	18.8	6.3	0.0	
肝臓	9	0.0	33.3	55.6	0.0	11.1	0.0	33.3	11.1	22.2	0.0	0.0	44.4	33.3	0.0	0.0	
その他	180	2.2	17.8	45.6	14.4	4.4	6.1	18.9	19.4	6.1	2.8	1.7	23.9	51.1	5.0	0.0	
進行度																	
0期	25	4.0	8.0	44.0	12.0	0.0	8.0	20.0	20.0	16.0	0.0	4.0	12.0	56.0	4.0	0.0	
I期	147	3.4	10.9	35.4	14.3	2.0	6.1	16.3	19.0	5.4	2.7	0.7	9.5	64.6	6.1	0.0	
II期	124	1.6	12.9	52.4	18.5	0.8	4.8	26.6	24.2	7.3	5.6	0.8	23.4	54.8	7.3	0.0	
III期	135	3.7	18.5	48.1	14.8	4.4	5.9	21.5	18.5	8.9	4.4	3.0	20.7	45.9	2.2	0.7	
IV期	145	5.5	26.2	60.0	11.0	8.3	6.2	29.0	21.4	6.2	5.5	3.4	24.1	39.3	4.1	0.0	
わからない	98	1.0	26.5	43.9	18.4	4.1	3.1	30.6	26.5	13.3	6.1	3.1	16.3	50.0	3.1	0.0	
治療状況																	
治療前	40	7.5	47.5	57.5	15.0	0.0	5.0	32.5	37.5	10.0	15.0	2.5	10.0	42.5	2.5	0.0	
治療継続中	439	4.1	21.2	55.4	15.3	4.8	6.8	27.3	22.3	10.7	5.0	2.7	20.3	45.8	4.3	0.0	
治療は終了し、定期的な検査のために通院中	206	0.5	5.8	31.6	15.0	2.4	2.4	15.0	14.6	3.4	1.9	1.9	16.5	65.5	5.3	0.0	
治療は終了し、検査も受けていない	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
その他	8	12.5	25.0	25.0	0.0	0.0	12.5	25.0	37.5	0.0	0.0	0.0	37.5	25.0	25.0	0.0	
世帯状況																	
若年単身世帯	61	3.3	8.2	39.3	29.5	6.6	6.6	36.1	52.5	8.2	1.6	1.6	19.7	52.5	0.0	0.0	
高齢者単身世帯	29	3.4	13.8	55.2	3.4	13.8	6.9	13.8	0.0	17.2	0.0	0.0	27.6	27.6	6.9	0.0	
高齢者夫婦のみ世帯	100	7.0	25.0	49.0	8.0	2.0	8.0	12.0	3.0	9.0	0.0	0.0	20.0	51.0	10.0	0.0	
子どもがいる世帯	116	2.6	15.5	42.2	18.1	3.4	2.6	32.8	29.3	12.9	25.9	10.3	11.2	57.8	4.3	0.0	
要介護・要介助者のいる世帯	136	2.9	21.3	52.9	11.0	2.9	5.9	23.5	19.1	8.8	5.9	1.5	18.4	48.5	4.4	0.0	

1番高い数値 2番目の数値

(3) がん診断時の相談先

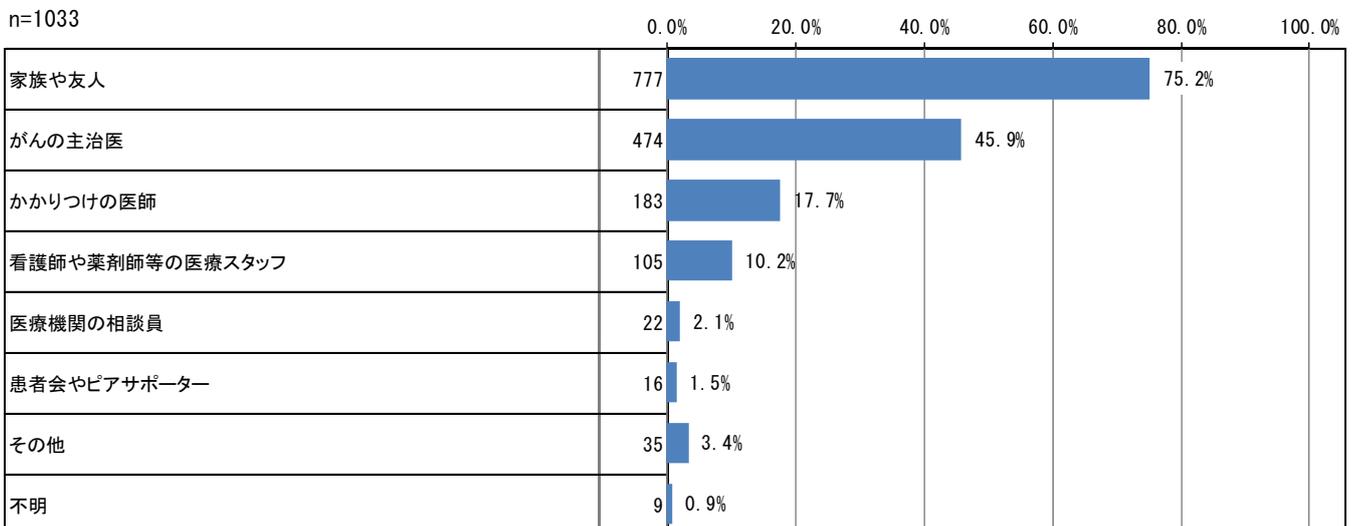
問 1 1 がんと診断されたとき、がんや、がんの治療などに関する様々な疑問や不安について、相談できる人がいましたか？

- ・がんと診断されたときに相談できる人がいたかについて、全体の75.2%が「いた」と回答した。
- ・年代別で見ると40代以下の若年層が若干高く、70代以上の高齢層が若干低い。
- ・がんの原発巣別では子宮がん、乳がんといった女性に関するがんが高く、男性に関わる前立腺がんが低い。



(問 1 1 で「いた」と回答の方) それほどのような人ですか

- ・具体的な相談先としては、「家族や友人」(75.2%)、「がんの主治医」(45.9%) の2つが高かった。



(4) がんやがんの治療について必要な情報

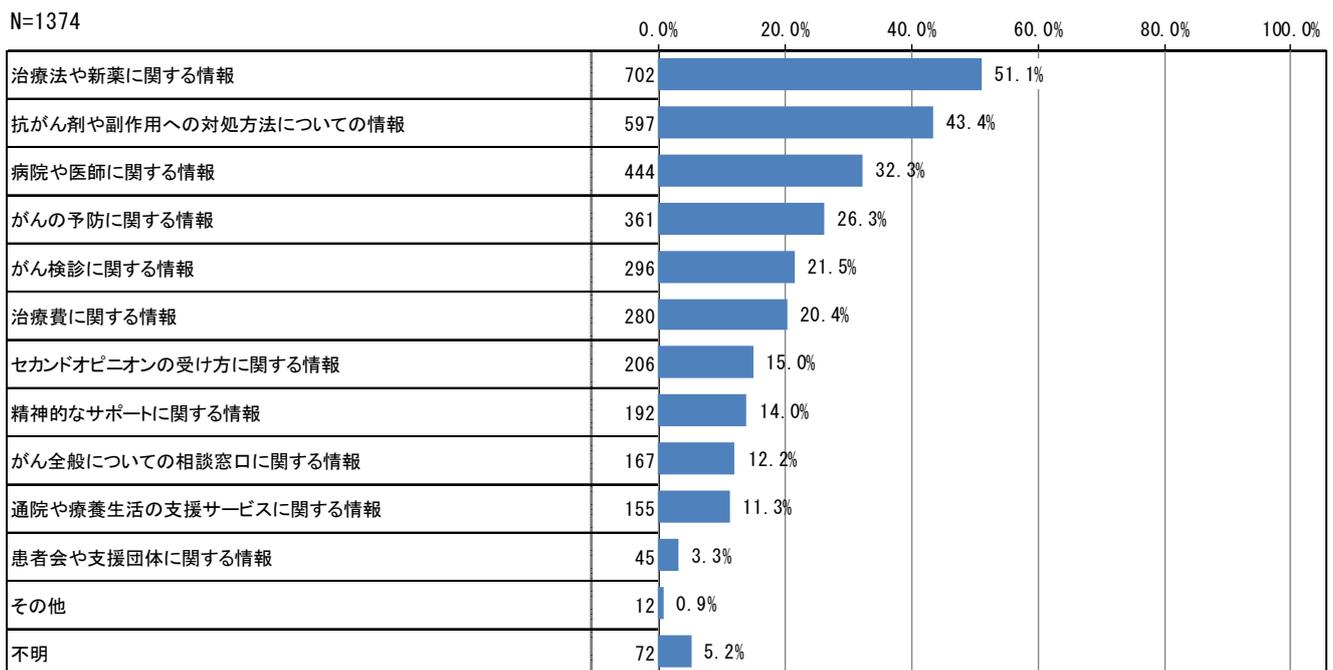
問12 がんやがんの治療について必要な情報が得られていると思いますか？

・がんやがんの治療について必要な情報が得られていると思うかについて、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」を合わせると全体の75.1%が得られているとしている。



問13 あなたは、がんや、がんの治療について、特にどのような情報が必要だと思いますか？【3MA】

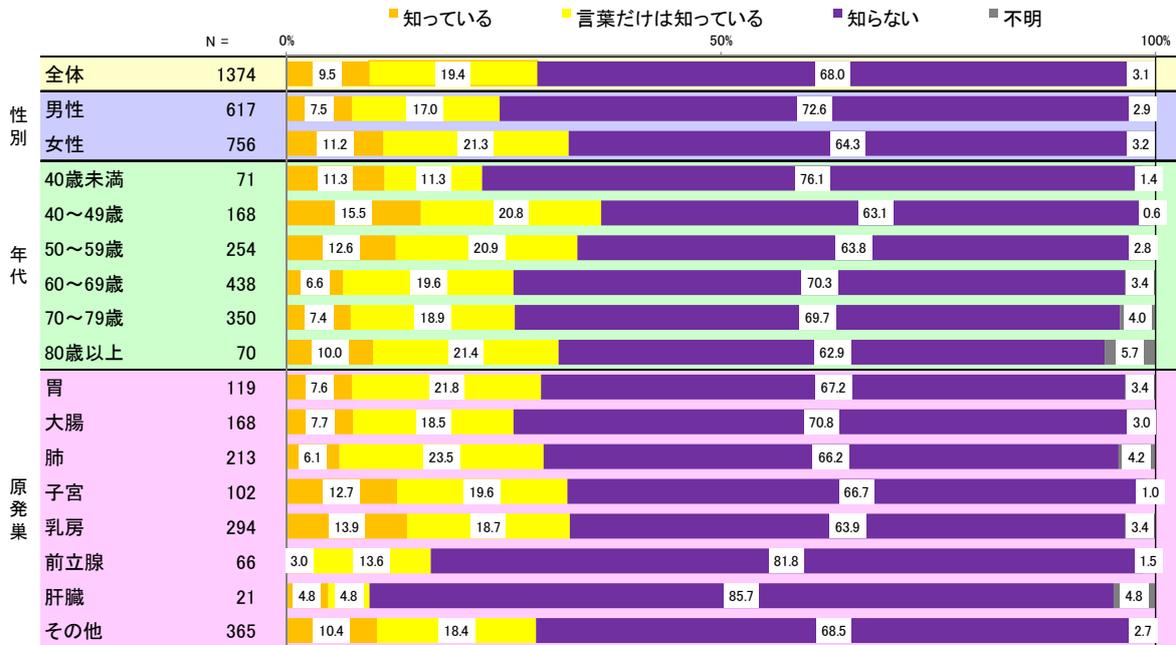
・がんやがんの治療について必要な情報の内容については、全体で「治療法や新薬」(51.1%)、「抗がん剤や副作用」(43.4%)の2つが多くなっている。



(5) ピアサポート・ピアネットの認知

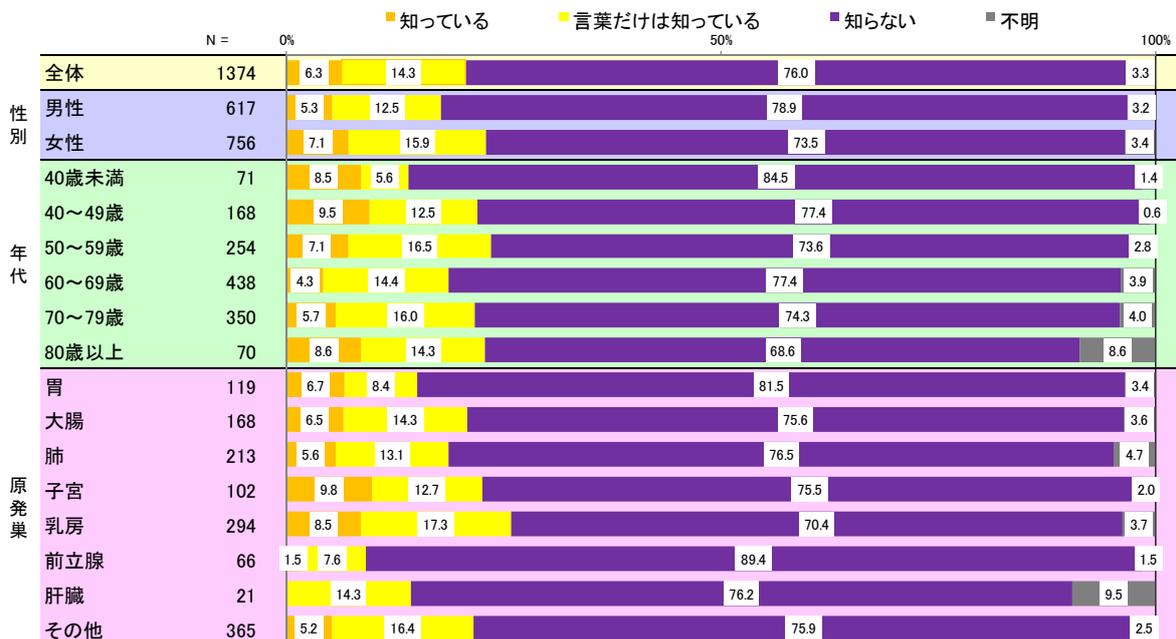
問14 がんの「ピアサポート」を知っていますか？

- ・ピアサポートについて、「知っている」、「言葉だけは知っている」を合わせた認知度は全体の28.9%となった。
- ・年代別では40歳未満、60～79歳の年代で3割に満たず、原発巣別では前立腺がん、肝臓がんが2割以下と低くなっている。



問15 がん相談・情報サロン「ピアネット」を知っていますか？

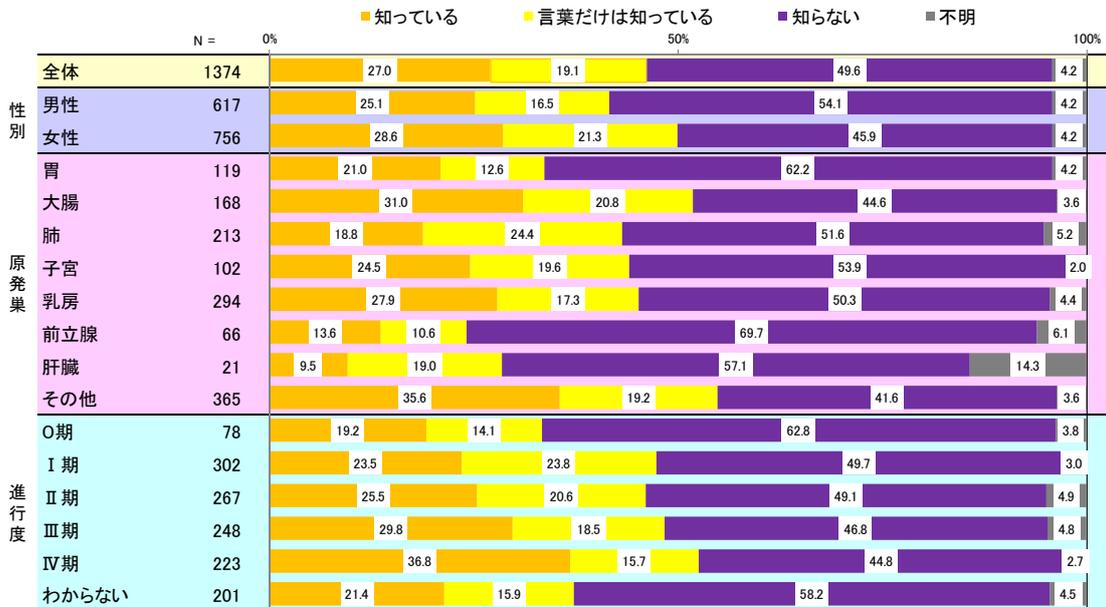
- ・ピアネットについて、「知っている」、「言葉だけは知っている」を合わせた認知度は全体の20.6%となった。
- ・年代別では40歳未満、原発巣別では胃がん、前立腺がん、肝臓がんが2割以下と低くなっている。



(6) 口腔ケアの必要性の認知

問16 がん医療における「口腔ケア」の必要性について、知っていますか？

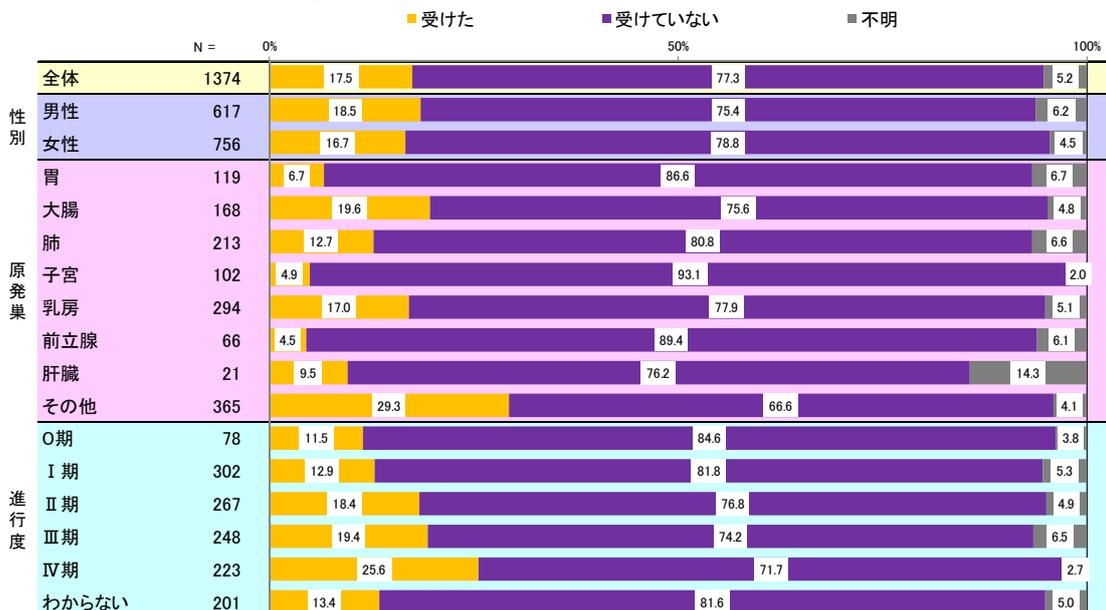
- ・口腔ケアの必要性について、「知っている」、「言葉だけは知っている」を合わせた認知度は全体で46.1%となった。
- ・原発巣別では前立腺がん、肝臓がんの認知度が低くなっており、進行度別では、進行度が高いほど認知率が高くなっている。



(7) 口腔ケアの受診経験

問17 がん医療において、「口腔ケア」を受けていますか（受けましたか）？

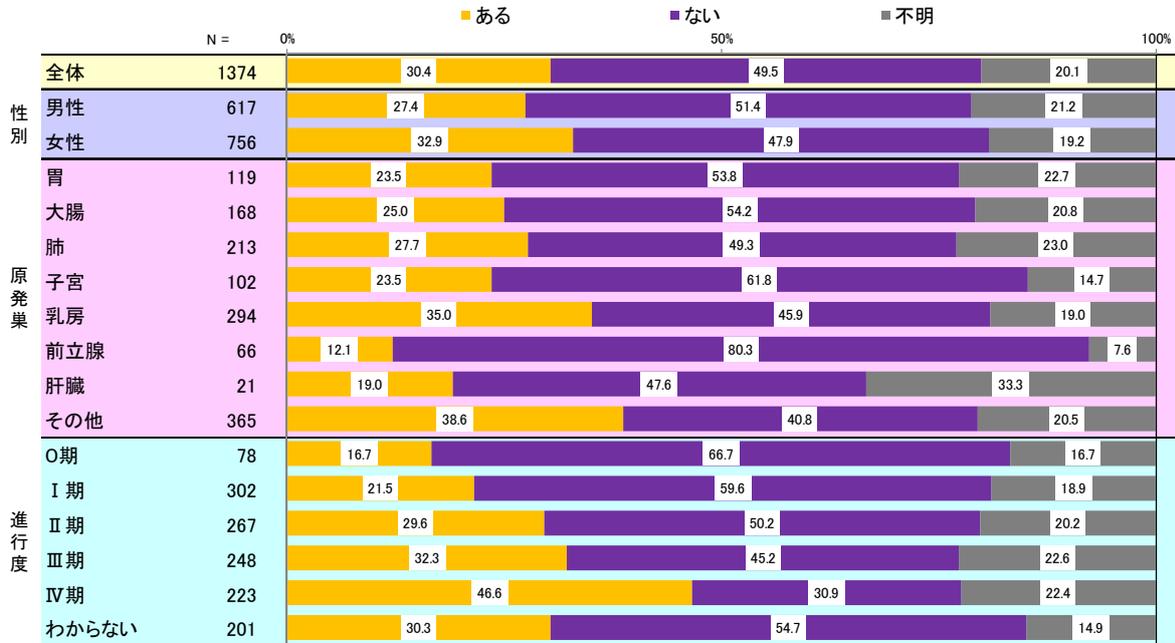
- ・口腔ケアの受診経験について、受診率は全体で17.5%となった。
- ・原発巣別では胃、子宮、前立腺、肝臓がんで受診率が低くなっており、進行度別では、進行度が高いほど、受診率が高くなっている。



(8) がん治療時の口腔の悩み

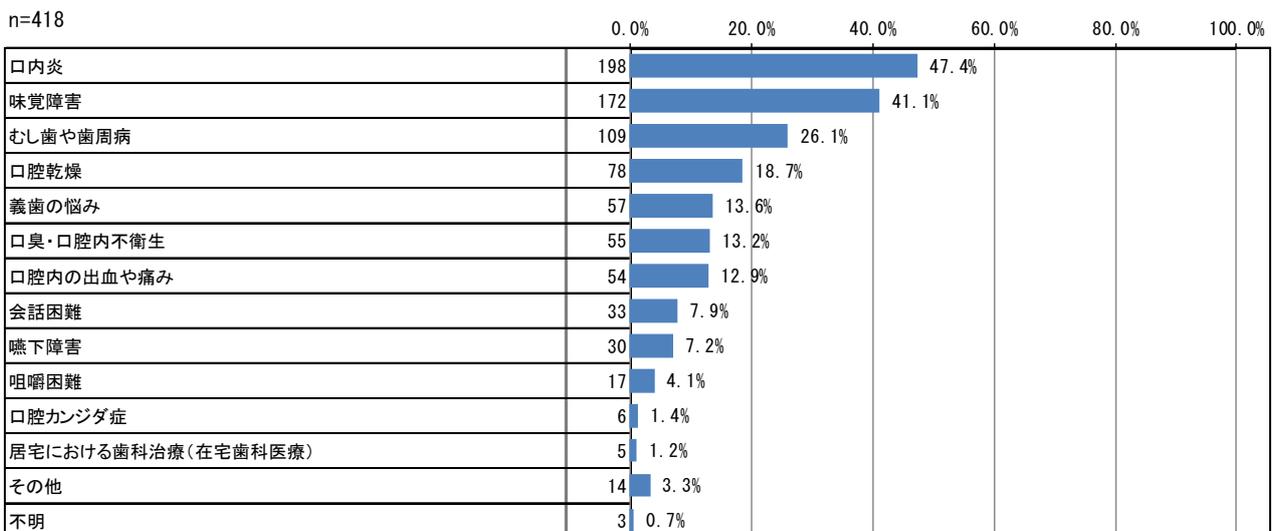
問18 がん治療において、お口の事で、困ることがありますか(ありましたか)？

- ・がん治療時において全体の30.4%が口腔の悩みがあった。
- ・原発巣別では前立腺がん、肝臓がんで口腔の悩みが低くなっており、進行度別では、進行度が高いほど悩みが高くなっている。



(問18で「ある」と回答の方) それほどのようなことですか【複数回答】

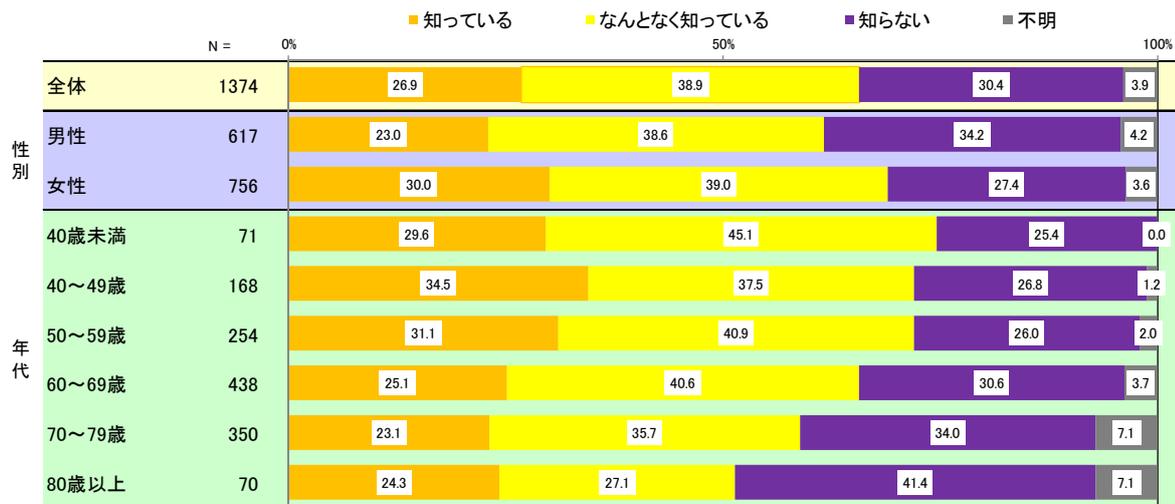
- ・がん治療時の具体的な口腔の悩みの内容としては、「口内炎」(47.4%)と「味覚障害」(41.1%)の2つが多かった。



(9) 緩和ケアの認知

問19 あなたは、がん医療の「緩和ケア」が、身体の痛みだけでなく、心も含めた様々なつらさを和らげるケアであり、がんと診断されたときから実施されるべきものであることを知っていますか？

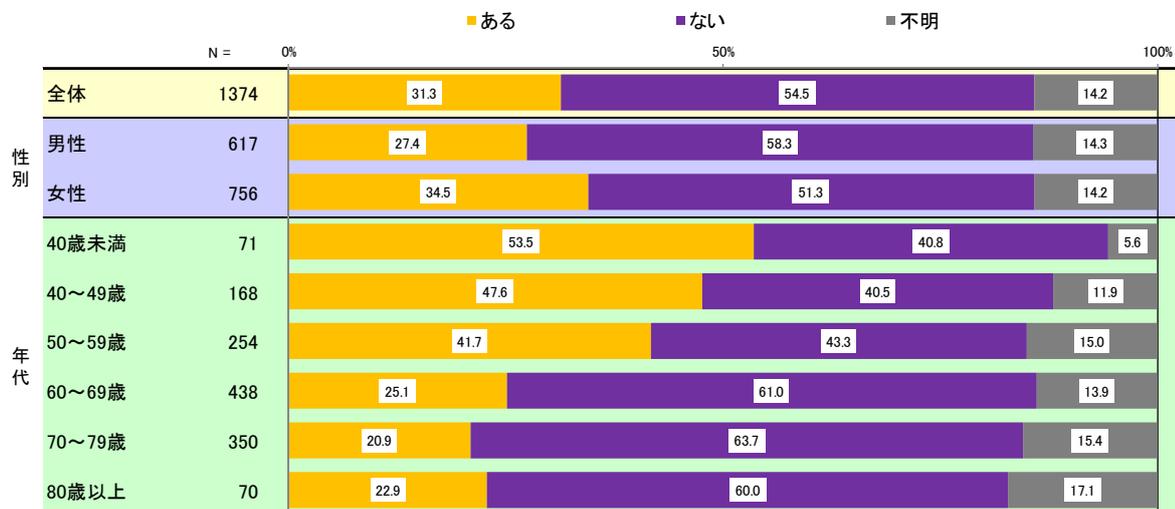
- ・緩和ケアについて、「知っている」、「なんとなく知っている」を合わせた認知度は全体で 65.8% となった。
- ・年代別では若い年代ほど認知率が高い。

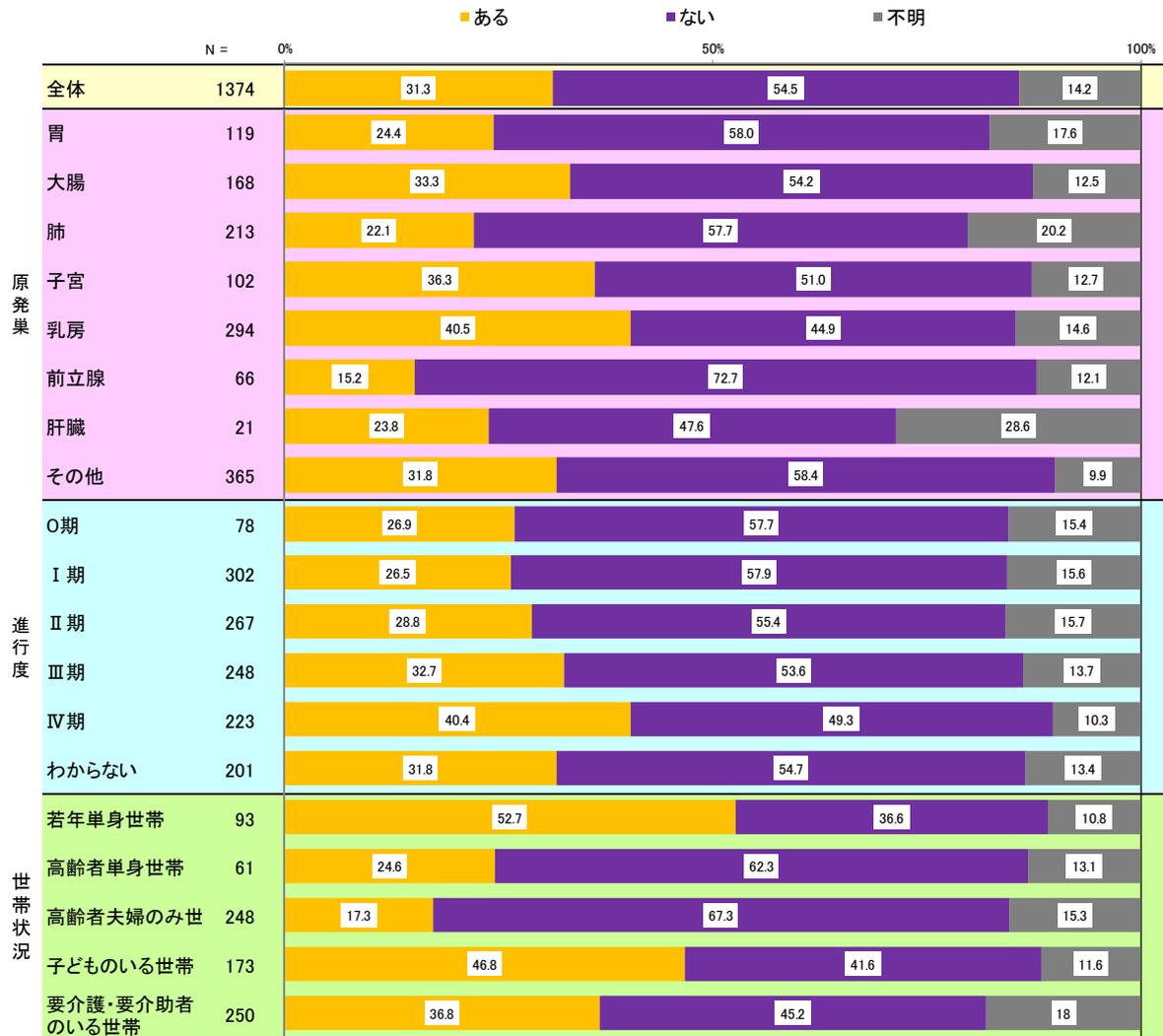


(10) 通院治療や在宅療養について

問20 治療の際に、困ることがありますか(ありましたか)？

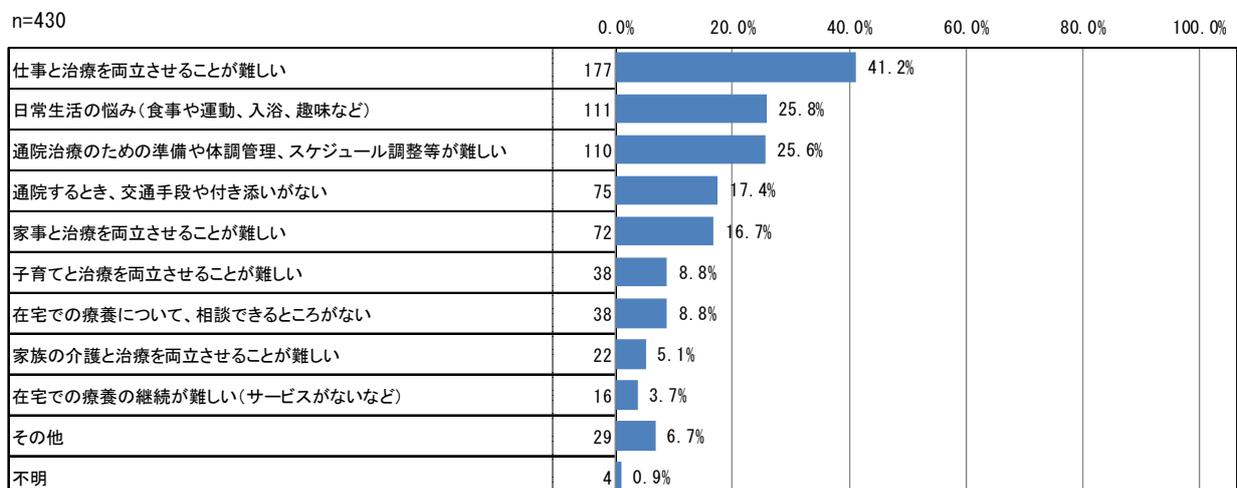
- ・通院治療や在宅療養において全体の 31.3% が困ることがあると回答した。
- ・年代別では若年ほど、進行度別では進行度が進むに連れて困ることがある割合が高い。特に 40 歳未満では、5 割以上 (53.5%) が、困りごとがあると回答した。
- ・世帯状況別では、若年単身世帯や子供のいる世帯で高くなっている。





(問20で「ある」と回答の方)それはどのようなことですか【3MA】

・通院治療や在宅療養において困ることの内容としては「仕事と治療の両立」が41.2%と最も高く、次いで「日常生活」(25.8%)、「通院の準備、体調管理、スケジュール調整」(25.6%)の順となった。

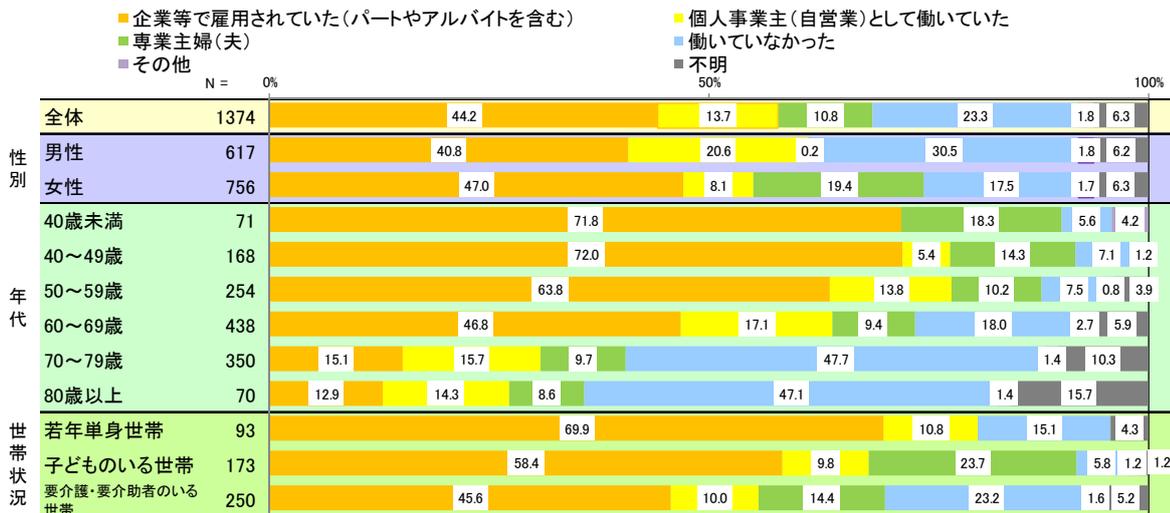


4:仕事と治療の両立について

(1) がんと診断された時の労働状況

問 2 1 がんを診断されたとき、働いていましたか？

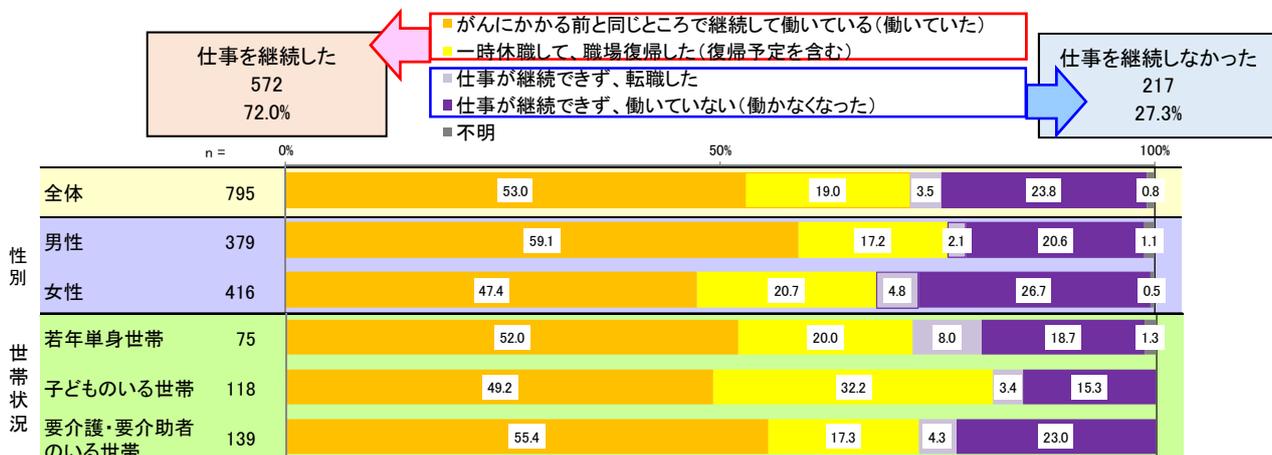
・がんを診断された時に働いていたのは、「企業等で雇用されていた」と「個人事業主（自営業）」を合わせ、全体で 57.9% となった。

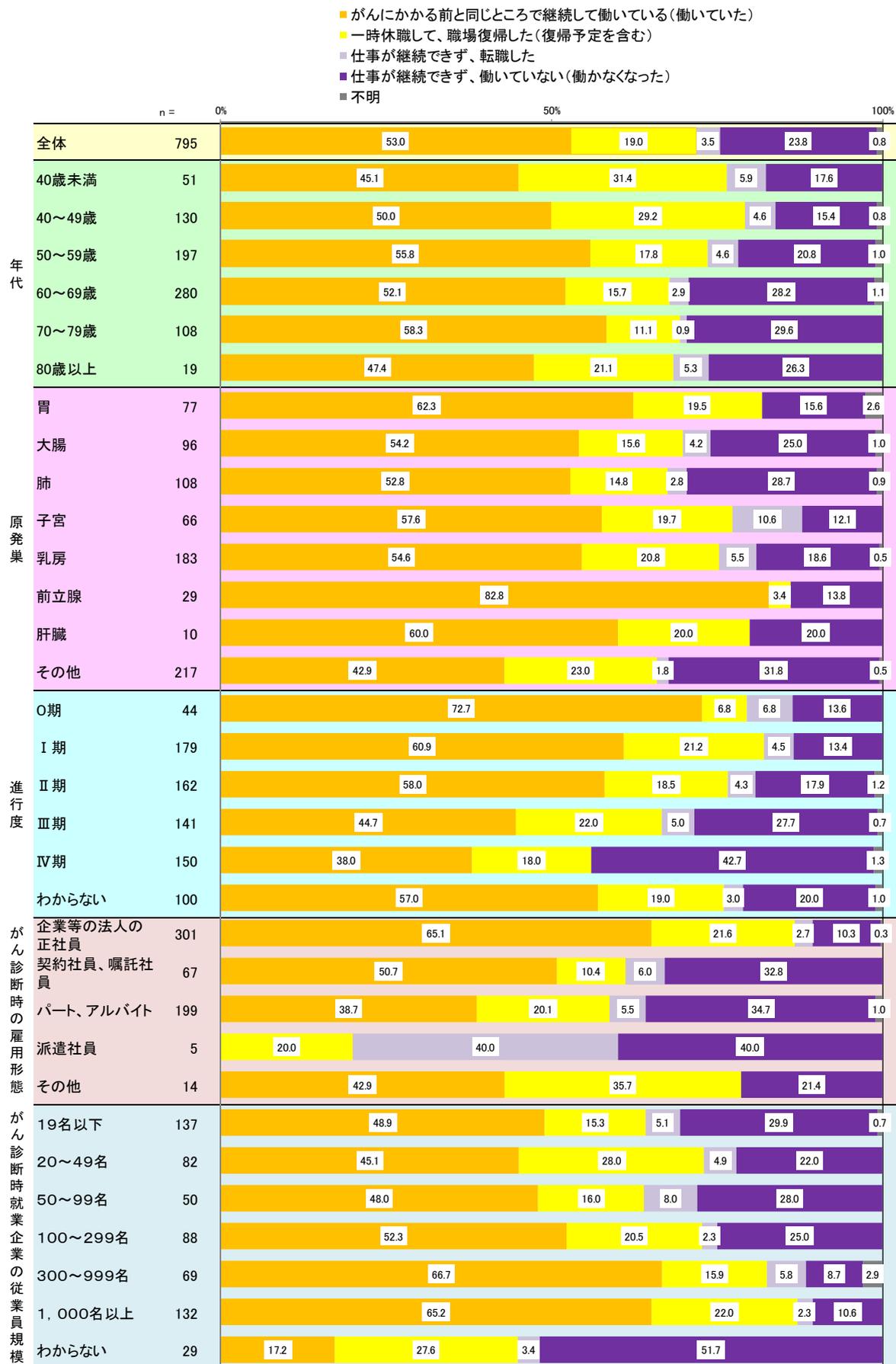


(2) がんを診断された後の労働状況

問 2 2 (問 2 1 で 1 (雇用されていた) または 2 (個人事業主として働いていた) と回答された方) がんと診断された後の状況について教えてください。

- ・がんを診断された後の労働状況として、仕事を継続できたのは全体の 72.0% で、仕事を継続しなかったのは 27.3% であった。
- ・がんを診断後、転職したのは 3.5% と低かった。
- ・男性に比べて女性の離職が高くなっている。
- ・雇用形態別でみると正規雇用より非正規雇用、大規模企業より小規模企業の方が離職率が高い。



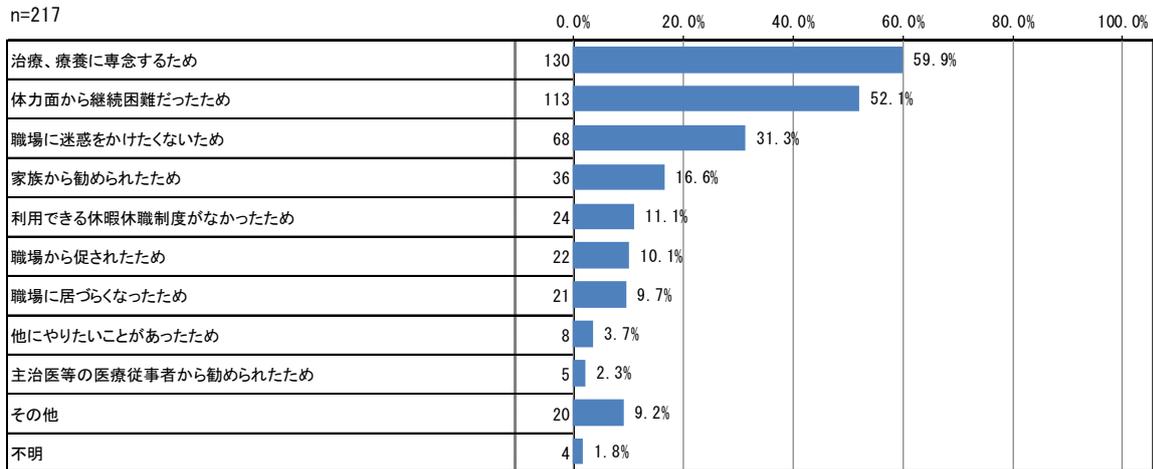


(3) 仕事を継続しなかった理由

問 2 3 (問 2 2 で 3 または 4 と 回答 された 方)

仕事を継続しなかった理由を教えてください。

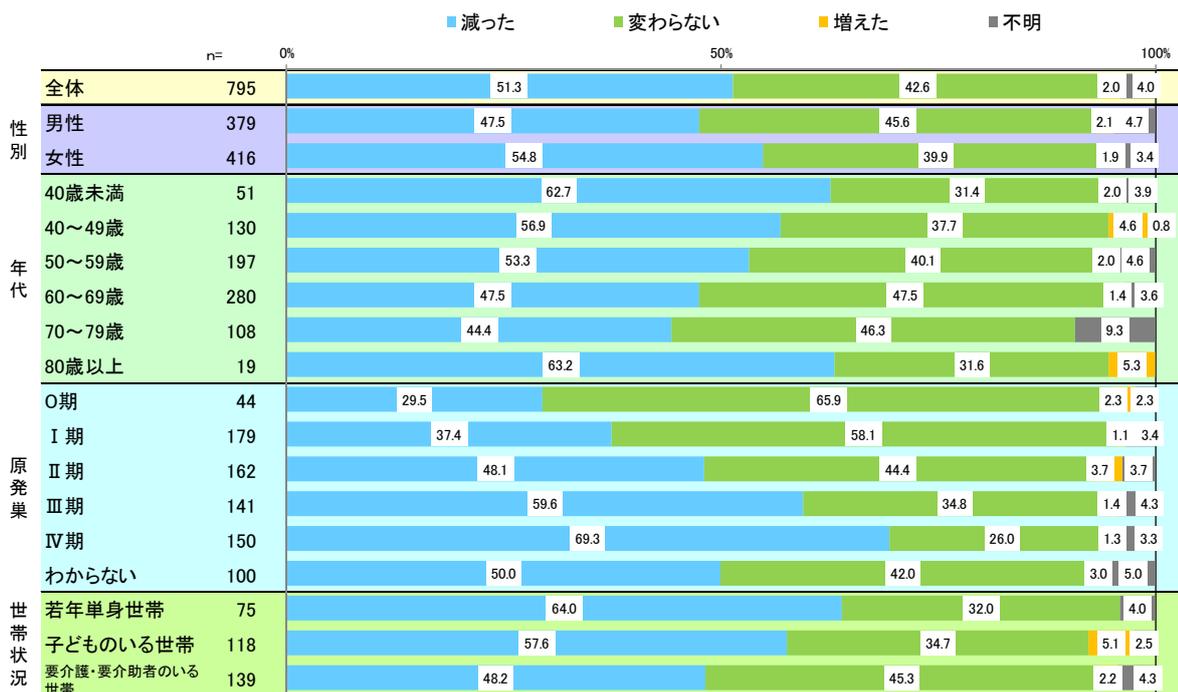
- ・仕事を継続しなかった理由としては「治療、療養に専念」が 59.9% で最も高く、次いで、「体力面」(52.1%)、「職場に迷惑をかけたくない」(31.3%) の順となった。



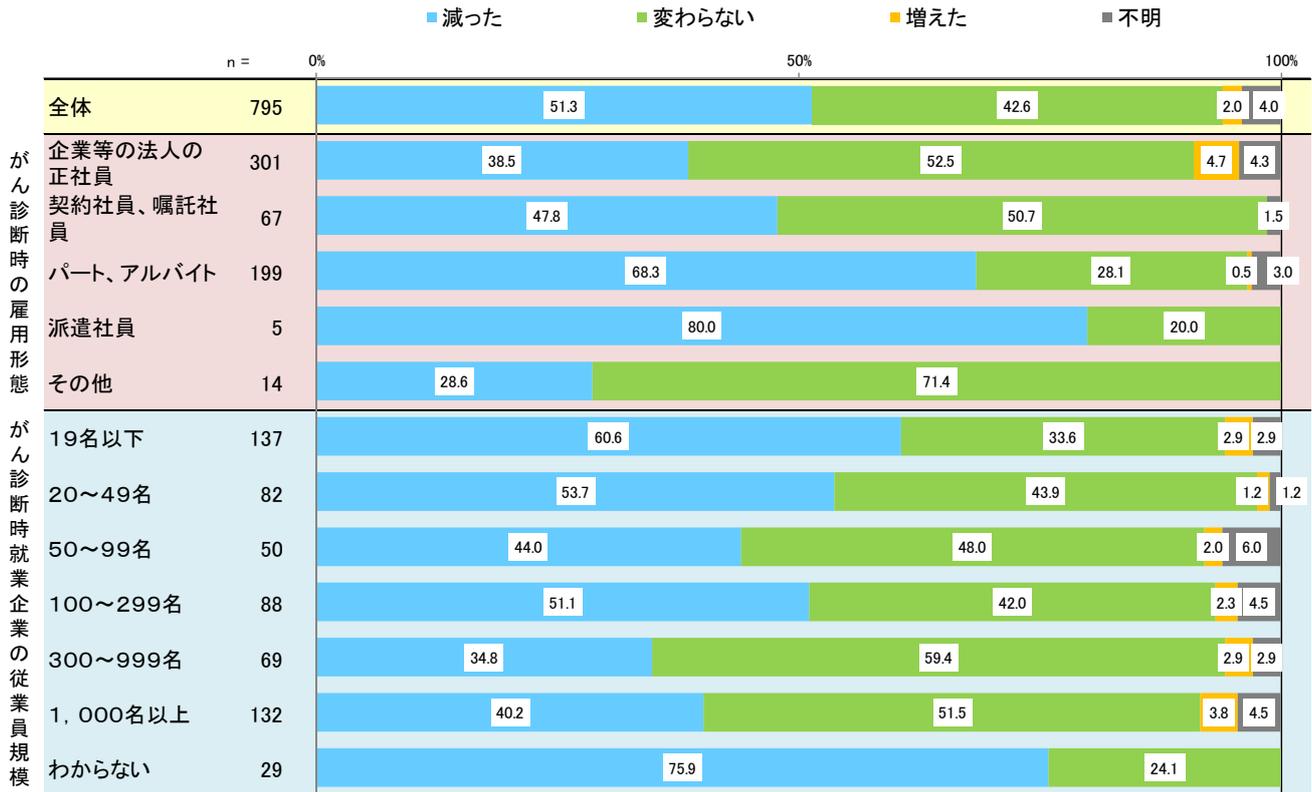
(4) がん罹患後の収入の変化

問 2 4 がん に 罹患 した 後、収入 は 減り ました か？

- ・がん罹患後の収入の変化は、全体の 51.3% と約半数が減収となった。
- ・年代別では、若い人ほど減収の割合が高く、進行度別ではステージが上がるほど減収が高くなっていく。
- ・世帯状況別では、若年単身世帯で減収の割合が高い。



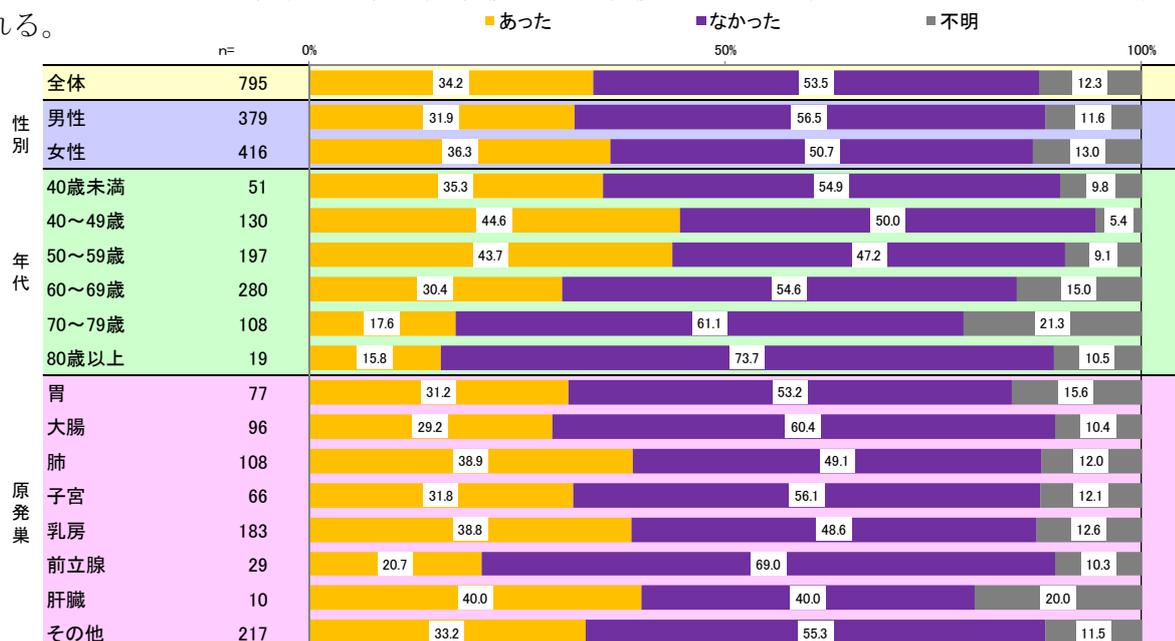
・雇用形態別では非正規雇用が、企業規模別では規模が小さい企業ほど減収が高い傾向が見られる。



(5) がん罹患後の仕事と治療の両立についての相談窓口

問 2 5 がん罹患した後、仕事と治療の両立について相談できる制度や窓口がありましたか？

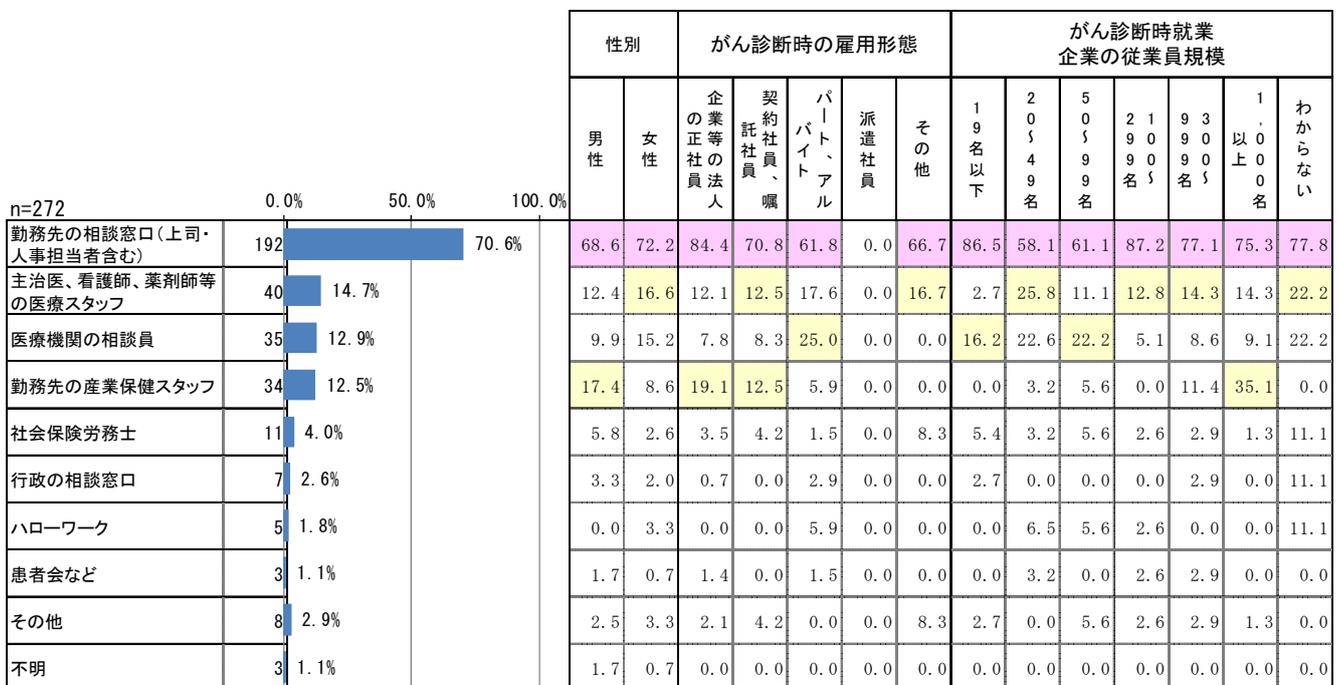
- ・がん罹患後の仕事と治療の両立についての相談窓口については、全体の 34.2%が「あった」と回答した。
- ・雇用形態別では非正規雇用で、企業規模別では規模が小さい企業ほど相談窓口が少ない傾向が見られる。





(問25で「あった」と回答の方) それはどのようなところですか

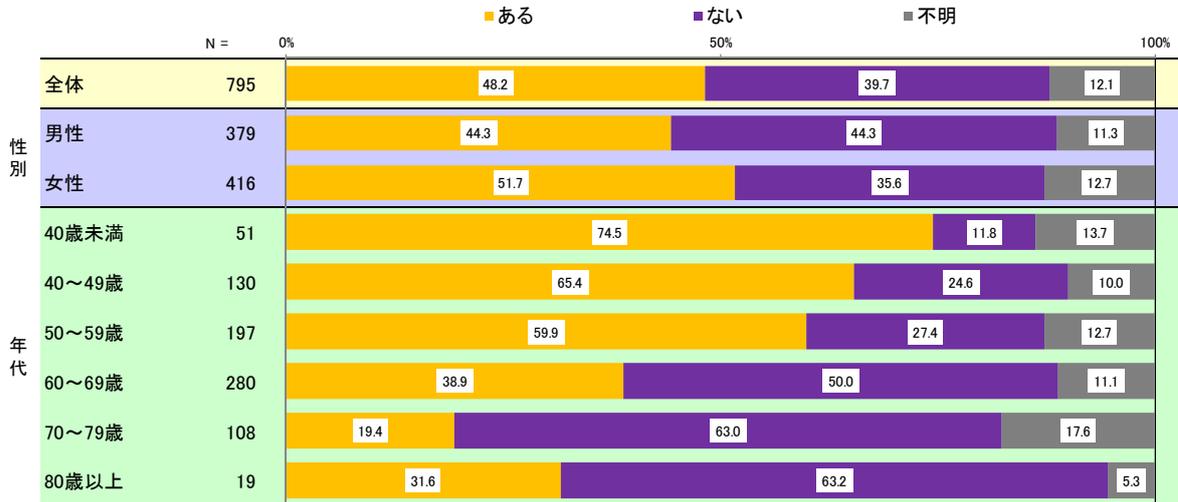
- ・具体的な相談先としては「勤務先の相談窓口」が70.6%と突出して高かった。
- ・正規雇用や規模の大きい企業では「産業保健スタッフ」が相談窓口になっている回答も多かった。



(6) 仕事と治療を両立するための悩み・困難

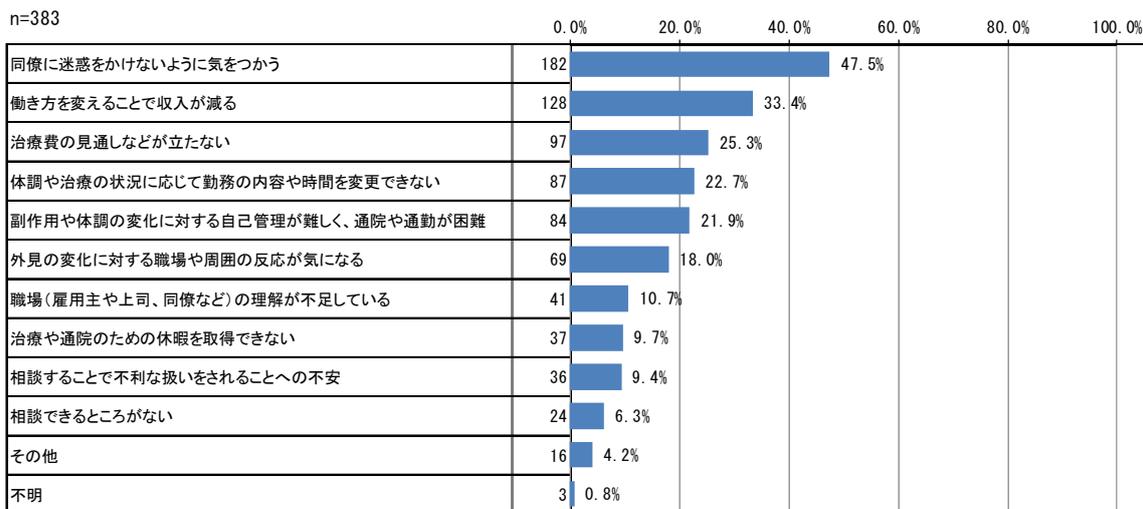
問26 仕事と治療を両立するために悩んだことや困難であったことはありますか？

・仕事と治療を両立するための悩みや困難について、全体の48.2%が「ある」と回答し、59歳以下で半数以上と高くおり、特に40歳未満では、7割以上（74.5%）が、「ある」と回答した。



(問26で「ある」と回答の方) それはどのようなことですか

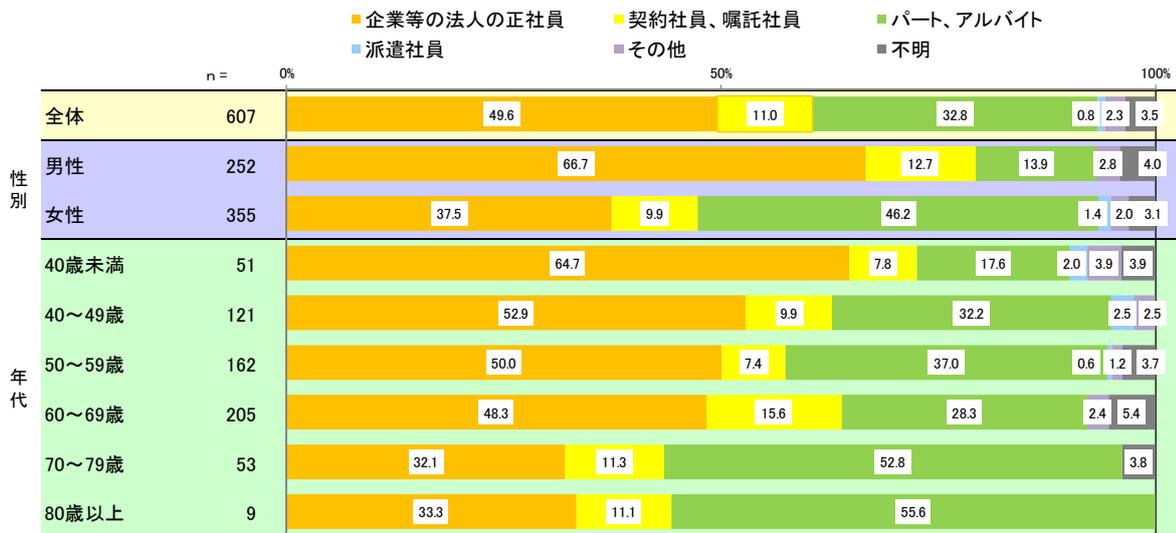
・仕事と治療を両立するための悩みや困難の内容については、「同僚への気遣い」が全体の47.5%と最も多く、「収入が減る」(33.4%)、「治療費の見通しが立たない」(25.3%)、「状況に応じて勤務内容や時間を変更できない」(22.7%)、「自己管理が難しく、通院や通勤が困難」(21.9%)の順となっている。



(7) がん診断時の雇用形態

問 2 7 がんと診断されたとき、どのような立場で働いていましたか？

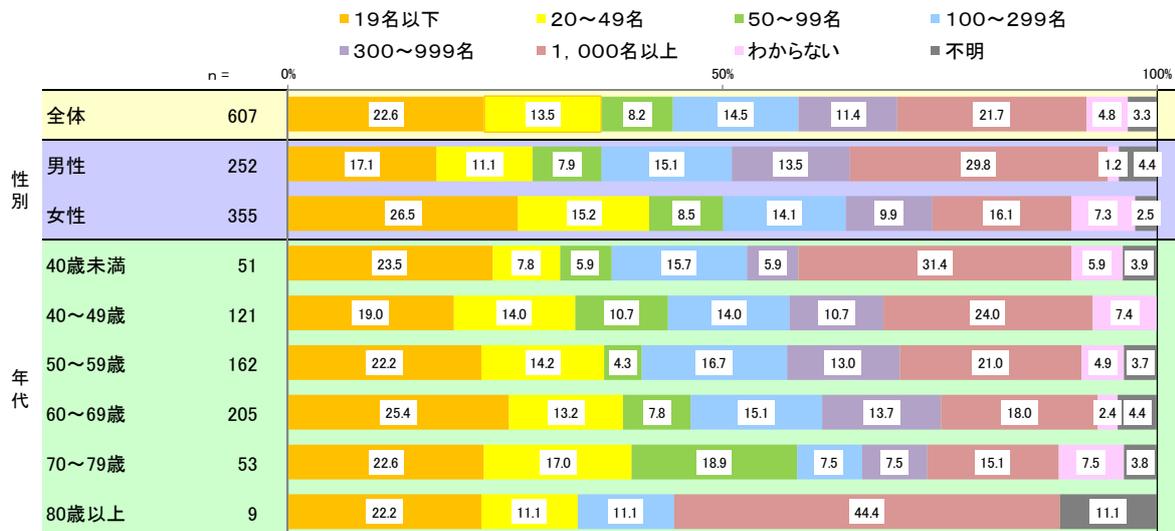
- ・がん診断時の雇用形態は、全体で「正社員」が 49.6%、「契約社員、嘱託社員」、「パート・アルバイト」、「派遣社員」を合わせた非正規雇用は 44.6%であった。
- ・男性より女性の方が非正規雇用の割合が高い。
- ・年代別では高年齢ほど非正規雇用の割合が高い。



(8) がん診断時の雇用企業の従業員規模

問 2 8 がんと診断されたときに働いていた企業等の従業員規模を教えてください。

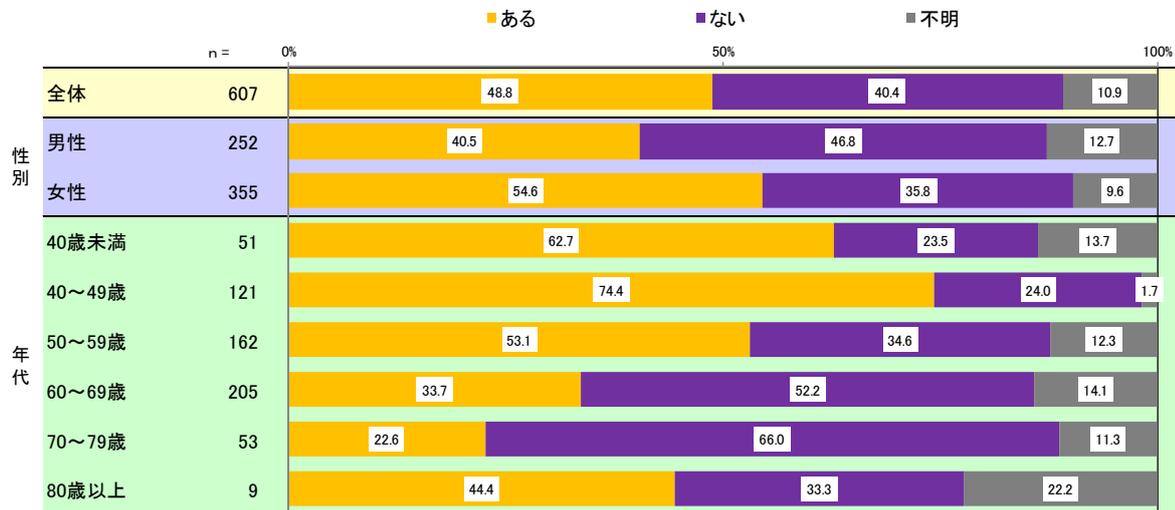
- ・性別に見ると女性の方が小規模企業の割合が高い。



(9) がん罹患後勤務先に求める配慮

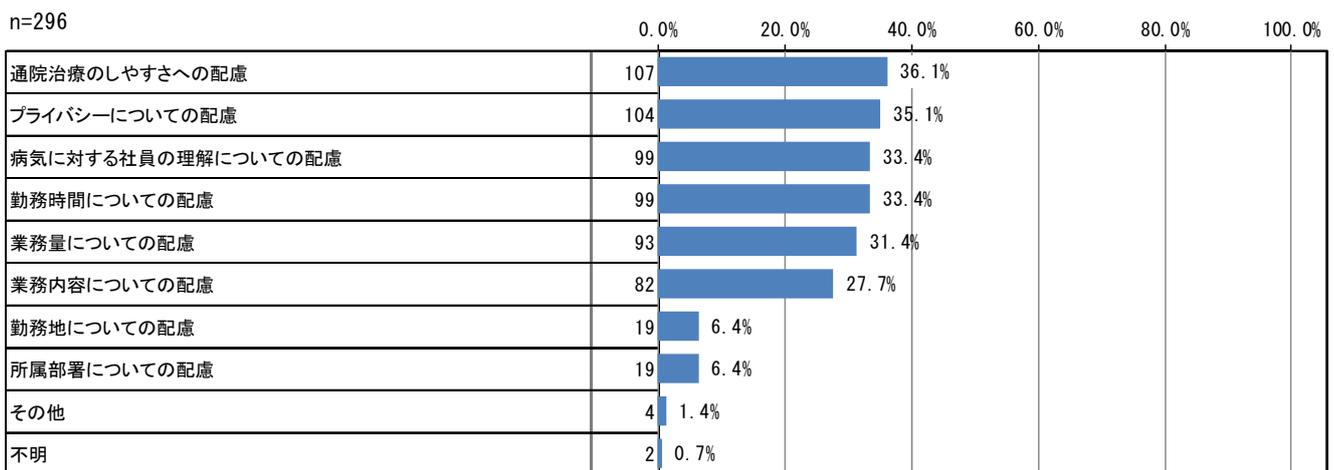
問 29 がんにかかった後、勤務先で配慮してほしいことはありましたか？

- ・がん罹患後、勤務先に配慮を求めることが「ある」と回答したのは全体の 48.8%と約半数であった。
- ・性別では女性の方が高く、年代別では 59 歳以下で半数以上と高くなっている。



(問 29 で「ある」と回答の方) それはどのようなことですか【3MA】

- ・求める配慮の具体的な内容としては、「通院治療のしやすさ」(36.1%)、「プライバシー」(35.1%)、「病気に対する社員の理解」(33.4%)、「勤務時間」(33.4%)、「業務量」(31.4%)、「業務内容」(27.7%)が、いずれも 3 割前後で大きな差は無かった。

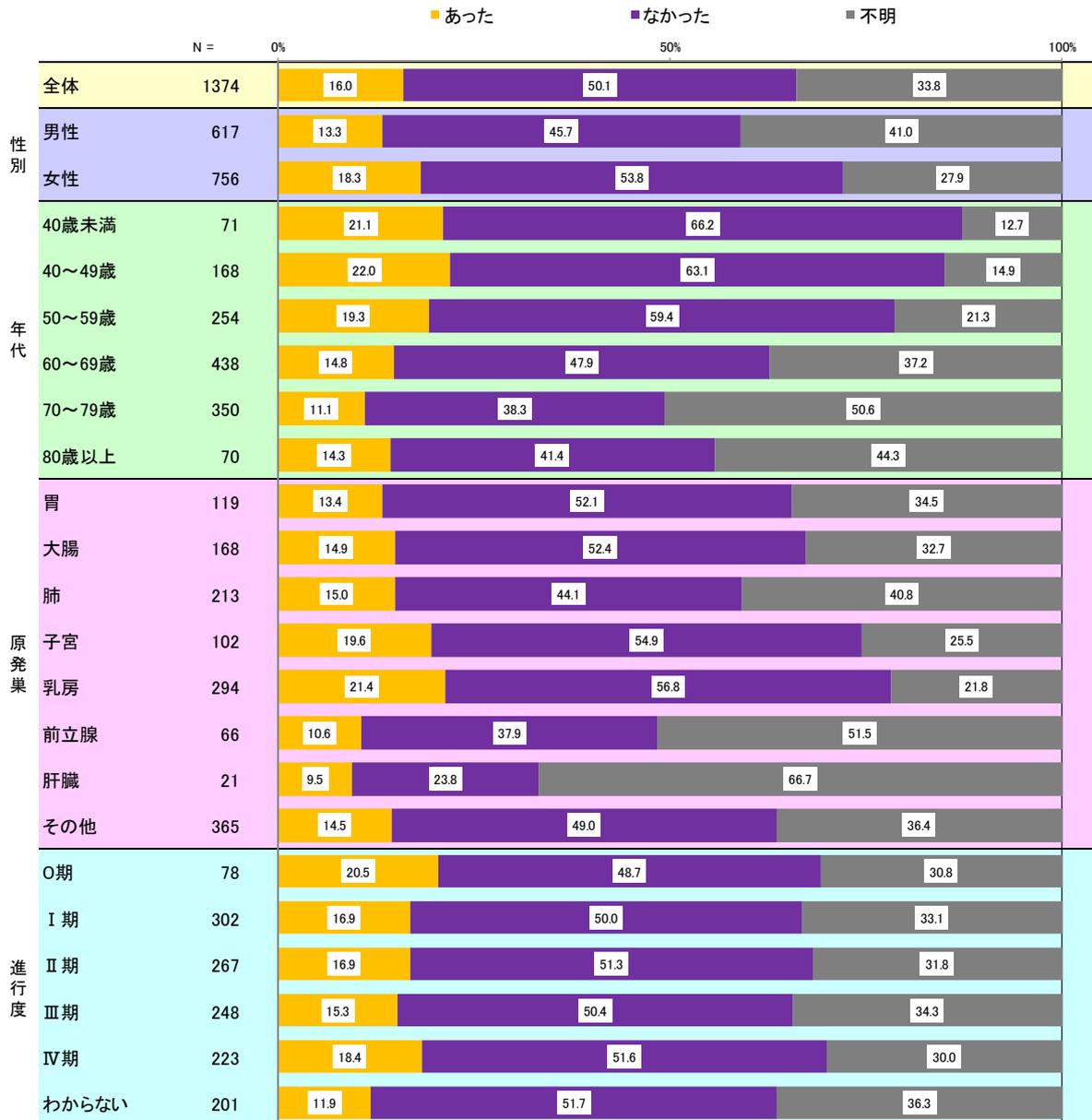


5：子育て・介護・家事と治療の両立について

(1) がん診断後の子育て・介護・家事と治療の両立についての相談窓口

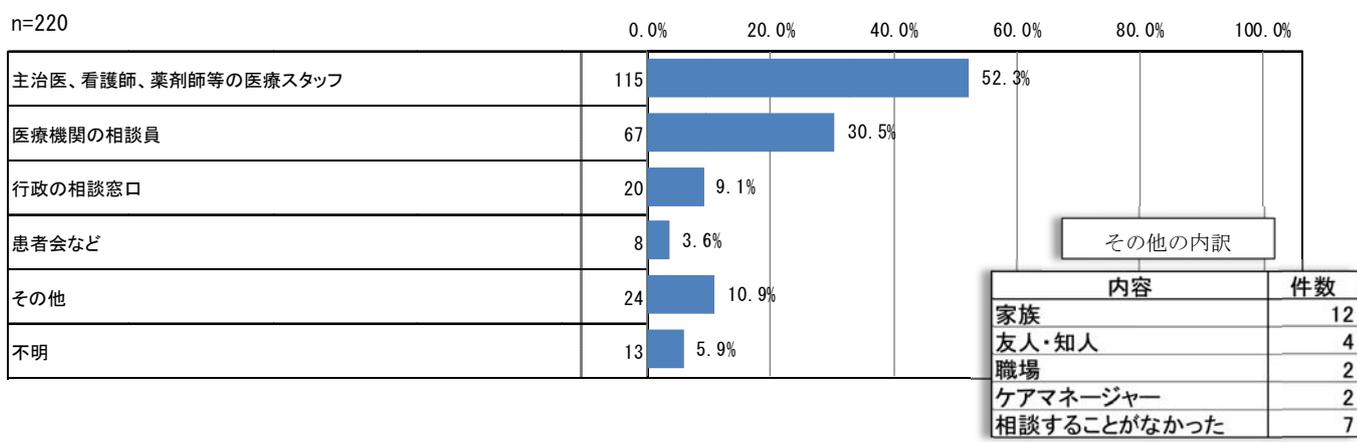
問30 がんに罹患した後、子育てや介護、家事と治療の両立について相談できる制度や窓口がありましたか？

・がん罹患後の子育て・介護・家事と治療の両立の相談窓口については、全体の約5割（50.1%）が「なかった」と回答した。



（問30で「あった」と回答の方）それはどのようなところですか【複数回答】

・がん罹患後の子育て・介護・家事と治療の両立の具体的な相談窓口については、「主治医、看護師、薬剤師等の医療スタッフ」が52.3%で最も高く、次いで「医療機関の相談員」が30.5%であった。



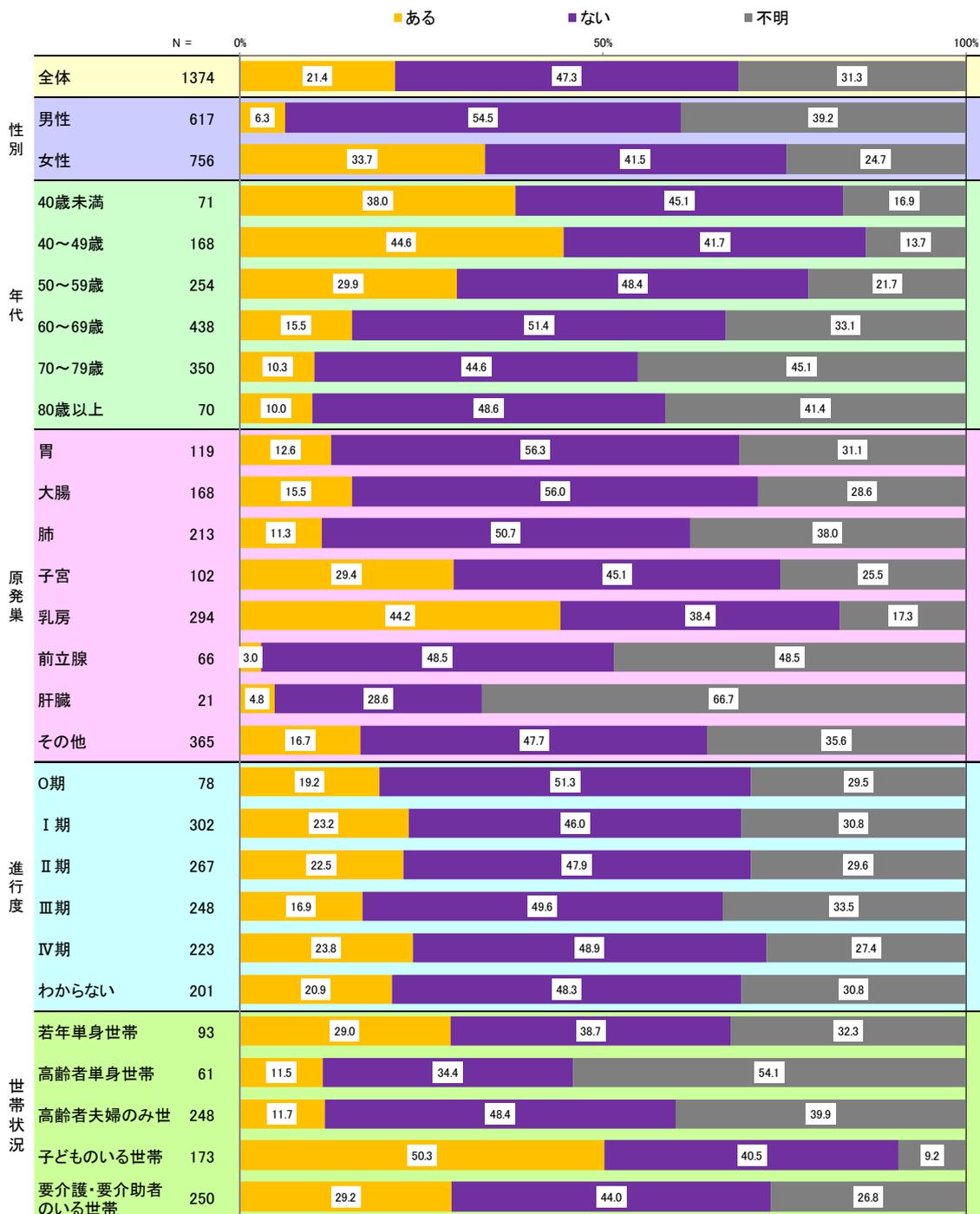
		調査数	医療機関の相談員	主治医、看護師、薬剤師等の医療スタッフ	患者会など	行政の相談窓口	その他	不明
全体		220	30.5	52.3	3.6	9.1	10.9	5.9
性別	男性	82	31.7	57.3	1.2	11.0	11.0	1.2
	女性	138	29.7	49.3	5.1	8.0	10.9	8.7
年代	40歳未満	15	26.7	60.0	0.0	0.0	13.3	0.0
	40～49歳	37	29.7	62.2	8.1	8.1	10.8	5.4
	50～59歳	49	36.7	40.8	2.0	14.3	10.2	4.1
	60～69歳	65	32.3	41.5	3.1	15.4	10.8	10.8
	70～79歳	39	25.6	59.0	5.1	0.0	12.8	5.1
	80歳以上	10	10.0	90.0	0.0	0.0	10.0	0.0
原発巣	胃	16	37.5	50.0	0.0	6.3	31.3	0.0
	大腸	25	36.0	52.0	0.0	12.0	0.0	12.0
	肺	32	18.8	62.5	0.0	15.6	9.4	6.3
	子宮	20	25.0	55.0	10.0	5.0	5.0	5.0
	乳房	63	30.2	49.2	7.9	4.8	12.7	4.8
	前立腺	7	28.6	71.4	0.0	14.3	14.3	0.0
	肝臓	2	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	53	34.0	47.2	1.9	11.3	11.3	5.7	
進行度	0期	16	18.8	56.3	6.3	12.5	12.5	0.0
	I期	51	33.3	52.9	7.8	5.9	7.8	3.9
	II期	45	26.7	55.6	2.2	4.4	15.6	6.7
	III期	38	31.6	57.9	5.3	7.9	13.2	2.6
	IV期	41	19.5	53.7	0.0	22.0	9.8	12.2
	わからない	24	54.2	37.5	0.0	4.2	8.3	0.0

1番高い数値 2番目の数値

(2) 子育て・介護・家事と治療を両立するための悩み・困難

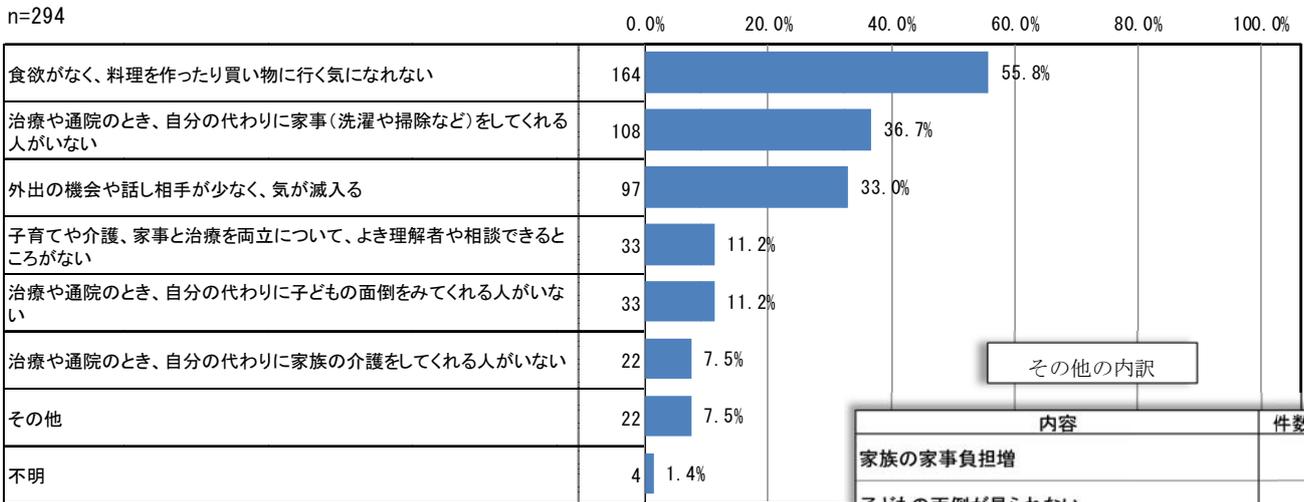
問3 1 子育て・介護・家事と治療を両立するために悩んだことや困難であったことはありますか？

- ・子育て・介護・家事と治療を両立するための悩みや困難については、全体の21.4%が「ある」と回答した。
- ・性別で見ると女性の33.7%が「ある」としているのに対し、男性は6.3%にとどまる。
- ・年代別では49歳以下で高く、子供のいる世帯では50.3%となった。



(問31で「ある」と回答の方) それほどのようなことですか【3MA】

- ・子育て・介護・家事と治療を両立するための悩みや困難の内容については、「食欲がなく、料理や買い物をする気になれない」が55.8%と最も高く、次いで「自分の代わりに家事をしてくれる人がいない」が36.7%であった。
- ・子供のいる世帯では「自分の代わりに子どもの面倒をみってくれる人がいない」(31.0%)も高かった。



内容	件数
家族の家事負担増	3
子どもの面倒が見られない	2
サポートしてくれる人がいない	2
今までどおり仕事ができるかどうか	1
重いものが持てなくなり、一人で買い物難しかった。	1
気分がめいる	1
近所の詮索が煩わしい	1
心のケア	1
子育てするための子供ほしいのだが、こんな身体じゃ結婚できない	1
今後も周囲がサポートを継続していけるか	1
仕事を辞めた	1
食生活の相談	1
職場の理解が足りない	1
治療のため親と同居したら保育所をやめさせられた	1
配偶者も身障者の為日常生活が大変	1

		調査数	1番高い数値	2番目の数値	その他	不明
全体		294	55.8	36.7	33.0	1.4
性別	男性	39	33.3	28.2	15.4	0.0
	女性	255	59.2	38.0	32.2	1.6
年代	40歳未満	27	55.6	40.7	14.8	0.0
	40~49歳	75	56.0	37.3	17.3	0.0
	50~59歳	76	61.8	34.2	14.5	1.3
	60~69歳	68	57.4	39.7	11.8	0.0
	70~79歳	36	44.4	30.6	16.7	5.6
	80歳以上	7	57.1	42.9	14.3	0.0
原発巣	胃	15	66.7	46.7	13.3	0.0
	大腸	26	50.0	26.9	7.7	0.0
	肺	24	50.0	29.2	8.3	0.0
	子宮	30	53.3	23.3	6.7	3.3
	乳房	130	61.5	44.6	15.4	1.5
	前立腺	2	100.0	50.0	0.0	0.0
	その他	61	49.2	34.4	8.2	1.6
進行度	0期	15	53.3	60.0	26.7	0.0
	I期	70	44.3	42.9	11.4	0.0
	II期	60	63.3	31.7	6.7	1.7
	III期	42	64.3	35.7	7.1	0.0
	IV期	53	66.0	35.8	9.4	1.9
	わからない	42	52.4	35.7	7.1	2.4
世帯状況	若年単身世帯	27	70.4	59.3	3.7	3.7
	高齢者単身世帯	7	42.9	57.1	0.0	0.0
	高齢者夫婦のみ世帯	29	44.8	24.1	6.9	3.4
	子どものいる世帯	87	56.3	37.9	2.3	2.3
	要介護・要介助者のいる世帯	73	50.7	37.0	11.0	0.0

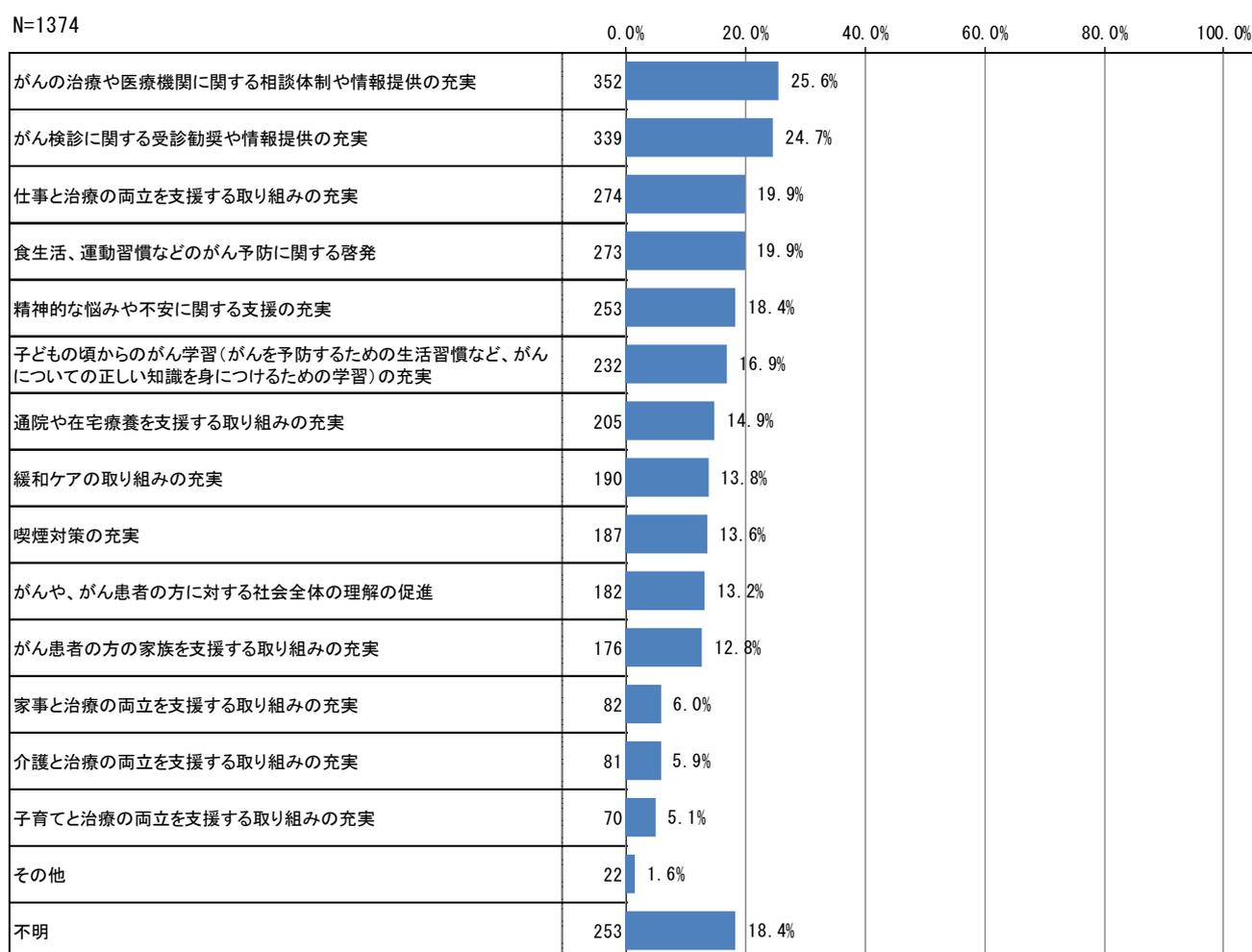
1番高い数値 2番目の数値

6:名古屋市のがん対策について

問32 名古屋市のがん対策において充実すべきだと思うことを教えてください。

【3MA】

- ・名古屋市のがん対策において充実すべきことについて、全体では「がんの治療や医療機関に関する相談体制や情報提供」が25.6%と最も高く、次いで「がん検診に関する受診勧奨や情報提供」(24.7%)、「仕事と治療の両立支援」(19.9%)、「がん予防に関する啓発」(19.9%)の順となった。



- ・年代別では40歳未満から49歳までが「仕事と治療の両立支援」が最も高い。
- ・世帯別では、若年単身世帯は「仕事と治療の両立支援」、「がん検診に関する受診勧奨や情報提供」の順となっており、子どものいる世帯では「仕事と治療の両立支援」、「がん検診に関する受診勧奨や情報提供」、「子供の頃からのがん学習の充実」の順となっている。

		調査数	啓発生活、運動習慣などのがん予防に関する	子どもの頃からのがん学習（がんを予防するための生活習慣など、がんについての正しい知識を身につけるための学習）の充実	喫煙対策の充実	がん検診に関する受診勧奨や情報提供の充実	がんの治療や医療機関に関する相談体制や情報提供の充実	緩和ケアの取り組みの充実	精神的な悩みや不安に関する支援の充実	通院や在宅療養を支援する取り組みの充実	仕事と治療の両立を支援する取り組みの充実	子育てと治療の両立を支援する取り組みの充実	介護と治療の両立を支援する取り組みの充実	家事と治療の両立を支援する取り組みの充実	がん患者の方の家族を支援する取り組みの充実	がんや、がん患者の方に対する社会全体の理解の促進	その他	不明
全体		1374	19.9	16.9	13.6	24.7	25.6	13.8	18.4	14.9	19.9	5.1	5.9	6.0	12.8	13.2	1.6	18.4
性別	男性	617	23.5	15.4	16.9	26.7	26.3	9.1	16.0	14.6	18.8	2.6	6.3	2.4	13.1	10.5	1.1	20.4
	女性	756	16.7	41.7	8.3	25.0	8.3	0.0	25.0	16.7	41.7	16.7	0.0	0.0	8.3	33.3	0.0	8.3
年代	40歳未満	71	27.3	15.2	12.1	18.2	12.1	6.1	18.2	21.2	30.3	9.1	3.0	9.1	18.2	15.2	0.0	15.2
	40～49歳	168	17.3	16.0	13.6	24.7	25.9	6.2	21.0	13.6	33.3	3.7	2.5	3.7	14.8	19.8	2.5	12.3
	50～59歳	254	22.1	13.1	17.1	27.9	31.5	8.1	13.5	15.8	20.3	1.4	9.0	1.8	15.8	12.2	1.4	18.0
	60～69歳	438	26.7	18.6	19.5	29.5	24.8	11.9	14.3	11.0	11.4	1.9	4.8	1.9	9.5	5.2	0.0	26.7
	70～79歳	350	26.5	6.1	14.3	18.4	24.5	8.2	20.4	16.3	8.2	2.0	10.2	2.0	14.3	4.1	4.1	22.4
	80歳以上	70	16.8	18.1	11.0	22.9	25.1	17.6	20.4	15.2	20.9	7.1	5.6	8.9	12.6	15.5	2.0	16.8
原発巣	胃	119	32.8	15.1	12.6	38.7	21.8	10.9	14.3	15.1	14.3	3.4	5.0	3.4	7.6	11.8	0.8	17.6
	大腸	168	24.4	18.5	8.3	27.4	26.8	7.7	17.9	16.1	20.8	4.8	6.5	6.0	14.9	13.1	2.4	17.9
	肺	213	13.6	16.4	21.1	19.2	26.8	14.1	16.4	10.8	16.0	2.8	6.1	6.1	14.1	10.3	0.9	23.0
	子宮	102	17.6	30.4	7.8	22.5	25.5	15.7	24.5	12.7	29.4	7.8	7.8	8.8	12.7	11.8	2.0	10.8
	乳房	294	19.4	17.7	12.6	22.8	28.2	15.3	23.5	14.3	25.2	8.2	4.4	9.9	14.3	18.0	2.0	13.6
	前立腺	66	28.8	19.7	18.2	36.4	28.8	9.1	16.7	10.6	12.1	0.0	6.1	1.5	4.5	3.0	0.0	19.7
	肝臓	21	23.8	9.5	14.3	14.3	23.8	9.5	4.8	14.3	9.5	0.0	4.8	0.0	9.5	0.0	0.0	42.9
	その他	365	15.9	13.4	13.7	22.2	23.6	15.3	16.7	18.4	19.5	5.2	6.3	4.1	13.4	14.2	1.6	20.8
進行度	0期	78	19.2	17.9	7.7	25.6	21.8	20.5	21.8	7.7	20.5	3.8	7.7	5.1	14.1	16.7	2.6	19.2
	I期	302	21.5	16.2	14.6	28.5	27.5	15.9	21.2	11.9	24.8	6.0	6.3	7.3	9.3	10.9	1.7	16.9
	II期	267	22.5	18.7	16.9	24.7	26.6	11.6	17.6	14.6	21.7	4.5	5.6	5.2	10.9	16.9	1.5	16.5
	III期	248	21.8	16.5	16.1	25.0	26.2	10.1	21.0	12.1	16.5	4.4	4.8	3.2	14.5	11.7	1.2	19.4
	IV期	223	13.5	16.1	7.2	24.2	27.8	16.6	18.4	20.6	17.5	6.7	6.7	7.2	18.4	13.9	1.3	16.6
	わからない	201	17.9	19.4	15.9	17.9	22.9	9.5	12.9	19.9	19.9	4.0	6.0	7.0	13.4	10.4	2.0	21.9
世帯状況	若年単身世帯	93	21.5	12.9	7.5	33.3	30.1	10.8	24.7	20.4	40.9	5.4	5.4	3.2	8.6	17.2	1.1	8.6
	高齢者単身世帯	61	13.1	4.9	4.9	13.1	23.0	18.0	18.0	16.4	9.8	0.0	6.6	3.3	6.6	8.2	1.6	39.3
	高齢者夫婦のみ世帯	248	26.6	17.3	19.0	23.4	22.6	13.3	15.7	14.5	8.5	1.6	5.6	4.0	9.3	6.9	1.6	23.4
	子どものいる世帯	173	16.8	24.3	11.6	24.9	18.5	14.5	23.1	16.8	25.4	24.3	2.9	12.1	17.9	15.6	2.9	7.5
	要介護・要介助者のいる世帯	250	17.2	16.8	15.6	18.8	24.0	16.0	19.6	12.8	18.8	5.6	15.6	7.2	17.2	13.2	1.2	16.8
居住地	名古屋市内	589	19.4	16.8	13.9	26.1	29.7	15.1	19.7	17.3	19.5	6.8	5.8	7.0	13.2	14.3	1.9	13.1
	名古屋市外	781	20.2	16.9	13.4	23.6	22.7	12.9	17.3	13.1	20.2	3.8	6.0	5.2	12.5	12.5	1.4	22.4
	不明	4	25.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	50.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0

1番高い数値 2番目の数値 3番目の数値

II：調査結果 ⑤病院

1：患者からの悩み相談

- ・患者からの悩み相談の頻度と課題について、全体で頻度が「多い」悩みは、「療養先の選択や、介護保険サービス等の使い方」、「通院治療や在宅療養」、「仕事と治療の両立や経済的なこと」の順となった。
- ・悩み相談全体の頻度としては平均点 3.2 と「普通(3点)」より若干多い頻度であった。

- ・悩みに対する課題として、
 - ：「療養先の選択や、介護保険サービス等の使い方」・「通院治療や在宅療養」については「関係機関との連携」
 - ：「仕事と治療の両立や経済的なこと」・「子育てや家事と治療の両立」については「相談窓口の情報が不足している」、
 - ：「治療方法の選択や医療機関スタッフとのコミュニケーションなど」・「治療中・治療後の症状や日常生活」・「外見の変化」・「精神的な悩み」については「悩みに関する知識や情報が不足している」、が多かった。

	頻度						平均	課題						
	多い (5)	やや多い (4)	普通 (3)	やや少ない (2)	少ない (1)	不明		悩みに関する知識や情報が不足している	相談窓口の情報が不足している	関係機関との連携	課題はない	不明		
全体(N=22) 件数表														
1 療養先の選択や、介護保険サービス等の使い方などの悩み	12	3	5	1	1	0	4.1	3	2	8	6	3		
2 通院治療や在宅療養についての悩み	12	3	5	1	1	0	4.1	4	5	8	6	3		
3 仕事と治療の両立や経済的なことに関する悩み(治療費や生活費など)	6	3	9	3	0	1	3.6	5	7	4	5	4		
4 精神的な悩み(再発の不安や漠然とした不安、孤独感など)	11	1	4	1	5	0	3.5	9	5	3	4	3		
5 治療中・治療後の症状や、日常生活(食事や運動、入浴、趣味など)についての悩み	8	2	5	1	4	2	3.5	11	2	5	4	2		
6 治療方法の選択や医療機関スタッフとのコミュニケーションなどについての悩み	8	1	5	3	4	1	3.3	8	1	7	4	2		
7 子育てや家事と治療の両立についての悩み	1	0	6	4	9	2	2.0	4	8	4	6	2		
8 外見の変化についての悩み	1	0	5	3	12	1	1.8	8	5	5	4	2		
9 その他(n=4)	1	0	0	0	3	0	2.0	0	1	1	1	1		
平均(その他除く)	7.4	1.6	5.5	2.1	4.5	0.9	3.2							

一番多い
二番目に多い

※平均・・・頻度の回答を「多い」5点、「やや多い」4点、「普通」3点、「やや少ない」2点、「少ない」1点と点数化した時の平均点

2:患者会やサロンの開催

問2 がん患者の患者会やサロンの実施状況についてお尋ねします

(1) 病院において、がん患者の患者会やサロンを実施していますか

- ・病院におけるがん患者の患者会やサロンの実施状況について、全体では22件中14件が実施しており、そのうち11件の病院が主体的に企画、運営している。
- ・がん拠点病院では、11件全てが患者会やサロンを実施しており、そのうち10件の病院が主体的に企画、運営しているのに対し、一般病院では、実施しているのは11件中3件にとどまる。
- ・実施頻度としては、「月に1回」が6件で最も多い。

件数表	調査数	実施している			
		実施していない (把握していない)	場所を貸しているのみ	病院が主催している が、企画、運営は参加 者が行っている	病院が主体的に企画、 運営している
全体	22	8	1	2	11
がん拠点病院	11	0	0	1	10
一般病院	11	8	1	1	1

頻度	3.4ヶ月に1回	3ヶ月に1回	月2回	月1回	2ヶ月に1回	3ヶ月に1回	不明
	1件	1件	1件	6件	2件	1件	1件

(2) (実施している場合) どのようながん種について実施していますか

- ・がん患者の患者会やサロンを、がん種別に実施しているのは全体では14件中5件であった。
- ・がん拠点病院では、がん種別に実施しているのは11件中2件で、一般病院では3件全てががん種別に実施している。
- ・がん種別の内容は、乳房が5件と最も多く、次いで大腸(3件)、胃・甲状腺(各1件)であった。

件数表	調査数	がん種別には 実施していない	わからない (把握していない)	がん種別に 実施している
全体	14	9	0	5
がん拠点病院	11	9	0	2
一般病院	3	0	0	3

		がん種別				
		調査数	胃	大腸	乳房	甲状腺
拠点 病院	合計	5	1	3	5	1
	がん拠点病院	2	1	1	2	0
	一般病院	3	0	2	3	1

3:ピアサポートについて

(1)ピアサポートの実施

問3 がんの「ピアサポート」について

(1) 病院において、がんの「ピアサポート」を実施していますか

- ・病院における「ピアサポート」の実施状況は、全体では22件中8件と半数以下であった。
- ・がん拠点病院では11件中7件が「ピアサポート」を実施しているのに対し、一般病院では、11件中1件の実施にとどまる。

件数表	調査数	実施している	実施していない	わからない
全体	22	8	13	1
がん拠点病院	11	7	4	0
一般病院	11	1	9	1

(2)ピアサポートの必要性

(2) 病院における、がんの「ピアサポート」が必要だと思いますか

- ・病院における「ピアサポート」の必要性について、全体では22件中18件が「必要」としており、「不必要」とする回答は見られなかった。

件数表	調査数	必要		不必要		わからない
		必要である	どちらかと言えば必要である	あまり必要ではない	必要ではない	
全体	22	12	6	0	0	4
がん拠点病院	11	8	2	0	0	1
一般病院	11	4	4	0	0	3

4: 名古屋市のがん対策について

(1) がん患者支援に関する名古屋市への期待

問4 がん患者の支援に関して、名古屋市に対して、どのようなことを期待しますか

- ・がん患者の支援に関して名古屋市に対して期待することとして、全体では「仕事と治療の両立を支援」が22件中17件で最も多く、次いで「通院や在宅療養を支援」が15件、「緩和ケアへの取り組みの充実」と「介護と治療の両立を支援」がそれぞれ14件の順となった。
- ・がん拠点病院では、「仕事と治療の両立を支援」が11件中9件で最も多く、次いで多いのは「緩和ケアへの取り組みの充実」と「通院や在宅療養を支援」でそれぞれ7件であった。
- ・一般病院では、「がん患者の方の家族を支援」が11件中9件で最も多く、次いで多いのは「がん治療や医療機関に関する相談体制や情報提供」、「通院や在宅療養を支援」、「仕事と治療の両立を支援」、「介護と治療の両立を支援」でそれぞれ8件であった。

件数表	全体(N=22)	がん拠点病院(n=11)	一般病院(n=11)
仕事と治療の両立を支援する取り組みの充実	17	9	8
通院や在宅療養を支援する取り組みの充実	15	7	8
緩和ケアへの取り組みの充実	14	7	7
介護と治療の両立を支援する取り組みの充実	14	6	8
がん患者の方の家族を支援する取り組みの充実	13	4	9
がんの治療や医療機関に関する相談体制や情報提供の充実	11	3	8
子育てと治療の両立を支援する取り組みの充実	11	4	7
がんや、がん患者の方に対する社会全体の理解の促進	11	6	5
精神的悩みや不安に関する支援の充実	10	5	5
家事と治療の両立を支援する取り組みの充実	7	1	6
その他	3	2	1

一番多い
二番目に多い